軍艦の數は以上述ぶるが如くであり、其種類も略々只今陳ずる通りであるが、此等の軍艦はどうして出來たかと云ふと、人民の力に依つて出來たものである。次ぎに又陸軍はどう云ふ情態であるかと云ふと、封建時代には大小を横へた侍なるものが武士と唱へられて兵備に當つたのであるが、今日は人民から之を選拔するのである。而して人の發達して一番力の强い盛な時は成年に及んだ時であつて、我日本人民の中より成年に達して發達も十分に且つ健全なる者を拔いて陸軍の兵士と爲すのであるから、是以上精練なる兵を作ると云ふことは出來ぬ。それで今は精良の兵力を擴張しつゝあるのであつて、十有餘年を經れば戰時に當つて五十萬の兵を動すことが出來るのである。平素に於ては十五萬の常備軍を置て跡は豫備と後備とで補ふのであるから、戰時にあらざれば之を悉く召集すると云ふことはない。之も人の數が集つたからと云ふて可いのではない今の陸軍などに於ては、武器の改良と云ふことが尤も必要である。武器の頗る精鋭なる物を之れに與へなければならぬ。此武器は既に日本に於て發明をしたる所の小銃を用ゐしめ、野戰砲の如きも亦日本で製造すると云ふやうになつて居る。此の如くにして段々武器の改良も出來、且つ硝藥も普通の燔硝を用ゐずして綿火藥を用ゐると云ふやうに進步して居る。從て又此等に向つては非常なる入費を要して居るのである。五十萬の兵士に供給する丈けの戎器彈藥其他百般の武器を具ふるには仲々容易ならざる金額を要するのである。之を舊幕の末年に比較すると百倍以上の力と言つても可からう、否、二百倍にもなるかも知らぬ。併し兵に一番必要とする所は第一健康にして且敎育のあることである。敎育のある兵隊でなければ紀律節制の下に動くことは出來ぬ。以上の如く海陸軍の二つの進步を以て見ても、此の三十年の間に於て此の如き進步が出來たことは實に驚くの外はないのである。而して此の供給をした者は日本の國民であるが、併し政治の仕方——政體と云ふものも非常に人民の上に關係を持ち國家の上に關係を持つと云ふことを考へねばならぬ。舊幕時代の如き政治政體であつたならば、日本は今日の支那と殆んど選ぶ所はなく、國を守るに足るほどの勢力を持たぬであらうと思ふが、幸に政體の變遷及び國民の敎育、國民の勤勉と云ふものに依つて產み出した所の資力の結果、此の如き進步を致したのである。誰でも之を能く考へて見たならば自ら皆分ることでありませうし、又年を取つて居る人は大概此經過に遭遇して居るから能く記憶されて居る事であらうと考へる。

次に一般社會の上に於て如何なる事が行はるゝかと云ふと、只今も途中で見たのであるが、私が三十年以前と今日とを比較して見て殊に感じたのは、彼の學校に通つて居る子供である。此村落などは人口がどの位あるか知らぬが、男女共に學に就て居る子供が餘程多いと見受けらるゝ。

此等の事は維新前に於ては殆どなかつた事である。近年日本全國に於て學に就かなければならぬ子供が年々どの位あるかと云ふと、先づ昨年あたりの統計に依つて見ても八百萬人位はある。而して今學に就て居る者は確には覺えぬが五百萬近くあると考へる。敎育の普及發達が今日異常なる盛況を呈して居ると云ふことは疑を容れぬ所であるが、尙今後に於ても敎育の改良を圖り之れを進歩せしむることは固より怠るべからざることである。又交通の利便を圖つて來たことも異常なるものである。既に鐵道は開け、電信は通じ、海上の商船の如きも非常に進んで居る。郵便の如きも其發達は異常なるものである。此等は皆人民の資力に待たざることを得ぬのであるが、此の我國の進歩は世界各國の見て大に驚いて居ることである。日本國民の發達は異常なるものである。僅に三十二三年の間に此の如き大事業を成し遂げたのであつて、明治の初年即ち王政復古の當時に在つては海外との貿易は僅に三千萬圓内外であつた。我より外國に賣るものが一千五百萬圓許りと、彼より買ふ所のものが一千四五百萬であつて、之を合して殆ど三千萬圓であつたのである。然るに僅か二十五六年の星霜を經て今日に至つては、五億以上の貿易となつたのである。五億以上の貿易と云へば、殆んど十六七倍に發達した譯である。又日本國内何れを見ても昔時の百姓の着物や居住の有樣と今のとは非常に違つて居る。此は誰でも年を取て居るものはお分りになつて居るだらうと思ふ。又維新前に於ては日本國中に乞食が非常に多かつた。此邊の土地に於ては少なかつたか知らぬが東海道筋から關東にかけては乞食の居ることが非常なものであつたが近來に至つては殆ど乞食の迹を絶つた有樣である。此は實業の發達、即ち國を富すと云ふ上に就て非常な關係を持つことであります。畢竟、人民に仕事がなければ生活が出來ぬが、仕事さへあれば遊んで食ふものがなくなるから、實業の發達は國民をして生活せしむるに頗る都合の可いことであるのみならず、人を健康ならしめ又生活を容易ならしめて、其結果、國を富すと云ふことになる。今日まで實業の發達は非常なる結果をなしたのである。統計で之を論じて見ると種々の事業が起つて居るが、それ等は暫く措て、茲に株金で始めた所の仕事が目下如何なる高に上つて居るかと云ふと、拂込高と未だ拂はざる所のものを加へて九億以上の高に上るのである。而して其中で拂込んで居るものが無論五億以上になつて居ると考へる。此亦殆んど三十二年間に於て此の如きの盛況を呈したのである。

それで今日の如くにして怠ることなく日本國が進んだなら、是から十年の間にはまだ〳〵非常な進歩をなすことは疑ひはないと考へる。國の富は人民の富に依るのである。即ち人民の富んだ所のものを積算して以て國の富と稱するのであるから、人民は怠らず且つ成るべく貯蓄心に富む

やうにならなければいかぬ。此貯へて行くと云ふ觀念が起らざれば、働くことは働いて儲けることは儲けても、皆衣食住に使ひ捨てゝしまふことになるから、結局幾に其口腹を滿すに過ぎぬ。故に國家の富を增さむと欲するならば、人民が無益の費用を費さぬやうにして、而して貯蓄すると云ふことが必要である。即ち貯蓄しつゝ一方に進歩を謀つて行くと云ふことにならなければならぬ。

三十二年間の狀況を申せば此の如くでありますが、この進歩を歐羅巴の强大なる諸國に比較して見ると、ナカ〳〵未だ其足許にも寄り付けるものではない。英吉利の如きは人口は三千八百萬で日本より少ないが、併ながら其國力の大なることに至ては世界無比である、英國が資本を自國以外に投じて居る高は二百億圓に達して居つて、國內の事業に費して居る高に至つては更に其れよりも多いのである。而して海軍の力はどうであるかと云ふと、五百萬噸、又商船の噸數はと云ふと一千三百萬噸もある。世界各國に持て居る商船の噸數を悉く合せたものに對して六と四との比例である。即ち世界の商船を集めたものを六とすれば、其四は英國が占めて居るのである。之れに亞いで最も富んで居るものは佛蘭西、其次が獨逸、先づ歐羅巴で最も開け最も富み最も强大を極めて居るものは此三箇國であるが、之に亞いで邦域最も大にして且つ人口の多きものは露西亞である。此の露西亞は兵力も亦大なる國であるが、今日兵力の大なるものは戰時に當つて凡そ三百萬の兵を動かすことが出來ると云ふ。露西亞、佛蘭西、獨逸の如きは即ち是である。英國は小さい國で、丁度日木を見たやうな島國であるから、海軍を主にして居つて陸兵は他の强大國の如くには持つて居らぬ。是等の强國に日本が肩を比べるやうにして行かうと云ふには、ナカ〳〵今日の如き情態を以て停まるべきものではない。今日進歩の途を計らず眠つて居る所の國は、何れの國と雖も太陽の光線に照されて雪の融くるが如くにガラ〳〵崩れて居る。之に反して人民が活動して、今年よりは來年、來年よりは再來年と云ふやうに進んで行く國であれば、輙く他國から侵略される虞はない。其虞のないやうにしたいと云ふならば、常に國家を支配し國の原動力を動す所の政府が其職務を怠らぬやうにしなければならぬのは勿論、國民も亦た各自の仕事に勉め前申した通り成るべく儉約をして無用の費用を省き、貯蓄をして其家を富まし、財力を進めるやうにしなければならぬ。一町村は一町村、一郡は一郡、一縣は一縣、等しく此の如くして之を積んで、以て一國の富となるのである。

次ぎに商工業のことに就いてお話申せば、人は商業と云ひ農業と云ひ工業と云ふて區別をするけれども、互ひに相待つて進歩しなければならぬものである。農者は商に對しては少しも關係が

ないかと云へば決してさうではない。農者が、自分が耕作したものを自分で殘らず食へばそれまでゝあるが、食つた以上幾分か餘つたものを他所に賣ると云ふこともある。賣ると云ふことになれば成るべく直段の好い所に持つて行つて賣りたいと云ふのは自然であつて、是れ既に商の事に屬して居る。又た工業に於ても、物を製造するのは獨り製造するのが目的ではない。之れを製造して他に賣るのであるから、矢張り商者に俟たなければならぬ。商人も亦た農者と合同せざることを得ぬ。何處其處でどれだけの米が出來る、麥が出來る、如何なる物産が出來る、之を何處で買つて何處で賣れば幾らの利益があると云ふことは、是れ商者が需要供給の道理を知つて買ふ所と賣る所との便不便を見、運賃が幾ら掛る、金の利合は幾ら掛ると云ふことを算盤を把つて算出しなければならぬから、無論商者は農工の事にも通じて居らなければならぬ。農工商は各々專門的に働くのであるけれども、經濟上の點から見れば三つのものが相合して働きを爲すのである。之には國民が餘程注意しなければならぬと考へる。而して今日の世界の有樣から論ずれば、日本國に於て特に長じた所の農産、又は其農産に工業を加へて、之を商業を以て他國に餘計に賣つて金を此方に取る工夫をしなければならぬ。各國は皆此の如くにして競爭をして居るのであるから若し我國が其競爭に於て負けると國が衰微するより外はないのである。今日世界各國が最も勉むる所は此商業である。商業は獨り己れの國の物産を扱つて之を他國に賣るのみを以て足れりとはせぬ。他所の品物を買て更に之を他所に賣ると云ふのが商業の上に於て最も必要である。商業は殆ど內外の區別のないものである。で、日本の今日の商業は如何なる形勢であるかと云ふと、海外との貿易が五億圓に上つて居るが、若し賣るものが半分で買ふものが半分であれば、丁度賣る力に依つて買ふ力を生ずるやうになるから宜しいが、昨年の如き農業も稍〻可なるの年は宜いとして、一昨年の如き所謂不作の年に當つては南京米を非常に輸入して居る。此南京米を輸入した爲めに人民が饑渴に迫るの不幸には陷らなかつたが、同時に日本の金は餘程海外に出て參つた。故に之を取返す工夫もしなければならぬ。今の世の中は交通の便が開けて居るから、縱令饑饉に遭遇しても封建時代に於けるが如く容易に人の餓死するやうなことはない。それは則ち交通の便に依つて他國から食物を輸入することが出來るからである。併し輸入することが出來るから宜いわと言つて、輸入に安じて居ると。其代りに金がドカ〳〵出てしまふから、此れ亦た餘程注意を要することである。而して此等は皆商業機關の與かることであるから、政府が之に注意を要するは勿論、人民も經濟上此金銀の出入に就いて深く注意しなければならぬ。併しながら此れは人民各個としては分らぬ、日本國の總體を見渡した上でなければ分らぬが、之れを總體の上から見よ

うとすると政府でなければ之を見るの機關を持たぬのである。即ち統計やなどで分るやうな仕掛方法になつて居つて、之れに依つて見るの外なく、而して此等のことを取計ふのは政府の職務に屬する譯であるから、人民は今日は詰らぬ議論に走らぬやうにして、實業の進歩を計つて行くのが第一である。議論は一向に物を生ぜんのである。今日に當つて物を生じ物を增すの力でなければ何の效能もない。故に唯〻願ふ所は、國民が各々其業務に精を出して、成るべく物產を增加せしめ、而して便宜を計つて之を他所に賣ることである。夫等のことを段々に進めて行くには、其理合道理をも辨へなければならぬから、學問を子供にさせて其譯合を能く分からせるやうにすることが必要である。學問をさせるのは何の爲めであるかと云ふと、獨り本を讀んで樂を取らしめる爲めではない。相互の得を增加せしむることは人の智力を發達せしめなければ出來ぬ譯である故に、教育の目的も實業の發達と相關聯せねばならぬ。小學校の教師なども其處には能く注意をしなければならぬ。

伊太利國の大宰相カブールは、僅に四十年程前の人であるが、其頃伊太利は種々に分裂して、丁度日本に於て各藩の大名が銘々勝手なことをして居つたと同じ情態で、唯だ我國に比して幕府の如きものが上に在つて之を統括して居なかつたと云ふの違ひがあるのみであつたが、此伊太利の人民を統括して伊太利國を一つにすることに此宰相が非常に力を盡したのである。此事業は、取りも直さず我日本で藩を廢して郡縣となし、一の政府が出來て　天皇の御權力の回復となり王政の復古となつたと同じことであるが、此人が伊太利の國民に向つて言うた所の言葉を借りて私も日本國民に話をしたいと考へる。其の言葉に何とあるかと云ふと「伊太利の國民は伊太利國の爲めに非常なる力を盡した。獨り人の智力を以て盡したのみならず、財力を以て其の國の爲に盡した。伊太利の國民が伊太利の國家の爲に盡したる所は非常なるものである。併ながら伊太利の國民は之を以て安ずることは出來ぬ。尙伊太利國の强大に赴く爲に、諸君及び諸君の子孫は力を盡さなければならぬ。國を護る上に於ては、伊太利の祖先が勇氣を奮つて、歷史上に其事蹟を遺したと同樣に、今日の伊太利國民は奮つて祖先の爲しただけの事をせにやならぬ」と言つて居るのであるが、私も亦此言葉を借りて以て日本國民に望まざることを得ぬのである。即ち諸君は成るべく兒童の教育も怠らぬやうにして、一方に於ては實業上の進歩を圖り、小は以て個人的の富を增加し、大は其個人の富を積算して以て日本國の發達を計り、日本の國威國力を海外に輝すやうにしなければならぬ。是れ私の日本國民に向つて只管希望し懇願する所である。此一言は能く諸君が御記憶にならんことを望みます。今日の歡迎に對して深く感謝の意を表して、乃ち此處に

此お話を申す次第であります。

國運の伸張と實業の發達

（明治三十二年五月十九日、久留米市萃香園に於ける歡迎會に於て）

今般當地方漫遊の爲めに出掛けました所が、圖らずも有志諸君の御招誘に預りまして、御懇情默し難く罷出でました譯であります。固より私は演說をするとか或は又政談を試みつゝ遊ぶ積りで出たのではありません。唯だ目下閑散の地位に在ります故に、地方の山水や事情等を見て聊か自分の淺學の補ひと致し研磨する所あらむと欲して廻遊に出掛けた譯でありますから、特に諸君にお話をして諸君の耳目を新にし諸君を益すると云ふが如き考案は懷いて居りませんが、何か話をするやうにと云ふ御希望でありますから、所感を聊かお話して淸聽を煩はすことに致しませう。

私は維新以來絕えず官途に在つて、各地の事情には餘り熟した方でありませぬ故に、目下の閑散を利用して殊更らに諸方を歩るく位でありますから、或は事情に不通なることもあるかも知れず、又諸君に於ては既に御熟知のことであつて貴聽を煩はすまでの價値のないこともあるか知れぬが、唯だ多年自分は憂國の念慮よりして國家と關係を保つて居りましたから、自己の經過をお話して昨今の必要なる事項に及ばうと考へます。回顧すれば三十五年の以前に當つて私が歐洲から歸朝した時は、日本全國の形勢は恰も釜中の魚を煮るが如き有樣でありまして、特に身を外國に置いて日本の形勢を見て居ると頗る危險極ると云ふ觀念を懷きましたのであります。故に私は素と遊學の志で出掛けたのでありましたけれども、學問をして居るやうな時代でないと心得て歸國致して參つたのは、丁度各國の軍艦が馬關を砲擊する數月以前のことでありました。長州は殆んど擧國攘夷の焦點となつたのみならず、人心を擧げて攘夷を主張し傍ら之を實行しつゝある時でありましたが、吾輩共は此攘夷鎖國論の非なることを論じて、日本はどうしても開國の規模を取て國家を振起しなければ到底前途國家を全うすることは出來ぬと主唱した次第であります。今日を以て其時に比すれば、日本の全面を一掃して新天地を開いたが如きの感がある。其當時に於ては今日の如く進歩をしやうとは固より何人も豫期する能はざる所であつたが、爾來數年を出でずして忽ち王政復古となり、其結果封建を廢して郡縣の治を布かるゝことゝなつて、同時に開國の方針が定められ、着々歩を進めて內治の改良、敎育を布く等百般の事業を新に起すことに成りましたが、此間に於ても日本は非常なる困難に屢〻遭遇したのである。國家を負擔する所の權勢

ある重もなる人達の意見の合はざる所よりして、或は佐賀の騷動が起り、或は熊本山口の亂となり、遂に西南の大亂とまで相成つた次第でありまして、一時は頗る危險に遭遇致したやうなこともあつて、此等の爲めに妨げられて幾分か百般の進歩が遲緩したのでありますが、併しそれにも拘らず今日の盛況を呈するに至つた、之を思ふ毎に呆然として自失するやうな心地がするのであります。是れ畢竟上は　天皇陛下の御懿德御仁心と、下は人民の忠良にして勤勉なるとに依つて區々の紛論は多少あつたにしても、歸着する所は上下相和して以て今日の形勢を造り出したものと云ふの外はあるまい。之には諸君皆與つて大に力を効されたことと言はねばなりません。

而して既に今日の形勢に相成つたが、今日の形勢果して如何と云へば、今や歐米諸國を除くの外地球上に歐羅巴人種以外にして其國を全うし文明諸國の伍伴に入つて當さに得べきの權利を得て之を使用し同時に又當さに盡すべきの義務を盡くして居るものが絕えてなき間に於て、獨り我日本が維新草創の際に於て一定したる所の國是方針に依つて之を爲しつゝあるのであります。此間に於ては日清戰爭の如き事も起て、戰爭は國家の運命を賭せざるを得ぬ事柄でありますから、何れの國何れの時を問はず戰爭の危險なることは論を待たぬ次第であるが、幸にして此日清戰爭も　陛下の御懿德と日本の國運、寧ろ日本の力卽ち日本人の愛國心と忠實と技能と相待つて、以て戰勝の好結果を得たやうな次第であります。此結果として日本國の得たる名譽日本國の國威に就ては異常なる感覺を世界各國に與へたのである。併ながら之を以て決して世界各國に傲るべきではない。吾にあつては益〻愼重を加へて自ら勵み自ら進む所がなければならぬ。然らば自ら勵み自ら進むとは如何。卽ち國民は益〻進んで文明的の思想を養ひ、敎育なり實業なりを發達せしめ、政府は又此發達に伴ふ政治を施行して之れを導き之を助け之を補うて進まなければならぬ。而して歸着する所は矢張上下一致の力に依らなければならぬと考へる。是今日に於て當さに勉むべき事である。而して現在内にあつては戰勝の結果として軍備の擴張を計り、又各般交通の便利を增加し、產業の增殖を奬勵し、敎育の普及を計るが如きことは、今日の急務と成つて居ります。依つて政府も議會も國民も之を今方さに勉めつゝあることゝ存じますが、能く退嬰することなく、一年一年と進步の結果を見るやうにありたいと考へる。今日は懈怠すべきの時ではない東洋の問題は日清戰後に非常に逼迫を來して參つて殆んど言語に絕する有樣であります。私は戰後に於て國家の財政上のことを目的と致して將來の基礎を定めたいと考へて居つたのでありますが、廿九年に於て遂に冠を掛けて職を退かざることを得ぬことに立至つた爲めに身を退き、それ以來は後繼諸氏が大に力を盡されたが、一時に異常な變態を來したことでありますから、良結果

を結ばしむるに就て、其官に在ると在ざるとに拘はらず、甚だ憂慮して居つた次第であります。然るに又政府が更迭せんければならぬと云ふ場合に迫つて、一昨年の冬より昨年の春に掛けて、微力の及ぶ所にあらざるを知りつゝ大命を奉じて再び職務に就かなければならぬことになつて、昨年の一月より六月まで重職を瀆して居りましたが、議會は私の所見を容るゝことなくして、遂に已を得ず解散を致すやうなことになり、之と共に私も職務を退かなければなぬことゝなりました故に、再び復た閑地に就きましたが、東洋の形勢危殆なるを憂慮して昨年は朝鮮支那地方へ漫遊を試みたやうな譯であります。私が支那の形勢を熟察しまするに、其形勢は日々に變轉を來して數年を出でずして容易ならざる有樣に陷ることは疑を容れぬと考へましたに依て、此漫遊を爲して支那の政權を支持して居る大臣連中には大概面會も致して、私の所見を陳述して見たのであります、支那の風俗、人情、古來の習慣又は彼等の信じて居る學問などは、今日世界の駸々乎として年毎に新に變つて行く所の原素を容れて改革を實行することゝ相容れざる有樣で、頗る遺憾の念を懷て歸つたのであります。固より彼等は一人として私の論ずる所に向つて異論を言ふ者はなかつたのでありますが、私の言を容れて之を實際に行ふことは出來ない情態でありますに依つて、私は甚だ遺憾に感じた譯である。日本國の支那に對して希望する所は、支那をして獨立の位置を保たしめ、之れを改善せしめて以て東洋の安全を謀ると云ふ點にあつて、此事たる日本の利益に非常なる牽聯を有することでありますが、是れは殆んど望んで得べからざることであります。然らばどうなるかと云ふと、日本は一衣帶水を隔てゝ歐洲諸國と相對する形勢に差迫るであらうと思ふのであります。玆に至つては日本國は己れを護り己れの位置を進め相對峙して以て他國に劣らぬやうに進歩することが誠に必要と考へる。然らばどう云ふ事に就て進歩を謀れば宜いかと云ふと、前申す通り內治の改良は勿論必要でありますが、國民全體の經濟上の進歩も亦た謀つて參らなければならぬ。卽ち事業の發達を謀ると云ふことである。若し之を怠る時に於ては、獨り時機を誤るのみならず、他國に後るゝ次第でありますから、之を勉めて以て其發達を期することの最も要用なることは論を待たぬ。私は御承知の通りに何れの政黨何れの政派にも偏倚して居るものではないが、獨り常に憂慮する所は、日本が外國と相對峙する所の關係は如何、又內に在つては進歩の度合進歩の遲速は如何と云ふことであります。斯の如き形勢にあつて、內に政論の紛擾などがあつては進歩の妨げとなるから、成るたけ此紛擾は少くしたいと考へる。勿論利害を明にし進歩の上に有益なることを議論するのは必要でありますけれども、唯だ黨派が各々競つて自己の擴張を謀ると云ふ目的よりして、國家の實益上の議論を根據とすることなく、只管勝敗

を爭ふことを主とし肝要なる問題に就いて格鬪を事とするが如きは、主客を轉倒したるものと私は見て居りますから、矢張り政黨なるものゝ改良も謀つて行かなければ、立法部の事業が國家の大計と併行することが出來ぬやうになりはせんかと憂慮して居るのであります。

以上申す通り國家の形勢は殆んど古今無雙なる事機に遭遇して居つて、支那朝鮮の問題は直接に日本と關係を有すること至大でありますから、此時に當つては眼を廣く放つて、以て其進行變化を視なければならぬと存じまする。それで私は今回の旅行中にも、兩三回程此の政黨の改良と云ふことに就いて各地で話を致しましたが、勿論政論をするのは自分の目的ではなく、唯だ自ら國家の爲めに其改良を必要なりと認むるが故に話して廻つたやうな次第であります。又一方に於ては、此三五年間は既定の計畫に屬するものも其遂行が未だ半ばに至らざるものがあり、又其以後の計畫として政府の未だ着手せざるものも澤山あるやうな次第で、且つ其實行を最も急務と致して居る時機でありますから、成るたけ政府の永續せむことを希望致して居るのであります。若し政府が永續せずして始終顚覆するやうなことになりますると、人の更る度毎に其着手の順序を改めるやうなことになり、隨てその遂行の上に於ても大なる損害を蒙るやうな事が多いのであります。即ち政府が半年や一年で顚覆するのは國家の上に不幸なる結果を生ずるから、政府の永續せむことを望み、一方に於ては政黨者流に向つても政黨を改良されんことを希望するのであります。然らば政黨の改良は如何なる點に於てすれば宜しいかと云へば、先づ其論議する所は國運の消長と伴ふ議論でなければならぬ。獨り議論のみではない、政黨なるものは議員を出して居つて憲法政治を運用する上に於て何れの國にも存在せざるを得ぬもので、議論よりは寧ろ事實上已むを得ず發生するものと認むる。道理的に云へば、或は必要でないかも知れませんけれども、事實問題や歷史に依つて見ると、憲法政治の行はるゝ國に黨派のない所はない。既に黨派が存在する以上は、良くなることを望むのみである。就ては立法上に於て人民の實況に基いて深思熟慮せねばならぬ。然るに動もすれば一氣呵成に事をやつて仕舞ふ弊に陷り易いのであるが、立法の基礎は成るべく審議を盡し熟慮の結果、遺算なきやうにせねばならぬのである。人は感情的の動物で早計に失することが多いが、此等は政黨を導き之を指導する所の人々の餘程思慮を廻らさねばならぬことゝ考へる。又各國の事例に徵して見しても、隨分喧騷を極て居る國も多いが、憲法政治の運用を圓滑にやつて議會あつて以來非常な經驗を積むで進歩した所の英國の如きに至りましては、議會に於けるのみならず、平素に於ても政黨の統御と云ふものが頗る必要になつ居る。此統御の手段方法がなければ、多數の人が集ると秩序と云ふものが成立つものでありません。故に秩

序的に之を統御さるゝことが頗る必要なことであると考へる。此等改良を要すべき點は百端に亘つてありますけれども、細かに之を擧てお話するの必要はあるまいと考へますが、何れにしても改良すべき點は速に改良せざるを得ぬと考へるのであります。且又前申す通り東洋の形勢は日々に逼迫し來る形勢で、歐洲諸國の東洋に於ける商業、運輸工業等の發達も段々東洋の全面に影響を及ぼすやうになつて參りましたから、日本國の商、工業等も獨り內地にのみに着目することは出來ぬ。矢張り海外に向つて競爭をするやうにならなければならぬ。唯だ一國內に於て得失を爭ひ便宜を謀つて居るのみでは、決して今日の時勢に適合せぬ。而して內地の進步を謀る爲には、諸君も御熟知の通り、事物の多くを歐米諸國に仰がざるを得ぬのであります。特に此の鐵及鐵器類の如きは、日本に於ても鐵製の事業が計畫されつゝありますけれども器械の未だ不十分なる所よりして——他の百般の事もさうでありますけれども——尙ほ數年の間之を歐洲に仰がなければならぬのでありますから、其他の內國の物產を盛ならしめて輸出の增加を圖ることが尤も必要であると考へる。昨年は日本は豐で上下共に一息ついたやうな譯でありますが、一昨年の凶作の時には殆ど五千萬圓の南京米を輸入せねばならぬやうな次第に立至りました。平素に於て海外に供給する物產が十分日本に出來て居れば少々の輸入の超過位は畏るゝに足らぬのでありますが、始終輸入超過となると其結果貨幣を外に流出せねばならぬことになりますから、實に恐るべきことである。之れを歷史的に考へて見ても、十年の戰爭後一時非常に紙幣を增發して急を補うた結果紙幣が非常に下落し、しかも輸入を制限することは出來ぬと云ふ譯で、貨幣は悉く外に流出して仕舞つて、其の救治は非常に困難で、種々研究したが、唯一の賴むべきものは日本人の食物である。當時餘り飢饉にも遭遇せず、日本の食物は海外に之を仰がなかつた爲に、紙幣は下落し物價は騰貴したけれども、日本人が食物に苦み飢餓に迫るの憂はないので大に安心したのでありました。爾來殆んど十七八年、今日の輸出入狀態を見ますると、食物に關する物品が多く輸入されて居る。是は畢竟內の人口增加の爲めで、物價の高下に關係をするのであります。固より自由貿易を許す以上致方はないのでありますが、食物は外國に仰ぐやうなことになつて來るとなか〳〵容易ならぬことゝ考へまするに依て、農業の發達を圖ることが頗る必要であると考へる。是は乃ち日本の社會經濟的の問題でありますが、此の問題を解剖して之れを改良し之を進步せしむることは、政府は勿論、人民も亦之に努めなければならぬ事柄と考へます。政論も此經濟問題と始終相待つて行くやうにならなければ空論に陷る事になる。さうなつては啻に憲政の進行上に妨げをなすのみならず、又一般の人も之に就て惑を生ずる譯になりますから、政治の論議をなすものも、

事實問題を以て論議するやうになりたいと思ふのであります。詰り國を富し人民を富し又人民の力を擴め、從つて其富力を增して行くと云ふことの外は政治の問題に上りやうのない譯でありますから、事實と駢行して進歩すると云ふことが頗る必要な事と考へる。

維新以來の方針たる開國の規模に依つて日本が外國と交際を開いてより治外法權を存して居つたのであります。治外法權とは、日本の邦域に貿易其他の爲に來つて居住し旅行するものに對して、日本は國法政治を及ぼすことが出來ぬと云ふ仕掛方法である。是れ日本の獨立の權能を完ふせざるものであるから、明治初年以來條約の改正と云ふことが上下一般の希望する所であつた。而して段々此事に着手し外國と談判を累ねて參るに中に、日本の國法問題が推移して、法律も新に設けなければならぬと同時に、又文明の政治を布いて國民には自由の意志を抱かしめ自由の行爲をなさしめ自由に職業をなさしめて行かなければならぬことになつた。自由と云うても勝手我儘で宜しいと云ふ趣意ではなくして、一定の法律があつて之れに支配され其區域を超えざる限りに於て自由を得るのでありますから、其自由を羈束する所のものは卽ち法律である。其法律の下に支配され法律に依つて政治を行ふものは、之を法治國と云ふのである。そこで條約改正の希望は早く起つたが、此法律を完成する爲に餘程の歲月を費したのであります。併ながら上下擧つて希望し且つ其準備を段々致して來た結果として遂に對等の條約が各國との間に締結せられ、其の實施の期も將に本年の七月に逼つて居るのである。而して是が實行せられたならば俄に外國人が踵を接して來るかと云ふと、ナカ〳〵其樣に來られるものではない。固より來るも來らざるも自由であるから、來やうと思へば來られぬことはないが、來たからと言つても、中には旅行の目的で山水を樂みに來るものもあらうし、又た事業を目的として來るものもあるに違ひないが、事業を目的として來るものは、山水を樂みに來るものとは違つて、十分の資本がなければ來ることは出來ぬ。よし資本があつても、其れを投ずるには、利益の見込が確實でなければ、實驗ある外國人のこと故、容易に手を下さず、輕擧に事はせぬ。而して將來の狀況が如何になるかと云ふことは固より問ふ必要のない事である。假令外國人が澤山に來やうが來まいが、日本國の義務として之を待つに日本國民と對等の位地に置き、之を法律の下に置いて其生命財產を安全に保護しなければならぬ。是れ我國の義務である。而して我國に來る外國人も又た日本の國法に服從せざることを得ぬ義務を持つのであります。而して彼等は旅行の自由、移轉の自由、居住の自由、商業の自由、を條約に由つて得るのでありますが、我國人が能く新條約を利用して行く時には日本國民の上に大に有益なる事があると私は信ずるのであります。歐米諸國は資本に富饒なる國であるの

みならず、智識にも富んで居るから、日本に來て日本人と協同して事業を起し、或は又た獨立に事業を起すこともあらうが、獨立に事業を起せば、彼等のなす所を見て、我國人も之と競爭をしなければならぬ。其競爭の結果として日本の商工業を進歩せしめ、又其經驗を目擊する所より大に利益する所があらうと考へる。何れにしても此の條約を圓滑に行はなければならぬ次第であつて、此時に臨んで遽に驚いて特に準備をしなければならぬなどゝ云ふ考へをするものがあるが、是は甚だ狼狽したものと考へる。既に條約の實行を希望し準備をなしつゝあつた譯でありますから、今に於て特に驚くにも足らなければ又遽に事を改める必要もない。唯だ之を實際に行つて實益上に利用すると云ふ觀念を持つの外はないと考へる。我日本の國民が外國に居つて如何なる自由を得て居るか、如何なる待遇を受けて居るかと云ふことを見て、之と同樣に外國人を待たなければならぬ。此の如くにして始て對等の條約の目的に叶ふのである。而して又日本の文明をして益ゝ進歩せしめる事に力を竭さなければならぬ。日本の文明の度合は未だ歳月の淺い爲に深く這入つて居らぬ。這入るるべきものが悉く這入つて居らぬのみならず、進歩の度合、厚薄深淺に至つては、尙ほ未だ彼に求むる所が非常に多いのでありますから、後來は益ゝ親密を累ねて行かなければならぬ必要があると思ふ。

又海外の貿易などの競爭をして劣らぬやうにする爲めには、語學を修める事などは頗る必要である。此語學を學んだりなどすると徒らに外國の風に習ふやうになると云ふ觀念を抱くものがあるかも知らぬが、是は洵に間違つた考へであつて、商賈の關係に於ても亦兵備の擴張をなして萬一の不虞に備ふると云ふ上よりしても、矢張り彼を知り己を知らなければならぬ。商工業も亦然り。何れの業にせよ、國の進歩を促し、居睡つて居らず、活動して以て此活世界に立つて國を衰頽せしめず、益ゝ進歩せしめて行かうと云ふならば、彼を知り己を知ることは、日々に益ゝ其の必要を感じて參る譯であつて、而して彼を知り己を知るに就ては語學の必要なること論を俟たぬ。彼の我に來つて敎ゆるを待たず、我れ自ら進んで研究を盡すと云ふ位置にならなければならぬと考へる。

前申す通りの今日の時勢であります。當地の如きは敎育などは非常に進歩して居ると云ふことである。又工業等の發達も九州地方に於ては餘程進んで居ると云ふことでありますが、其進むには必ず先導者があるか、或は又諸君の勤勉一致の力に依るか、孰れにしても進むの本があつたのでありませうが、既に進んだ所を以て更に益ゝ進ましめて、遂に前岸の支那朝鮮に貿易上に於て進入し、他に率先して往くと云ふことを御誘導あらんことを希望致します。鎖國の舊夢は疾くに

醒めて、開國の方針となつた。開國の方針とは即ち進取の方針である。而して進取の方針を取る以上は常に他國に後れず他國に負けぬと云ふことが必要で、之れに就ては益〻進むで究むる所を究め、常に怠る所がないやうにやらなければならぬと云ふことを御記憶にならんことを望むのであります。

今の日本に於ける歐羅巴流儀の學問は、大學に於て攻究する所では未だ充分な程度には達して居らぬと考へる。大學にある所の學者或は大學を卒業して各種の事業に就くものにしても、モウ少し進まなければならぬと考へる。日本は普通教育の程度を非常に高めることが出來ぬのでありますから、是は別論として置きますが、日本の最高等の學識を具ふるものは、歐洲諸國の大學などに於て學說を立てて居るもの、研究を盡して居るものに比して、其著述や其研磨する所は遙に劣つて居る。此等の事も餘程進歩せしめねばならぬ。此事たる、固より常に勤めて怠らず、而かも歲月を要する譯でありますから、一朝にして望むことは出來ぬのでありますが、併し其中途に於て止ると云ふことは一番不可ぬのである。今日は各國共に其進歩の上に攻究を盡して、益〻進める方針を取つて、國と國と相競うてやつて居るやうな譯であります。學問は事實應用と云ふことが一番必要でありますから、日本の學問、日本の事理は自ら日本の事實に適合するやうにならなければならぬ。獨り歐羅巴の事にのみ心醉したからと云つて、其が實效を奏すると云ふものではない。日本に於ては、同じ學問をなしつゝも、日本に適合する發明と云ふものが成立つて參らなければならぬのである。段々近來は物理化學或は其他の工業上のことも進み、技師やなども段々進歩して參つて、其等の事に怠らぬやうでありますが獨りそれのみならず、各個人に於ても其進歩を圖らなければなるまいと思ふ。詰り文明の度合を進めて參ると云ふことで、其文明の度合なるものは、學問と始終並行して進まなければならぬ。事實と學術との進みは、常に相並行して進むやうになつて參らなければなるまいと考へるのである。此等は固より一縣一郡一鄕の與かる所でなく、中央政府の與かる所である。寧ろ政府と云はんよりは、立法部も行政部も共に力を盡して此進歩を圖る必要があると考へる。

右申すやうに、今日は多端緊急、實に大切な時と考へる。此の大切なる時に當つては、成るべく區々の紛論を避け、相一致して參るやうにしたいと云ふのが私の希望して已まざる所であります。諸君の御厚意に絆されて所感の一端をお話して諸君に謝するの辭に代へます。

實業殊に商業の發達を庶幾す

（明治三十二年五月廿日、集成館に於ける福岡市歡迎會に於いて）

今日の日本の境遇は實に大切な時であると勘考致します。幸にして日本も先づ今日の處、無事平穩を保つて居る姿でありますけれども、前岸を見渡せば決して無事平穩なりとして安んずることは出來ぬ。支那の形勢なり朝鮮の狀態なり、又南方に行つては安南、東京の如き殆んど土崩瓦解の勢を示して居る。此時に方つて日本國が獨り其渦中に投ぜらるゝことなくして、內に自强の途を講ずるの餘力を存して居るのは、維新以來國是として開國の方針を執り、封建の舊夢を掃つて文明の手段に基き一國の進步を圖つた賜であつて、之れが爲めに、東洋諸國が衰弱に傾きつゝあるにも拘はらず、獨り其跡を同ふせざることを得たものと考へられる。是に於て今日は益〻其方針を進め、益〻國家富强の實を擧げることが必要となつて參つたのであります。此三十二年間に於て日本の成した處の事業は實に偉大なるに相違ないが、世界の形勢の變遷し來る所も亦非常なるものである。此の非常なる變遷に遭遇して國を完うせんとせば、之に對する準備を悉さざるを得ぬのである。勿論今之れを爲しつゝある譯であるが、尙將來も進んで止まざるの決心をしなければならぬ時代であらうと考へる。殊に今日は條約の改正も行はれて、今年の七月より之を實行することになつて居るから、政府も國民も齊しく之が實行に努めざるを得ぬ譯である。然らば其實行に方つて如何すれば可いかと云へば、丁度日本人が歐羅巴に行つて自由自在に百般の事を學び旅行もし居住もし各種の營業に從事するも妨げなきが如くに、我國に來る外國人に對し條約に於て規定さるゝ權利を完うせしめ、日本の國法及び政治の下に之れを保護すれば宜しいのである。勿論之に伴ふ處の利もあれば亦害もある譯でありませうが、成るべく害を避けて、利に就くやうにすれば、之より生ずる利益は多からうと考へるのである。

御承知の通り今海陸軍の擴張時期に際會して居るのでありますが、之を完成することも非常な急務である。又民間の經濟に於ても近來十四五年間、殊に戰後に於ける發達は異常であるが、之を以て足れりとすることは出來ぬ。今後益〻進步を促して行かねばならぬ。而して此進步を促して行くには、政治上の事と人民の經濟の事とが互に並行して行かねばならぬ。それには成る丈け空論を避けて事實に適合するやうにして參らなければならぬ。政論々々と云うて今の政治家と自稱するものが唱ふる所を聞くと、實業と相離れたことが多々あるやうに察せられる。國家の進運を

圖るには人民の富力が增さねば出來ない譯で、一國の强盛は國民の資力、國民の勢力、國民の健康如何に由るものと見る外はない。國家の進歩を圖ると云ふのは國力を養成すると云ふことであつて、國力は、取も直さず人民の富力を養成する事に依つて生ずるものである。故に富源の開發を努め、農工商の發達を尙此以上に圖らねばならぬと云ふことが、政治上の問題とならねばならぬと考へる。其外に政治上の問題となるべきものは、時に外交上の問題が起る位のことである。而して之には敎育のことも自然伴ふ譯であるから、殆んど之を外にして政治上の問題はないのである。私が斯くの如く簡單にお話を申したならば、或は靴を隔てゝ痒を搔くの感なき能はざることゝ察せられまするが、輓近世界各國の進歩を見、又各國の爲す所を見て、彼等が如何やうな形勢に推し移りつゝあるかと云ふことを、常に私は注目しつゝあるのでありますが、各國の爲す所は、商業に於てもまた工業に於ても、歐米諸國の智識、財力及び交通の發達等に依つて、殆んど世界中及ばざる所なきの有樣である。

今を去ること僅に二十年前に當つては、亞弗利加大陸の如きも、微かに開けて居つたのみである。喜望峯の鼻は昔から歐洲人が開發に着手して居つたが、亞弗利加の中土は土人が生活せるのみで、歐洲人の足跡の到らざる所でありましたが、英吉利からリヴイング・ストーンと云ふ人が始て探檢に出掛けて遂に行衞知れずとなつたが、次で亞米利加からスタンレーと云ふ人尋て參つたのは、僅に今を距る二十年前の事であります。然るに今日では、歐羅巴諸國は此亞弗利加に大いに手を着けて、爲に金銀を始め、種々の獸類、工作上に必要なる材木及其他各種の物產が段々生じて來るやうになつて、世界に供給する力は實に異常なものとなつた。特にナイル河の奧などに至つては實に非常なものである。それから又近頃開けて來たアラスカ——舊露領の東極端に當る所と亞米利加の大陸に續いて居るコロンダイクとに金山の開けたことは夥しいものである。歐米諸國の人が往つて段々之を開いたので、其以前は僅に僅少の野蠻人種が棲んで居つたのみである。其れから中亞細亞であるが、此地方は多く亞細亞人種で、山野の方は開け方が遲いが、平坦の地方は鐵道が出來、各種の產業が起り、農產物を頻りに輸出すると云ふ有樣で、開け方も異常なるものである。又印度地方は二億以上の人口のある土地であるが、英吉利の領する所となつて以來、餘程開けて參つて、御承知の通り印度から日本に來る綿などは非常な巨額に上つて居る。其れから又緬甸、暹羅、安南邊などは米の產出の盛な所である。此亦殆んど商賣的に於て歐羅巴人の掌握に歸して居る。此等の地方の進んだのは、勿論交通機關の發達に因るのでありますが、獨り交通機關があつた所が、資力と經驗ある人物と有爲活發なる精神を以て之に臨むものとがな

ければ、開發は出來ぬのであります。此の如くに開けて參つて、殆んど歐羅巴と亞米利加とを除くの外は、地球の全面に於て獨立の國がコロ〳〵潰れて仕舞つて居る有樣である。畢竟是れ人種にも依り宗教にも依る譯でありますが、終始舊來の陋習を守り、自ら國を維持するの方策を樹てず、唯だ舊夢に安んじて居つて、輓近開て來た所の事物を應用して其國家を維持することが少しも出來ぬ結果として、雪の太陽の光線に逢うて融くるが如く崩れて居るのである。

此時に當つて、歐米諸國を除くの外、日本が唯だ獨り地球の全面に於て開國進取の方針を定め着々新文明の學問と技術を容れ、政治上に於ては或は法律を改正し百般行政の事を改め教育を布き、而して人民は之れと相並行して經濟的に進んで參つた。其結果として、各國は日本國に許すに文明國の伍伴に入る事を以てした。日本の法權の鞏固なること、日本の政治の善良なること、日本の國民が他國人に對して理否の差別は有して居ても、特に外國人だと云ふので之を嫌惡すると云ふ念慮のないこと等を明に認めたるが故に、條約改正の事も出來たのである。されば此改正條約を實行する上に於て、果して能く日本國民が文明の人民たるに耻ぢず、且其維新以來希望し來つた所の獨立の權能を全うし得るや否やと云ふことは各國の等しく注視する所である。吾々は久しく條約の改正を望み國權恢復と云ふことを唱導して參つた。國權の回復とは、己れの邦土の上に行はるゝ法權が內外人を問はず其上に及ぶと云ふことである。即ち之を上下俱に希望し、其希望に依つて成立つた所のものが將に近日より行はれむとするのであるから、其實行上に就ての注意は今日に於て實に大切である。故に政府は勿論人民に於ても其覺悟なかるべからざる次第であらうと考へる。

歐米諸國は唯今お話申す通りに駸々乎として進んで止まざるのみならず、世界の全面に於ける經濟上の發達は著しきことであるから、之に對して若し我日本が怠るに於ては、彼より後れざることを得ぬのである。彼等に後るゝことは即ち比較的に我國の衰弱を來す譯で、また益〻進んで行くと云ふことは即ち我國力を增進して行く譯であるが、彼に後れず劣らぬやうにするには尋常一樣なことでは到底參らぬ。固より此民間の經濟のことや社會の進步のことなどは、口で言ふが如くに易からざることは論を待たざる次第であつて、且つ民間の經濟と一概に言つて見た所が、金融の機關を扱ふ者があり又工業に從事する者があり農業に從事する者があり商業に從事する者もあつて、種々樣々でありまするが、此各種の者は互ひに牽聯して離るべからざる關係を有する者であると云ふことを忘れてはならぬ。農者は必ずしも商業には關係せぬと云ふやうな觀念ではいかず、商者も亦た唯だ人の拵へた物を媒酌的に賣買すれば宜いと云ふ如き觀念ではいかぬ。工

業者と雖も亦其通りである。商業の事は農業の上にも大なる關係を持ち、農産物の如きも亦た商業と關係を持たざるを得ぬ。而して其商業との關係に於ては獨り日本の農産物のみとは言はぬ、外國の農産物の如きも價の高下に依つて大いに之れを輸入し、時には其輸入が驚くべき高に上つて居るのであります。詰り商賣のことは價の高下と運搬の便否と、商業機關とに依つて始めて行はるゝものであるが、今日に至つては商業なるものは殆ど一國の政略の根元となり、國の安危存亡に係る重大なる事に屬するが故に、農者と雖も商業機關の發達は希望せざるを得ぬ。直接の關係より言へば、農者は己が農作に於て穫た所の農作物を、商者の手に依つて成るべく高く之を賣ると云ふ考もしなくてはならぬ。工業者も亦た其通り。詰り農工業の結局を運用するものが商者である。故に今日に當つて四方に眼を配り四方の便宜を圖つて行くものは則ち商業である。勿論農業も進まなければならぬ、工業も進まなければならぬが、商業の發達を充分なさぬと、丁度支那のやうな有樣に陷るのである。支那の形勢は每々私が諸所に於て話した事でありますが、四億の人口を持ち、殆んど一省の人口が――新彊を除て舊來の十八省中の一省の人口が四千萬もある。四川省の如きは六千萬餘の人口を有する處である。支那の一省は我國の僅に一縣に相當する譯で、支那は此のやうに大きな所であるから、物産は非常に出來る譯である。唯だ運搬の便を缺いて居るのと、彼等自ら進んで商業を發達して海外諸國と交通することが出來ぬ爲に、彼が如きの悲境に陷つて居るやうな次第である。之に反して歐羅巴の白耳義とか、和蘭とか云ふやうな國は、其國の産物が多いと云ふよりは商業の力が非常に大であつて、其の商業の力を以てしては歐羅巴の一二國を除くの外と相匹敵して優ることあつて劣ることなしと云ふ所まで進んで居る。今の世界は實に交通の世界である。交通の世界は即ち商業の世界である。商業の權力の及ぶ所は實に偉大なるものである。故に商業の發達は勿論、之に續いて工業の發達も亦頗る必要なことでありますが、農業は何時も相變らず衰へぬやうに注意しなければならぬ。併し農業の發達は商工業の發達ほどに力を餘計に現はすと云ふことが六かしい。耕地の廣狹が大凡定まつて居るのであるから、新に領土を得て之れを拓くか何かすれば別段であるが、其以外は農事の改良とか或は肥料の改良とか又は人の勞力の費し方とか、耕作の仕方方法或は種子の選方等に關係するのであつて商工業程に急激なる發達は迚も六かしいのである。維新以來日本の農業の發達は異常なるものであつて、維新の前後に於ては三千萬石より以上の米が出來たことはありますまいが、今日に至つては四千四五百萬石の米が出來るやうになつたのである。之は農業の改良と土地の拓けたことが其原因となり、之に加ふに農者が力を致したのが此の如く進歩した所以であると察せられますが

併し此の農業に比較して商工業の發達は更に一層大なるものであるが、今までの發達は、未だ外國との商業の發達と云はむよりは、寧ろ自國内の商業の發達に過ぎぬのである。商業の發達が自國内に止つて居るやうでは到底いかぬ。海外との商業の發達をもう少し圖らなければならぬ。圖つて而して之と競爭をしなければならぬ。之を競爭的に廣げて參らぬと、始終商業を以て他國より支配さるゝ――則ち經濟的に支配さるゝと云ふことになるから、此海外の貿易などに就ては日本の商業者は餘程注意しなければならぬことゝ考へる。

固より當縣の如きは近來非常に盛況を呈し、石炭の產出額も年を追うて增加するやうな次第でありまして、此石炭なるものを何ものが利用するかと云ふことも能く分つて居るでせうし、又年を追うて其の需要も益〻盛になつて來るでありませうが、何れにしても、獨り此石炭のみに限らず、支那地方或は朝鮮地方は勿論、進んでは將來西比利亞鐵道が開けた時には其方面に向つても商業が餘程開けて參るでありませうし、又亞米利加大陸の如きは人口の繁殖非常なるもので、殆んど廿五年にして倍するやうな譯で、今既に八千萬の人口を持つて居りますから、今より廿五年を經て一億六千萬となる譯で且つ、土地は廣く其他にも開發せざる所も澤山あるから、此方面に向つては我國の商業は頗る多望であると考へる。既に今日と雖も日本の物品を供給する重なるものは此亞米利加である。但併此貿易上に於て日本が稼いで彼等と商業をするのは誠に僅々であつて、多くは皆外國人の手に依つて商賣されつゝあるのである。他に依つて商賣さるゝことになれば己れ自ら價を定むることが出來ぬ譯であつて、一に他の定むる所に任せなければならぬから、乃ち權力は彼にあると言ふ結果になる。故に日本の商業の爲めに圖るに更に、一層の進步をすることが非常の急務と考へる。

それで、商工業の進步を圖つて行かうと思へば、政治と相待つて行かなければならぬことになる、政治と相待つて行かうとすれば、議會に此商工業者を代表するに足る丈けの者を出さなければならぬ。議會に商工業者の代表者を出して各地の商業の事情を明かにし、而して如何なる方法を以て之を發達せしむるかと云ふことを攻究しなければならぬ。それにはどうしても議會に商工業者の代表者が相當の度合に出て居らねばならぬ。之は舊來の事情にのみ拘泥して居るべき時でない。商工業の發達を急ぐことは此の如き事情でありますからどうしても議會には商工業者の代表者を出すことが必要であると考へる。而して商工業者は爰に商工の事に就て攻究を盡し、各國の商業の開け方は勿論、日本の物產が何れの國に販路を求むることが出來るかといふが如きことを攻究し、啻に攻究するのみならず、實際に之を內地の商業に施して發達の途に赴かしめ、其物

產を其所に運輸して販賣するの方法を求め、商業を日本に於てするにしても、又支那朝鮮などに行つてするにしても、日本の商工業者は歐羅巴人が彼の如く海外に出て商業に從事するが如く進んで其商業に從事すると云ふの觀念を起さなければならぬ。若し之を怠る時に於ては日本は商工業の上に手を出す餘地がなくなつてしまふ。私が今日を最も急務の時とする所以は、今であればマダ日本の商業か侵入する餘地があるけれども、尙十年も十五年も後れると其時機がなくなつてしまひはせんかと云ふことを懸念するからである。外交などゝ言つても、多くは日本の利益の關係に根據しなければならぬ。唯だ空に他の國へ行つて取ると云ふが如きは、他が其權利を認めぬのみならず、兵力を以てするに於ては非常なる金を費さなければならぬ。故に利益の輕重よりして、重もに外交政略は起らなければならぬと考へる。

今日の形勢は實に古今未曾有と言つても宜しいと考へまするが、之に就て私が唯だ一席のお話を申した所で直接に諸君を利益するやうな事柄もあるまいし、又私は自身商工の事に從事して居る人間でもないから、或は事實に適應せざることを申したかも知らぬが、唯だ私は日本の經濟社會の有樣、日本の財政の有樣、日本と外國との關係等を政治眼で見た所をお話したに過ぎないのであつて、固より事實的の問題は其專門に係つて居る一部の中で講究すべきことゝ考へる。此等の事に就ては特に當縣の人々に向つてお話する譯ではない。日本人が皆此の如くならんことを希望して居る次第でありますが、當地の如き或は久留米の如きは、商業も亦た鑛山の事業の如きも追々進步して參り、殊に石炭の如き他に比類なき所であるから、工業の起るは間違ないと思ふ。此工業の製品も獨り日本內地に供給すると云ふよりは、寧ろ海外と競爭すると云ふ觀念を起さむことを望み、同時に又支那四億の人民に供給するの餘地は十分あると考へられるのである。縱令支那の政府はどうあらうとも、主權はどうあらうとも、支那の人民の需要は日を逐うて進むに違ひなく、而して日本は支那の需要に應ずるには最も便宜の地位に在るのである。即ち其運搬の如き、歐羅巴から物を持つて來るに比すれば餘程近いのであるから、唯だ運輸の機關と金融の便とが着いて、此等の地方に對して販路を開くことが出來れば宜い。且つ開國方針の實を擧げることは今日に至つては商業の發達を圖ることであつて、是れが目下の急務となつて居ると信じまするが故に、聊か所見を述べて諸君の御參考に供した譯であります。

修學の態度

（明治三十二年四月十一日　長野尋常師範學校に於て）

本日は諸君の雅招に依つて此處に來つて私の意見を述ぶるやうにと云ふ御話であつたから何か諸君を裨益する御話をしたいと考へたが、咄嗟の事で別に好い考もない、唯だ今日學に就て居る青年諸君の幸福と吾等が幼時に當つての不幸とを對照して少しく御話を申さうと思ふ。

今日諸君が學ぶ處は、皆悉く社會の上に於いて實益を收むる學問である。是れは即ち文明の學問である。近來學事が益〻進歩し百科の學また大に起り、其等の學問の影響よりして、我が國の事業の大いに發達しつゝあるは著しき事實であるが、要するに學校が各地に簇々と起つて今日の盛事を極むるに至つたのは、維新國是の方針と相待つて來たものであつて、之れを封建時代に比較して見ると偉大なる變遷である。吾等が幼時に當つて學んだ學問は、僅かに經書や歴史の如きものであつて、之に加ふるに多少の算術位を學べば之れを以つて足れりとして居つたのである。茲に歴史と云つても、日本の歴史と漢土の歴史とを除くの外は、他の各民族の歴史を研究する事は、勿論當時に於ては、出來なかつたのである。經書の如きも、朱子學が大いに日本に行はれて以來、百家の説に依つて非常に束縛されて、實用に堪ゆることは甚だ難かしい有樣であつた。而して當時は、學問をすると稱する者も、多くは此等の事のみに生涯を費して、而かも大學者に至る者は極めて少く、六十餘州の中に於て僅に指を屈する位のものであつた。彼等は之れを終身の樂みとして學んだのであるけれども、之を學んで以つて社會の實用を爲すことは甚だ難かしかつたのである。

然るに維新以後は學問も一變して、文明の政治が日本に行はるゝことになつて以來は、修學の狀態は當初にこそ誠に僅かのものであつたが、段々に進んで來て遂に今の盛況を呈するに至つたのである。是は實に今日學に就いて居る青年諸君の誠に幸福と言はざるを得ぬことである。吾輩に於ては大いに之を羨むのである。吾等の幼時に當つては、不幸にも、他の學問を修めようと欲しても、學校もなければ又其學問を知つて居る人も國内にはないと云ふ有樣であつた。其當時の學問は誠に簡單であつたと言つて宜からうと思ふ。此れがどう云ふ譯で今日の如き盛況を呈し來つたかと云ふと、王政の復古に基く維新の大業に依つて日本の政治が一變したからである。而して其生れ出た時代、變遷した時代の後に諸君は生れて異常なる幸福を得られたのを吾輩は羨むのである。

私は諸君に向つて文明の進歩に關して大いに望を囑せざるを得ぬ。我國に於ては、今日改良を要すべき事は獨り政治のみではない。社會百般の事。目前に横つて枚擧に遑あらざる有樣である是れ實に諸君の事業である。否獨り諸君のみならず、日本全國の青年が負擔すべきの事業である吾等が幼時に當つて學問を爲すに困難であつた有樣を御話し申しませうが、維新前十年乃至十四五年には、國を開いて他國と交際をするかせんかと云ふ議論が一定せずして、或は鎖國論を主張し或は攘夷論を主張する有樣であつた。時に偶々開國論を主張する者があつても、其開國論がまた數派に分れて殆んど水火相容れぬ勢を爲して、黨派の分裂を起すやうなことになつたのである併し當初に於ては誠に僅々たるものであつて、攘夷の議論が殆ど一世を風靡する有樣であつた。斯くの如き時に當つて、歐洲の文明を輸入するなどゝ云ふやうな事は、ナカ〳〵夢にも思へぬことであつて、若し歐洲文明を輸入することが出來なければ、今日行はれて居る社會百科の學が導かるゝものでは決してなかつたのである。當時に於ては、洋學を學ぶに際して、飜譯書を尋ねても飜譯書はない。あつた所が纔に砲術書か築城書位の物で、それも頗る陳腐なるもので最近のものではない。然かも之を讀んで嚙み碎く事を得る人間が日本には極めて僅かである。此時に當つて歐羅巴の學問をしようと云ふことを思起した者は殆ど我國にはなかつたのであるが、唯だ先見有識の士が之を研磨して以つて大いに國家を誘導しなければならぬと云ふ考を起したのである。松代藩の佐久間象山翁の如きも其の一人であつて、斯道の先覺者と言つても宜からう。もと〳〵日本の開國は自ら進んで開國をしたのではなく他より海門を叩かれて已むを得ずして開國したのであつたから、當時の有識先見の人が己が所說をして勢力を得せしめて、時の有司に用ゐしむることも出來ない有樣であつた。斯樣な不幸な時に吾等は生れたのである。故に幼年の時に當つて諸君が今日修めるが如き學術を修める事は出來なかつたのであります。

然るに今日は、諸君は此明治の昭代に生れて各〻希望する學問を修めることが出來るのみならず、其の修める學問は皆實學である。實學は即ち社會の進步に之を應用する事が出來る。獨り應用が出來るのみならず、以つて身を立てることも出來る。身を立て國を起すの術に之を施す事を得るのは、誠に大いなる諸君の幸福と言はざるを得ぬのである。日本今日の文化の進度と事物の開發の程度は、孰れも至つて低い。他國に比較して甚だ低い。而して國の財力と云へば、是も亦甚だ低い。總ての程度が低いのである。維新後、學校の普及を圖つてから僅かに二十年內外を出でぬ位であつて、此の僅々たる歲月の間に之を普及せしむることは勿論難い事であるが、併し今日は日本全體の國民を擧げて學事の最も必要なることを明かに認める、特に當縣の如きは學校に

對し全縣の人民が奮つて力を盡すやうになつた。諸君は日本國中に於ても特に幸福であると言はざるを得ぬ。

吾輩共が洋行したのは今より三十七年以前であるが、其當時は西洋の語學を學ばうと思つても師を選むことも出來ぬ、又本を選むことも出來ぬ、本は未だ日本には碌々輸入して居らぬ、字引と言つた所が僅かに江戸の藩書調所に於て堀辰之助が拵へた僅の書冊があつたのみである、此字引も歐洲の風俗人情に通ずることが薄いから誤譯も極めて多かつた、此の不完全な字引を携へて洋行したと云ふ有樣である。當時は蒸汽船の便がなかつたから、帆前船に乘つて、亞弗利加の喜望峰を廻て殆ど一萬七八千哩の里程を越え、四箇月程を費して漸く歐羅巴に達した。而かも船中に於ては水夫の待遇を受けて、風雨の時などは綱を引張つて手傳もしなければならぬ、又食物などは中に蟲の這入て居るパンを二た切れか三切貰ふだけで、茶も滅多に飲む事が出來ぬと云ふやうな有樣、肉は鹹肉を少々宛時々切つて食はせられる位で、甚だ困難をした。其れに反して今日の書生で洋行をなさる者は、蒸汽船に乘つて上等旅客の取扱を受けて行くと云ふやうな誠に結構な時代である。

此昭代に生れて此幸福を享くることを得る所以は、王政復古に依つて此文明の制度を誘導し封建を廢して郡縣の治と相成つたからである。今日は貧富を問はず人各〻學問に從事するだけの餘力と資財とがあれば何でも學べるやうになつて居るが、往時は階級があつて、如何なる學問をしたからと言つても其程度を超える事は出來ない、商人にあらざるものは容易く商人たる事を得ず百姓たらざる者亦容易く百姓たる事を得ずと云ふが如き誠に窮屈至極な國であつたのである。然るに維新の政治と共に職業の自由を得る事となつて、何人も其權利を享受し、學問をするにも束縛をせらるゝ事なくして各〻擇む所に適從する事が出來るやうになつたのである。而して又移轉の自由を得て何れの所に行つて學ばうとも自由である。總ての事が文明的自治自由の理に依つて國民に幸福を與ふる事となつたのであります。此學問の變遷に就て事實上の御話をすれば甚だ長い事であるから大略に止めて置きますが、次に諸君の今日の位置と希望は如何と云ふ事である。今日王政が行はれて憲法政治が布かるゝに至て、日本國民は同一の位置と權利とを有するのである。日本國民は何人たりとも、其技倆、材能、精神、行爲、言動等に依つて吾等が今日まで奉職した處の總理大臣たる事をも得るのである。併ながら官吏となる事は、今日の青年が決して唯一の目的とすべきではないと考へる。今日日本の國を進める爲には、吾輩から見ると、如何なる事業と雖も決して高下の別はないのである。器械の學を修めやうが、或は商業に從事しやうが、將

た農業に從事しやうが、又或は各種の工藝に從事しやうが、其他の學術を以て世に立たうが、齊しく皆文明の社會に於て必要のものである。故に諸君に於ても、學を修めて何の事に從はむと欲するかは、追々希望の起つて來る事であつて、各人皆一同の希望を有するものではないと考へる何れの事に赴いても、自分に適從せんと欲する學問を選んで、進んで專門の學科に至れば諸君の希望は自から又大きくなつて行くであらう。如何なる事にせよ、學問に頭を突込んで行くのは皆必要な事であるから、十分研磨して以つて自分の素志を果すやうにならなくてはなるまいと考へる。

學問の進歩も、社會各種の事業と相待つて行かなければ進めぬものである。私は明治六年に工部省に奉職して居つたが、其時に、日本の重なる缺點として百種の工業に根柢がない、工學を進めて日本全體の工業を興さねば到底國が開ける譯には參らぬと考へて、十二人の敎師を英國より聘用して工部大學を置いた。然るに其工部大學で工學士を澤山造つては見たが、事業が興らぬ爲に其人達は從事する所がなくて、學問をしても立身の途を與へる事が出來ぬと云ふやうな有樣であつた。併し其後に至つて、百種の工業が段々に開け、鐵道の如き鑛山の如き製絲の如き、土木の如き橋梁の如き、其他數多の事が起り、化學的の作用が段々に開けて、是等の人も其修め得た學問を始めて實際に施す事が出來て、身を立て國を益する事が出來るやうになり、また學に志す者も段々に增加して、所謂需用供給の道に適ふやうになつた。

今後段々自他の實地の經驗に依り種々な發明も起らなければならぬ。故に政治法律の學問を以て專一とすべきではない。否、政治や法律の學問に從事する人間はさう澤山は要らぬが、社會の進運を圖る方の學問は澤山に人物を要するのである。諸君は固より自ら擇む所に適從すべきであつて、各〻赴く所を異にするであらうが、何れにしても、學問を爲し得るの時にある間に十分に研磨して、以て自分の學藝を進めて置かなければならぬ。歲を取つてから後悔しても、及ばぬのである。殊に古人も言ふが如く、學問の道唯だ放心を求むるのみと云ふ位で、學問に專一にならなければいかぬ。學問をする時には他事を考へてはいかぬ。唯だ自分の志す所を研磨して以て擇む所を知らんければならぬ。要するに學科を十分に遂げやうと欲するならば、必ず之れに專一でなければならぬのであります。それで我輩が諸君に望む所は、諸君が將來如何なる事に從事しやうと云ふ希望を有して居らうとも、其事を十分專一に研磨して、以て事に當て國を益し人を益し己を益するやうにならなければならぬといふことである。己れを捨てゝ國を益し人を益すると云ふ事は、望むべからざる事である。縱し望んで見た所が實際に行はれるものではない。或は海陸

の士官となり兵士となつて戰爭に臨む時に當つては、己れの一身をも棄てなければならぬ場合があるけれども、平生に當つては人各〻其身を立てゝ以つて勤むるのが卽ち人を益し國を益して己れを益する事でなければならぬ。故に將來に於て日本の文運を進めて社會の改良進歩を圖るのは諸君に望を屬せざるを得ぬ所である。固より忠孝の事の如き愛國の事の如きは、殊更に辯ずるの必要もなからうと考へまするに依て、諸君は能く學業に從事して己の擇む所に依つて身を立て國家の爲に社會の爲に盡力せられむ事を希望致すのであります。

序でに餘事に涉つてチョッと御話を申して置くが、日本國民の任務責任と云ふものは重大なるものである、地圖を開いて宇內各國の形勢を見、書籍を披いて各國の情態を見、各國經濟の有樣を見、社會の有樣を見、各國學者の知識を見、各國文物の進歩を見ると云ふと異常なるものである。然るに此日本國なる者は東洋の一隅に位して居つて比較的に小國であるが、併ながら又歐洲及び亞米利加を除いて他の東洋の人種なるものと較べて見ると云ふと、日本が獨り此歐洲の文化を享けて率先して玆に至つて居る。最後に此日淸戰爭の如き事があつて以來は特に文明の諸國より、日本の人種其物は他の亞細亞の人種と稍〻同じであるが、日本國の人民の爲す所は文明の人民の爲す所と其方向を同じくして居ると見られて居るのである。且其知識を養成し、統一して居る事に於ては世界を動して居るのである。此世界を動して居る所のものは、自ら人にも尊重をされ又他にも幾らか憚らるゝと云ふ事は自然の勢であるから、今日是に安じて居る事は出來ぬのである。卽ち財力を伸し兵力を暢し兼ねて文化及武道を進めて益〻此位地を高めて行かなければならぬ。而して此地位を高め得るものは獨り今日事に當つて事業に從事して居る人のみではない。今日學問を修めて居る所の靑年が成長して皆之に力を加ふる事に望を屬さなければならぬのであるから、諸君の前途は實に望多くして且又國の爲めに力を盡し、社會の爲めに力を盡す場所と時機とが殆んど數へきれぬ程目前に橫つて居る事と考へるのである。唯だ吾輩等は諸君のやうに秩序あり規律ある學問に依つて初時に研究する事が出來ずして自ら好んで刻苦して僅かの學問を修めたのであつて、而して其修めた所も殆ど實用にならぬ學問をやつて來たやうなものであるが、是れも時勢の然らしむる所で已む事を得なかつたが、諸君は今日正則の事を學ぶ事が出來ると云ふ有樣である。之を見て吾等は甚だ羨む譯である。同時に諸君が此學問を空しくせずして身を立て國の爲めに力を致すと云ふ事に相成る事を、萬々希望致すのであります。チョット是れだけの御話を致します。

行橋歡迎會に於て

（明治三十二年五月十八日　福岡縣行橋町西福寺に於て）

只今紹介者の述べられた如くに、私は全く當地方の風景を見る積りで、漫遊に出掛けて參つたのでありまするが、到る所望外な歡迎を受けましたに由つて、今日迄經過したる各所に於て、請はるゝ儘に話をして參りましたが、素と演說などを致して政黨の遊說に歩くような譯とは違ふのであります。私は何の政黨にも屬して居る人間ではないのでありますが、諸君の厚志に依つて懇切なる歡迎を受けたに就ては其御求めに應じて聊か愚見の存する所を述べて諸君の參考に供すると云ふに外ならぬのであります。素より演說家ではないのでありますから、演說は至つて下手であるが、併ながら唯言ふ所の趣意が諸君に了解せらるれば滿足するのである。

先づ今日日本は如何なる形勢に遭遇して居るかと云ふことをお話を申して置くが、今日は日本の百般の事に涉つて誠に大切なる時であると考へるのである。何を以て大切な時であるかと云ふに、諸君も御承知の通り日清戰爭は終つて、今日に於ては所謂「勝つて兜の緒を締めろ」と云ふ必要があるのである。それは勝に誇つて安坐して眠るなと云ふことである。即ち今日の軍備を擴張して日本の國を護らうと云ふ考は、畢竟勝つて得た所の實益を失はず、又勝に誇つた正體を現はすこともなく、益〻勝つた所の名譽と國威とを維持する爲めに自から其の護るべき力を養成しなければならぬと云ふ點に歸するのである。而して此等の事業を全うし且つ成就せしむる爲に、勿論諸君は與つて力を之れに致さなければならぬのであつて、國民の一番大切なることは己れの國を重んじて己れの國家とするの觀念が第一にならなければならぬのである。既に今日まで我が日本國民が國家の爲に力を盡して來たことは異常なるものである。其の證據には戰爭があれば、其の戰爭には皆諸君の子供か兄弟か、但しは親類が出て居るのである。人としては此の如くであるが、又今日國家を維持し國家の進歩を圖つて行くのも皆諸君が働いて得た所の財力を以て之を爲すのである。故に日本國は取りも直さず諸君の國家なりと考へなければならぬ。而して諸君に取て大切なることは、獨り右等の事業を發達整理せしむるに止らず、各種の民間に於ける事業の如きも所謂國の富の基を爲すものであるから、今日と雖も非常な進歩をしては居るが、尙ほ之より一層進ませなければならぬのである。其事業はどう云ふものかと云ふと、交通の機關も更に開けなければならぬ。鐵道もまだ不足である。電信もまだ不足である。海上に浮ぶ船もまだ不足である。各種の製造事業に就て見ても尙一層起つて來なければならぬことが多々ある。總て國を富

ますの要素たる經濟的の仕事は、今日の狀態を以て決して止ることは出來ぬのである。只今當所に參る以前に、宇島に於いても、日本國の發達し來つた經過と又日本國が將來に尙ほ發達しなければならことととの話を致して置きましたが、此處に於いても矢張同樣な譯合でお話を申すのである。

此等の事業の進步を圖らむが爲めに第一に必要なることは敎育である。敎育と云ふものは獨り人民が自己の智能を啓發して自分達の利益を計て行くに便利なるのみならず、又己れの國家は如何なるものであるか、己れの國家政治が如何なるものであるかと云ふが如きことを、敎育のある者は輙く解し輙く知ることが出來る。既に自分の國家といふ觀念が必要であるとすれば、其國家の事を知るは勿論必要で、而して國家の事を知らむとすれば則ち敎育に依らなければならぬのであるから、敎育普及の必要なる道理は爰に於て顯然たることゝ考へる。

既に今日の急務は實業の發達にありとするなちば、農なり工なり商なりの總ての實業が段々發達して來るやうに政府も勉めなければならぬが、國民も亦自ら奮進し勉强をして之に努めなければならぬ。先づ農に就て云へば收穫の增すやうにしなければならず、土地も拓らかなければならず、山林やなどの事業もモツと進めなければならぬ。世の中が進めば進む程材木などの需用も殖えて來る、故に今日まで材木を用ゐ來つたより更に餘計に要するのである。その證據を擧げれば家の建築も餘計になれば、造船も餘計になり、又政府の事業で云へば兵營の如きも澤山出來る。又各種の製造場を造るに就ても材木が要るのであるから、山林の事業の如きもモツト發達させなければならぬ。それから農產物も工業が開けるに從て益〻需用が多くなるから、是れも發達させて行かなければならぬ。又商業に就て論じて見ても、今日は獨り國內の需用を充すに止まらず、外國との貿易を第一の目的としなければならぬ。他國の品物を買ふことばかり考へて己れの產出する品物を賣ることを知らぬと、國內の金が直きに盡きてしまふから、自國の品物を他國に賣つて日本國に金を收めると云ふ考にならなければならぬ。

此の如くにして、更に日本の實業を進め日本の國力を養成しなければならぬ今日の時代でありまする。而して其譯をお話申せば、是までは他國――寧ろ外國と云ふた方が當るが――歐羅巴諸國及亞米利加などゝ云ふ國は遙に地球の半面を隔てゝ、我は東に在り彼は西に在ると云ふ有樣であつたが、今は其歐羅巴なども甚だ接近し來つて、速い船で行けば僅かに三十四時間か四十時間で達すやうになつた。乃ち浦鹽斯德は露西亞である。又旅順も等しく露西亞の管理に屬して居るのである。又其向ふの岸の山東に渡れば之れは獨逸である。支那が今日まで自ら其國を護ること

を勉めて、恰も日本が御一新以來勉めた如くにやつて居つたならば、あの大きな國で日本に比し二十倍の土地の廣さがあり十倍則ち四億の人口も有して居るのであるから、非常なる勢力を有するに至つたに違ひないが、國民も眠り政府も怠つて居つた爲めに、十倍の人口、二十倍の土地を有しながら、一戰の下に日本に挫かれたのである。獨り日本に挫かれたるのみならず、歐羅巴諸國からも亦現に挫かれつゝあるのである。而して其結果如何と云へば、歐羅巴は我が國と一衣帶水を隔てた向う岸にまで接近して來たのである。段々支那の將來を考へて見ると、支那の海岸は南から北に涉つて異常なる里數であるが、此廣い海岸は永久に能く其有として存するかと云ふと今の小學校に居る子供ですら能く知つて居ることゝ考へるから別に委しくは申さぬが、是が段々他國の有に歸するのである。即ち支那の沿岸が段々歐羅巴の領分となつて來るから、日本は歐羅巴諸國と隣合ふやうな形勢に立至るのである。

而して其歐羅巴諸國なるものはどうであるかと云ふと、世界各國到る所に商業を開かざる所はないのである。商業を開くに就ては通運の便がなければならぬ。通運の便は蒸汽船に依らなければならぬが、其蒸汽船と電氣の作用に依る通信の便とを以て商業を各地に開いて居るのである。而して今日我日本の商業は如何であるか、我が外國との貿易は、御一新當座には三千萬圓ばかりに過ぎなかつたが、昨年の外國貿易の高は五億圓に上つて、以前に比すれば著しく發達して居るが、併ながら多くは西洋人の日本に來つて商賣をして居る者の手に依つて賣買せられたもので、日本人が外國に出て商賣する者は至つて少いのである。支那なども開ければ商業も開け工業も亦た開けて行くのであるから、之に負けぬやうに日本も商工業を開いて行かなければならぬ。商工業の發達が遲るれば即ち他國に及ばざるの位地に陷らなければならず、若又商工業が發達をすれば自ら國が富み、國が富めば從つて其結果として所謂國を護るの武備も益〻進んで行くことになるのである。故に今日支那の形勢が此の如くなるに當つて　日本は一日も眠ることは出來ぬ。而して唯だ眠らずに居るのみで働かなければ何の效能もないから、今日は大いに働いて實業の進歩を圖り教育の普及を圖ると云ふのが最も必要である。

御一新以前の方針とはまるで違つて居ると云ふことを能く考へなければならぬ。御一新前に當つて外國の事情を能く明にして居る者が少なかつた爲に、攘夷論の如き觀念を持つて居つた者も多かつたが、今の天皇陛下の御代と相成つて王政復古が行はれ、封建が廢せられて大名も無くなり、國を開いて外國と對等の權利を以て交際をしなければならぬと云ふ御方針が定つたのである。故に攘夷論の如きは今日日本に於ては天子の思召に全く反對するものであつて、外國と交際を開

いて平素にあつては外國と通商貿易をし、人と人と相交る上にも十分親睦を旨としなければならぬと云ふことに、國を保つの必要上よりして、國家の方針が定められ、其の方針の結果として國民も條約改正は事を希望したのである。條約改正は政府も國民も共に久しく希望した所であつた舊來幕府が外國と取結んだ所の條約は、日本へ外國人が來ても日本の法律に從はず、日本の裁判に對しては自己が原告となつた時に持出すのみで被告となつた時には先方の領事館の裁判を受けることになつて居つたのである。然るに日本の法律も段々完成して來て、遂に希望の如く條約の改正が出來て、今年の七月以後は外國人が日本の國法に從ふこととなり、外國人の生命財産は日本國民と殆ど同樣に之を保護することになつた。保護の點に於て內外人は全く同樣であるが、權利として享有する所に於ては多少日本人と外國人とは違ふ所がある。其違ふ重もなものは、日本國民には政治に參與する權利がある。乃ち參政權を有する、是れ憲法に依つて與へられる權利である。然るに外國人は其れがない。此等が重もなる相違である。其他旅行の自由、居住の自由、商業、工業を營むの自由の如きは、日本に來て日本の法律に從ふ以上は之に與へられることになつて居る。玆に至つて我法權は全きを得たのである。法權を全うした國でなければ獨立の國とは決して言はれぬ。即ち日本は獨立の權力を全うして、日本國內に居住する者は何人たるを問はず日本の法律政治の下に服從せしめ、且つ之を保護するやうに條約が改正せられて、將に本年七月に至て之が實行せられるのであるから、實行後は此邊にも外國人が來て土地を借り家を建て居住もすれば商賣も爲し、又日本人と組合つて工業もし彼等自ら之れを起すことも出來る。日本人が外國に行つて爲すことが出來るだけは、彼等も此方に來て爲すことが出來るのである。斯樣な時節であるから、日本も餘程勉强してやらぬと、彼の歐羅巴は早く開けて居るだけにどうしても日本人より其れ等の事に通じて居るから、或は日本人が彼等に負けないとも限らぬ。尤も其れ等の事業に熟達した外國人が此方に來て旅行をし居住すれば、日本の利益になることも少なからずあらう。又旅客として日本に來る者は方々遊歷して歩いて少なからぬ金を日本に落すであらうから此亦大いなる利益である。要するに其等の事が本年から行はるゝことになつて居るのであるから今日は誠に大切なる時である。乃ち實業の發達を圖り敎育の普及を圖り、以て富國の實を擧ぐると同時に、人民の度合を進めなければならぬ。進んで行つて對等の交際を爲して耻かしからぬやうにしなければならぬ。其端緒は今日より開けるのでありますから、成るたけ外國人が來たならば之と衝突せぬやうに先づ以て注意をしなければならぬ。勿論惡るい事をすれば訴へることは何れからでも出來るのであるが、成るだけ間違を起さぬやうにして行かぬと面倒を惹起して、國家

の爲めに甚だ不利益な結果を來すやうになるのである。此等の點は天皇陛下に於かせられても御憂慮に相成ることであるから、條約の趣旨は人民も能くこれを心得て間違をせぬやうにしなければならぬ。其れには敎育を進めて行かぬと子弟をして誤らしむるやうなことが出來やうと思ふ。

右樣な譯で、隣には歐羅巴の諸國が段々擴がつて接近して來る。又日本國內には外國人が自由に往來交通が出來るやうになるのであるから、今日は誠に大切な時と考へる。其邊の事は何れの地方に於ても能く心得て居らなければならぬ。固より地方官郡長村長警察官などに於ても深く注意を加へなければならぬ。兎に角我國はさう云ふ地位に立至つたのである。そこで前申す通り、封建時代の日本國民は政治に少しも與からず唯だ支配さるゝのみであつたから、其時に當つては假令政治が如何に行はるゝかを知らうとしても、唯だ己れの上に掛つて來ることの外は知れなかつたのである。然るに今日は己れの上に關係のないことまでも知らなければならず、又知るだけの權利があるのである。さう云ふ人民になつた以上は、人民は國家の事に與かる權利があるのであつて、此の如き仕掛方法をこそ文明の政治と云ひ、文明の人民と云ふのである。文明の政治文明の人民である以上は、益〻其文明を進めて他國に劣らざるやうに發達するのが必要である。故に農工商の事業を發達せしめ、同時に國民の敎育を益〻進ませるのが今日の急務である。獨り人民のみではない政府も俱に之れを圖つて行かなければならぬ。故に諸君に於ても深く此事に注意あらむことを希望する。

私は唯だ一概に諸君を喜ばせるやうなお話をするよりは諸君の心得になるやうなお話を申すのが必要と考へるに依つて、餘り長くはお話を申しませんが、先づ今日の形勢を申せば概略此の如くである。而して文明の人民は獨り民間の事に通ずるのみならず、政府の事を知らなければならぬ。政府の事を知つて政府が如何なる事に對して人民から稅を取立てるか、其取立てた金をどうするかと云ふことを知らなければならぬ。封建時代にあつては、其取立つた金を以て兵力を增すでもなければ人民の敎育をするでもなく、又特に道路や海運などの便を計るでもなかつた。然るに今日の政府は國の發達を圖る爲めに、國力を增す爲めに國民の便宜を成るべく圖つて行くが爲めに、皆其金を使つて居る。其金がどう使つてあるかと云ふことも國民は知る權利がある。之を知ることが出來るやうに敎育さへすれば出來るのである。而して自分の國家に對するの負擔であると云ふことを能く知つて居らぬと、種々の說が其間に起つて來て間違を生ずることが多い。今の政府には一方に議會と云ふものもあり、又新聞と云ふものもあつて、總ての政治に多く秘密がないのであるから、知らんと欲して知れざることはない。會計上に於ても、役人が政府の金を袂

に掴み込むやうな薄弱な會計法は拵えてない。國民の拂ふ所の國稅は悉く國家の爲め人民の爲めになるやうに使はれて居るのであるが、其譯合を能く知らぬと往々種々な說に迷はさるゝことがあるから、之を知らぬ者は勿論之を知るに努め、知つて居る者は知らざる者に能く言ふて之を敎へなければならぬ。

國力の基礎は素と人民に在るのであるから、人民の智識が增さぬ以上は國の力の增さう道理がない。假令いかに國力が增しても、國家の歲出入などは矢張り議會に掛けなければならぬ。議會に掛れば、則ち自分達の選出した代議士が其議事に與るのであるから、其報告に依つても明かに分る。それが分つて而して害を避けて利のある所に就くやうにするには、矢張り國民の智識が增さなければ出來ぬことであるから、前申す敎育の普及を圖るのが最も必要である。而して國家の富を增すやうにならなければ他國から負けると云ふ恐れがあるから、此れ亦た頗る急務である。固より此事たる今に始まつたことではない。旣に日本國民は御一新以來、封建が廢せられて以來其必要を感じて、力を盡したことは異常なるものであつて、殆ど他に比例のないことである。然らば今日まで非常に力を盡して來たから最早是れから先きは宜しいかと云へばさうではない。矢張自分の國を大切に心得て國家の爲めに力を盡し、自分の國の力の增すに從つて人民の度合も高まり人民の資力も增して來ると云ふやうにならなければならぬのであるから政治の事を等閑に附することは出來ない。今日は國民が政治の事を知らなくとも宜しいと云ふ仕掛方法ではないのである。併し意見を言はうと欲するならば餘程穿鑿を盡して見なければならぬ。固より政府に於ても、事に怠るようなことのあらう道理がない。怠れば則ち自國を危するのであるから怠らう筈はないが、國民が能く之を知るに就ては知つて居る者が先づ能く之を明にせなければならぬ。而して追々敎育が進んで參れば其れを知る人間の頭數が多くなつて、從つて疑が少くなつて分つて來れば、其れに就て自分々々の意思を吐くことも出來るやうになるのである。今日の日本は以上述ぶる如く大切な時に遭遇して居るのであるから獨り當縣と云はず、又獨り當地方と言はず、何れの所に於ても同樣是等の急務を果す考をしなくてはならぬ。

日本の近情と實業發達の必要

（明治卅二年五月廿一日、福岡縣小倉町偕行社に於ける歡迎會に於て）

諸君。本日は諸君の御懇篤なる御案内に依つて當席へ參りまして諸君に御面會を申すのは、私の甚だ欣喜の至りに耐へぬ次第であります。既に諸君の御承知の通りに、私は元より漫遊の心得で出掛けまして、豐筑の間を過日來五六日間ほど遊歷して參つたのでありますが、漫遊の途路、到る處で賓客として待遇されて、洵に深く感謝の意を抱いて居ります。殊に當地を通過の際、諸君より特に暫らく立ち寄るやうにとの御案内を受けましたに對しては、最も深く感謝を致す次第であります。それに就いて、何か愚見をお話し申すやうにとの御要求でありましたが、私は元と山水を見る積りで、過日來、この豐筑地方を遊歷しましたが、此の地方の近來の著しき發達を見て、眞に地上錦繡を敷きつゝあるかの如き感を抱いたのであります。維新後十四五年の頃より兩回ばかり當地方を通過致しまして、最後のは慥に廿四年であつたかと記憶致します。其頃は未だ今日の如き盛況を見ることは出來ませんでしたが、爾來石炭の採掘、工業の勃興等に由つて殆ど面目を一新したやうに見受けられるのであります。寔に當地方の繁榮は、獨り當地方のみの繁榮にあらずして、日本全體の事業に關係を有つて居ることゝ存じます。蒸汽力を運用するに就て最も必要なる石炭の多く此地方より出で、日本の經濟上に偉大なる功を奏して居ることゝ存じます。之を三十四五年前に私が歐羅巴から歸つて來た時の有樣に較べて見ると殆ど雲泥の相違があります。私が歐羅巴から歸つた時には、丁度向ふの馬關の地方に於て、此海峽を通過する外國船を砲擊すると云ふ有樣で、長州一面の地は攘夷の巢窟となつて居りましたが、私は歐羅巴遊學中に日本の形勢を考へて實に危殆であると思つたのである。歐洲諸大國は十分の一の艦隊を東洋に送つたのでありましたが其艦隊にすら日本の力は迚も適することが出來ぬと云ふ形勢であつた。然るにも拘はらず、無謀にも攘夷などを實行することになれば、實に國家を覆すに至ると云ふ恐を抱いたから、どうとかして此の攘夷を止めたいと存じて歸國考したのでありましたが、其時の有樣から考へて見ると、實に今日は四海交通の途が開け、此海峽の如きは日本唯一の關門と言つても宜しい。今日は却て關門を開いて交通の關鎖に當て、此地は富源の開發に依つて益ゝ進歩するのみならず、交通の便益に依つて段々發達して來るに至つたのは、即ち是れ維新國定の定むる所に依つたからである。

近來は蒸汽電氣の作用に依て地球の全面が縮まつた。昔私共が洋行をする時には、四箇月を費して漸く歐羅巴に達することを得たが、今日は僅に一箇月を以て達することが出來るやうになり又各種の事情を知るには、電信を以てすれば僅に數時間で足りるやうになつた。從て商工業上の變遷も偉大なものである。此の如き時代に當つては、一國の最も重大なる問題は實業の問題であ

る。實業の發達を促し、富源の開發に由つて國を富ますと云ふのが今日第一の要務である。實業に就ては、農工商何れも緊切なる關係を國家の得失に對して有して居りますが、其中に於て商工業の發達が今日では最も緊急と考へられる。商工業の發達を圖つて國力の增殖を致さぬと、歐羅巴各國は我等に接近し來つて、彼等の財力、智識、經驗を以て東洋の富源を開發せんとするであらう。日本國は他の東洋の諸國と違つて、三十二年前に於て開國の方針を立て、今日文明諸國の伍伴に入て百事競爭に努めざることを得ぬのでありますから、獨り遲るゝ能はざるのみならず、世界の最も商工業の發達して居る國と殆ど伯仲の間に居ることが出來るだけの地位に進むまでは商工業の進歩を圖らなければならぬと信ずるのであります。支那の如きは、御承知の通りに、今を去ること五十年近くもなりませうか、英佛兩軍を合體したる僅か一萬有餘の兵の爲めに北京の大都を陷れられたのである。四億の人口を有して邦疆の廣き宇内其比を見ざる國でさへも、憐れば彼の如く窮迫の地位に陷るのである。而かも其の支那たるや、是等のことに依て眼を醒すことが出來ず、また一國の方針も改めず、事物の改良も出來ずして、遂に晩近に於ける日本との戰爭に再び敗を取り、最早進歩するの時機を失つて殆ど其端緒を開くことも出來ぬと云ふ窮態に迫て居るのであります。併ながら彼の疆土の廣き人口の多き富源の無限なるは今更辯を俟たぬ所で、之に交通の便を加へて農產或は山林鑛物等の運搬をすることになれば、富が非常に增して來ると云ふことも亦疑を容れぬのである。爰に於てか彼の未だ開けざるに際して、我工業を發達せしめ通商の機關に依つて彼の地に製品の供給を謀らなければならぬ。商業は一種の習慣のあるもので何時でも向うの需要に應ずるの用意を爲して先入すれば、必ず其商業は先進者の占有する所となり、其れに遲るゝ者は之に倍するの力を用ゐても容易に入込むことは難かしいものである。今日支那と日本との間は僅かに一衣帶水で、三十時間も經てば速力の迅い蒸汽船ならば達することが出來る。殊に今日日本に於ては工業の端緒も既に開けて居るから、もう少し商業が發達しさへすれば、彼の地方の限りなき要求を充たすことが出來るだらうと考へます。之を歐羅巴の遠隔の地から輸入するに比すると、其便宜は決して鮮少ならぬことゝ考へる。併ながら支那の形勢は此の如く、その政治亦た廢頽して、今や歐羅巴各國は其資本と經驗と交通の便とを以て、之に臨んで大いに開發を試みむとするの時であるから、我國も歐洲諸國に遲るゝことなく、之れに對するの手段方法を講じなければ後日に至つて臍を噬むも及ぶべからざる悲境に陷るであらう云ふことを私は恐るゝのである。是を以て、到る所、商工業の進歩を圖らむことを地方の有志諸君に希望して愚見を述べて廻るやうな次第であります。

當所の如きは商業を開くに頗る便益な所である。內外の關門に當り、豐富なる石炭の供給を受け、又交通の便も備つて、直接支那朝鮮へ交通することが自在に出來るのであるから、最も便益を得て居る港灣と言つて宜しい。此邊には日常講究を要することが頗る多くありますが、山の中に住んで居る人と倶に之を語ることは出來ぬ。內に於て生產する物品の販路を求むることは、どうしても海岸に接して居住する最も商工業に熟練した人達と倶に謀るべき事柄と考へる。

今日の要務とする所は勿論商工業のみではない。敎育のこともモツと進めなくてはならぬ。又歐洲諸國と前岸に於て相對するやうな形勢に進んで參つて居るから、己を護るの備も充實せざることを得ぬ。軍備擴張のことは既に着手されて居りまするが、之が完成に殆ど寸時を爭ふ必要があらうと考へます。抑〻軍備なるものは固より之を濫用するが目的ではなく、不虞に備へ他より侵されぬやうにするのが主眼であつて、若し其備がなければ他に乘ぜらるゝ虞があるから、必ずしも戰を好んで兵備をする譯ではない。鞏固なる軍備があつて他より侵さるゝことなく、己れの商業工業を他國に推擴めるのが目的である。故に軍備と商工業とは相俟つて並び立たなければならぬ。今日の政策は、畢竟するに民間の產業を發達せしめて、物產を多く他國に供給し、其代りとして他國から金を日本に輸入し、以て我國家を富ますと云ふのが主眼であつて、此れが各國の今日競うて勉めて居る所である。故に今日各國の間に橫はる問題は、決して疆土の問題でない。縱しんば疆土の問題が起つたにしても、其れは各自の商工業の利益を收むる手段方法たるに過ぎぬ。幾ら土地を廣げても、利益がなければ仕方がないのである。而して利益を爭ふ點よりして或は要所要所の要港を求むるとか、或は船の碇泊所を必要とするとか、或は石炭置場を必要とするとか云ふことも起りますが、詰る所、海外に於る利益と云ふものは十分平素に於て植付て置かねばならぬ。之れを植付ける爲めには、保護の必要も起つて參らうが、今日歐洲諸國の孜々として努めて居るのは商工業の發達であつて、商工業を十分他國に注入し販路を諸方に求め益〻之れを擴張する爲めに兵備の充實を勉めて居るのである。日本に於ても勿論同一に出でなければならぬことで、敎育の如きも亦是と關係を有つのであるが、畢竟するに、敎育でも軍備でも其目的は富國の實を擧げ實業の發達を圖り、自國の富强を致さうと云ふ點にあるのでありますから、今日政策とし人民の事業として、最も勉むべき所は實業を進步せしむるの一點に存すると考へる。

私は三十五年以前に攘夷論に反對し開國の方針を取られむことを希望して當時頻に論議しましたが、當時は我國衆心の方向が大いに異つて居つた爲めに其の容るゝ所とならなかつた。然るに王政復古と成つて、立所に我國の方針が一變して、今日の開國進取の方針が定められたのである

が、國民が此の方針の爲めに如何に推移したかと云ふことは、人の議論を俟つまでもなく、自分で當時と今日とを比較して考へて見ると、實に非常なる變態を來した。其變態の結果は我國に實に賀すべき盛況を呈したのである。王政復古の當時は日本は未だ封建の世の中でありましたが、私は其時に、此封建を廢して國民の教育を普及せしめ、國力を養成すると共に一國の統一を謀り、兵力も歸一せしめて以て總てを一定の規準に依らしめざるべからずと云ふ議論を始より唱道した。然るに此議論は當時餘程反對を蒙つて、一時は殆ど困難したが數年ならずして明治四年に廢藩を實行せられて、王政の實を擧ぐると同時に開國の方針を益〻貫て行くことゝなつた。而して開國の方針を貫いて行くには世界各國と相對して進歩を圖らなければならぬ次第であるから、國民の智能の開發を第一にしなければならぬと云ふので、百般の教育を誘導せざをる得ぬことゝなつたのである。全體から見ると、國家は上に一天萬乘の天子を戴き下は即其臣民であるから、此臣民の勤勉と智識の開發とに由て一國の富源を開發し、以て國家の隆昌を希望するより外はないのであるが、我國民の過去卅年間に於ける事業の進歩は實に世界の耳目を驚かして居る。宇内の廣き歐羅巴亞米利加諸國を殘らず取除いても尙三分の二を剩すであらうが、日本の如き方針を取つて國の基礎を定め文明の規模に則つて國を發達せしめた所の國は、日本及歐米諸國の外、未だ曾てないのである。其の他の國々は瓦の碎くるが如くガラ〳〵崩れ、其人民は或は他の支配を受け、或は奴隷の境遇に陷り、或は勞力者の地位に陷つて、他國の主權即ち他國の勢力の下に支配せられて居る。其間に立て纔に東洋人種の一として、歐羅巴人種以外に於て、恰も晨星の寥々たるが如く海上に一孤島を横へて卓立して居るものは、實に我が日本國である。故に世界の人の殊に文明人の眼孔に映射する日本國は實に大奇觀である。併し實際は文明諸國が爲しつゝある所を爲すと同時に之を模擦するのならず、自ら利とする所を取つて己を利し、己の事業を進歩せしめたのみである。最初、歐羅巴人は以謂らく、日本人はチョット頓智に富んで巧みに眞似をするが、文化の進歩には頓智以外に進歩の要素がなければならぬ。其要素のない所に持つて行つて一時に文化を入れた所が決して進むものではない。必ずや枯木に花を着けるやうなものであらうと斯う思つて居つたのであるが、豈圖らむや、彼等の見て以て枯木と爲したものは枯木所ではなく、段々根が擴がつて繁植し、根軸の養成に由つて花咲く有樣である。是れ實に、内百般の改良を謀り、之れを事實に行ひ、最後に日清戰爭に依つて之を證明したのである。維新の際に、開國の方針を定められ、其方針に從つて起つた問題は、獨立の國權を回復しなければならぬと云ふことであつたが、所謂獨立の國權とは、日本の邦域内に於ては内外人を問はず己れの國法政治を以て之

を支配し、之を保護すると云ふことである。是が維新開國方針に伴ふ上下一致の希望であつたが此の希望は準備と相俟たざることを得ぬ。明治の初年に於て其希望を表白したこともあつたが、他國は之を容れざるのみならず、自國の形勢を顧て準備が調はなければ到底行ひ難いと云ふことを覺つて、爾來政府は汲々として準備に力を致し、準備既に成れりと云ふことを確むるに及で再び條約改正を歐羅巴亞米利加の諸國に申込んで、遂に改正條約が出來て、來る七月より之れを實行する運びになつたのである。

次ぎに其實行の結果は如何と云へば、今まで領事裁判の下に在つて我日本の法權の下に服從しなかつたものが、領事裁判の撤去と共に我法權に服從することになり、其代りに歐羅巴人は、居住移轉商業其他百般の事業に於て僅かの取除を置くの外は、悉く條約上の權利として之を享有し之を實行することが出來るのである。而して其權利を實行すれば、大いに我國家に利益ありと考へる。今日の世界は、最早人種的の議論を以て爭ふべきの時にあらず、唯だ利益の爭を以て進退するに過ぎぬのである。故に利益と交誼とを俱にすれば、內外の人々が相和して事を共にすることも出來るのである。彼等は資本に豐富で先進の國で、且つ經驗にも富んで居るから、之を能く利用すれば、大いに我國を富ますに足るのみならず、國民の智識の度合を上げて行くことも出來る。改正條約を圓滿に實行し得るや否やといふことは、卽ち日本の文明が進步して居るや否やと云ふことである。若し此れが澁滯して圓滑に行はれぬならば、日本は復た文明の伍伴から突出さるゝことを覺悟しなければならぬ。頑固にして且つ眼孔の狹小なる者は、突出されても差支ないと思ふかも知らぬが、今日の世界は前來申す通り昔と大に違つて頗る交通便宜を極め、歐羅巴諸國も昔の觀念を一掃して世界交通の結果より益ゝ其交通頻繁の程度を高め、到る所其利益を謀つて行くやうになつて居るから、國の境域こそ政治上に於て各々異なつて居るけれども、其利益の觀念に至つては殆んど何れの所でも一樣であるから、之と同樣なる觀念を以て事業を共にして行けば己を利するに足ると考へるのである。

今日に至つては、假令如何なる議論があらうとも、條約なるものは國家の義務として實行されなければならぬものである。主權の作用に依つて一國を代表し、大權の發動に依つて各國と約束をされたものであるから、若し其實行を誤る時には言ふべからざる面倒を惹起し、其結果、國と國との間に問題を生ずるやうになるが故に、此れが圓滑に行はれむことを望んで止まぬ次第である。此事は各地に於て有志諸氏に段々話をして參つたのでありますが、是等の事たる、皆維新開國の規模より發生したる事柄で、今日は其規模の實行を進めて行くべき形勢の下にあるのである。

而して愈〻改正條約が實行せられたならば、西洋人が非常に澤山日本に來るかと云ふと、決してさう云ふものではない。伊太利と云ふ國は歐羅巴の南方に位して歴史上に於ても全歐羅巴と非常なる關係を有し且つ名所古跡の隨分澤山ある國であるから、旅行人の數も年々非常に多く、加るに往來が便宜で海を越えて行けば非常に樂で、鐵道は四通八達の地であるが、それでも尙ほ外人の居住する者は六萬人位しかない。故に我國の改正條約が實行されたからと云つても、日本に來て居住する者の數は遽に非常な增加を來すものではない。又西洋人は隨分利を計るに敏いものであるから、ナカ〳〵日本人が希望する如くに資本をドン〳〵掴んで來て投ずると云ふやうなことがあるべき道理はない。彼等は、確實なる見込が立つて後に事業を起すにしても、日本の事情に熟達する日本人か又は日本の開港場に多年居住して居る外國人と謀つて事をするやうになるから、西洋人の我國に於ける事業の進步は頗る遲々たるものであらうと思ふ。故に之に對して今俄に杞憂を抱いて狼狽するには足らぬのである。

右樣な事態に遭遇して居るから、東洋諸國の形勢よりしても、又世界各國との交通よりしても今日の急務として商業の發達を圖らなければならぬ。日本の一の關門を占め此の如き富源を有する諸君は、既に今日の盛況を示されたが、更に之れを一層進步せしめて海外との商業及交通の發達を圖るに御盡力あらんことを希望致すのであります。固より政治上の事は實業と相俟たねばならぬものでありますから、政府なり議會なりに於ても此事に就ては深く注意を加へざることを得ぬ。政論の如きも、成るべく空論に涉らず事實の問題に就いて、國家の獨立と人民の損益の上に眼を着けて行くやうにせねばならぬ。未だ日本の富源は容易に盡きるものでない。之を開發し之を擴充するの餘地を多く有して居ること〻考へますから、日本人民の忍耐勤勉と學術の進步とを實業上に致せば、國家將來の隆昌は期して待つべきこと〻考へる。聊か愚見を述べて諸君の御參考に供します。

明治維新と今日の國情

（明治三十二年五月二十二日長府功山寺に於ける歡迎會に於いて）

時勢の變遷は實に人の意想外で、思ひ料らざることが多いのであります。私が三十五年以前に歐羅巴から歸つて來た時には、馬關は攘夷の巷と成つて、此長府の如きも殆んど之と伯仲の間に在つたやうな情勢であつた。其當時の形勢と今日とを考へ合せて見ると、僅に三十五年の星霜を經過して居るのみでありますが、天地雲泥の相違であると考へられる。此中には段々年長のお方

も見えますから、當時の形勢を能く御記憶の方もあらうと存ずる。吾々が歐羅巴に在つて下の關に於て攘夷の事が始まつたと云ふことを聞て、當時は今のやうに電信も通じて居らず、蒸汽船の往來もなし、歐羅巴へ日本の通信の屆くのは數月を費すと云ふ有樣であつたので、ナカ〳〵委しい事情は分らなかつたのでありますが、日本を出る前より國內の形勢が攘夷に傾くと云ふことは明かに見えて居つたのであります故に、其考を持ちつゝ歐羅巴に滯在する中に、果せる哉此事の實行されたと云ふことを聞き、又其形勢を彼地の新聞で見、且歐羅巴の獨り文化の進步せるのみならず、武備も亦非常に整つて居るのを見て、到底攘夷などは行はるべきものでないと思つた。其の節歐羅巴方面即ち大西洋方面に於ては、蒸汽船も既に頻繁に往復をして居つた。當時東洋の方面に向つて來る蒸汽船の少かつたのは商賣の關係が未だ今日の如く發達しなかつた爲である。所で歐羅巴の形勢を見ると、既に軍艦なども蒸汽を用て居り、砲術の開けて居つた事は異常なものである。未だ今日の如く甲鐵艦なるものは出來て居らなかつたが、鐵船の製造は既に出來て居つた。木船が勿論軍艦に用ゐられて居つて、鐵船は未だ軍艦に用ゐられず、大きな商船に用ゐられて居つた。併し何れにしても蒸汽の力で走ることであるから、三箇月を費せば、東洋に來ることも出來る。又た此の日本海岸近傍には、英佛蘭米四箇國の軍艦が十八隻も浮んで居る。故に、攘夷の戰爭を始た所が和議に了るの外はない。爭うた結果戰捷の利を占むることは到底難い。若し又一戰にして敗るゝが如きことあらば、將來に於ける禍害は一方ならぬものである。萬一にも日本全國が之に向つて全力を傾けて爭はうと云ふやうなことになつたら、實に一國の安危存亡に關係する譯であるから、歐羅巴などで學問をして居るべき時ではない。兎も角日本に歸つて攘夷の議論を止めて開國の方針を取り國の進步を圖つて益〻富强の道を講ずるやうにせねばならぬとかう云ふ觀念で、今を去る卅五年以前に横濱に歸つて來た。所が將に十日以內を以て横濱に集合して居た各國の軍艦を派遣して馬關の砲擊に赴かしめる用意が整つて居た。最早時日切迫の際であるから猶豫は出來ぬと考へて、横濱で各國公使に縋つて相談を試み、吾々が長州の攘夷は必ず受合つて止めさして見せるから暫らく猶豫して吳れろと依頼した。始めは向ふも固より戰を好む譯ではないから、然らば軍艦を以て送つて遣らうと云ふので、井上と兩人して軍艦で送られて豊後の姫島まで還つて、それから漁船を借りて富海に着いて、上陸して山口に歸つて、君公へは勿論、閣老參政列席の前に於て攘夷の非擧なるを段々論じた。然るに送つて來た軍艦に對しては、其月十一日を期し攘夷を止めるか止めぬか返答をすると云つて歸つたが、ナカナカ山口に於ては攘夷を止めるとは云はない。中には吾々の說を聽いて、至極尤もであるが何分今日の勢ひでは止

めることは出來ぬと云ふ說もあり、又攘夷の事たる勅命に基いて居ることであるから、遽に止める譯には行かぬと云ふ說もあり、又どこまでも攘夷せねばならぬと威張る說もあり、紛々として歸する所がなかつたが、到頭姫島に殘して置いた軍艦に向つて返答をしろと云ふ山口の命令は、

『抑も攘夷は長州一己の考を以て始たことではない。勅命に基いて居る事であるから、長門守を上京せしめて天意を復び伺ふ積りである。故にそれ迄は馬關の砲擊に來ることを猶豫せよ。若し其を待つことが出來なければ、已むことを得ず戰を以て之に對する。』

と云ふことであつた。已むを得ぬことであるから、吾々は姫島まで參つて其返答をして置いて、再び山口に歸つて來ると、既に鄕里より兵を出して居る。彼の三太夫――益田、福原、國司を始め、京都には來島なども兵を率ゐて出て居る。のみならず、木戸や宍戸も京都に滯つて居る。續て條公以下の七卿は長門守と踵を次で京都に歎願に出掛けると云ふ有樣で、先發に京都に出て居つたものが出先きに於て戰端を開き、戰に敗れて引取つて來る。其が還つて來ると間もなく十八隻の軍議が姫島に來て、暫時碇泊して後、下の關海峽に乘り込んで來た。それから僅に三日目位であつたかと記憶して居りますが、山口に於て和議の議論が起つた。其間吾々が四方に奔走した事柄がありますが、事餘り細末に涉りますから省いて置きます。

乃で山口へは姫島より軍艦が來たと云ふことを三田尻から知らして參つたから、引き還へして見ると、高杉は獄屋から出され、井上は馬關に軍艦が來たと聞いて直ぐに山口に歸り、君公は丁度小郡まで出張になつて居りましたが、小郡に於ては開戰以來屢〻敗を取た結果、和議をすることになつて、急に其談判をしろと高杉と井上と私の三人に命ぜられた。而して當地へ來て見ると前田の臺場も壇浦の臺場も落ちてしまつて、奇兵隊際の陣屋も燒き拂はれて居る。皆何處か一の宮邊へ引揚げて仕舞つて居ると云ふ譯。所で吾々は彼處の、向ふの山の側にあつた城の中に這入つて居た所が、各方面に出て居る兵隊は皆攘夷論者であるから、其等を固めて置かなければ和議の談判に掛ることが出來ぬ故、君側に居る者が殘らず各方面に說諭に出掛け、其說諭が行屆いたことを聞いて始て軍艦に行つて談判をすると云ふ手筈で、城の中に待つて居る中に、長府の家老に西小文吾と云ふ人があつて、此人が出て來られて段々話があつて、今日に至つて御本家に於て和議が始ると云ふことは如何にも遺憾なことであると云ふことであつた。さうすると高杉が憤つた。今日さう云ふことを仰しやるならば貴客方はなぜ戰死をなさらぬと議論をしたが、まだ方々の兵隊へ說諭に出掛けた者が歸つて來ない。其れが歸つて來ぬと談判に行けぬから、彼の城中の山に上つて馬關の方面を眺めると、軍艦が馬關の町の前に雁行に列んで居る。而して二三發の大砲を

阿彌陀寺の側の倉に向つて打付け、砂煙が立つ。馬關を砲擊されてしまつては和議をした所が始末が付かぬと考へたから、私が直ぐに山の上から降りて參て城の中に立歸つて、最早や和議を速にせんと遲れるがどうだと言つたが、まだ方々の兵隊へ說諭に出掛けた者からの報知がないから待つて居れと云ふやうな譯。それならば致方がないから、自分が是れから漁船に飛乘つて軍艦に乘込んで馬關砲擊は止めて貰ふことにしやうと云ふので、何でも長府の元とのお船手の居る所であつたと記憶して居るが、彼處から漁船に乘つて二人の船頭を連れ袴大小を脫捨てゝ船で向うの軍艦に押掛けて行つた。一番大きな英吉利の軍艦に乘付けると、ケビンに兵が居つてナカ〳〵這入らせぬ。併し幾分か言葉が分るから、水師提督の居る旗艦はどれか聞いて見たら、向ふに居るユライヤルスと云ふ軍艦が旗艦で之に水師提督が居ると兵士が答へたので、其旗艦を指して行つた所が、旗艦番兵が階子段の上り口に立つて居つた。其處へ丁度今東京に公使として英國から來て居らるゝ所のサトーと云ふ人が當時は日本語の通辯をして居つたが、此人が來て、マア伊藤さんお上りなさいと云ふやうな譯。それから船に上がると急遽に此方へ來いと云ふことであるから船將部屋に行つて見ると船將のアレキサンドルと云ふ人が「今上陸して前田の臺場近傍で大砲を取つて居ると此處を擊たれた」と言つて足の甲の所を治療して居つたが、私に向つて、「貴方の方の惡るい者がコンナことを致しました」と言つたから、私も「それは誠にお氣の毒なことを致しました」と云ふやうな挨拶をして、水師提督に直ぐに面會を致したいと言つた所が、水師提督は今陸に上がつて臺場の大砲を取ることを命令をして居ると云ふことであつたから、速に呼返して貰ひたいと云ふて申入れた所が、宜しいと云ふことになつて、直ぐに旗の暗號で各船の砲門を鎖して、其後から高杉や井上が出て來ると云ふ約束であつたから暫く待つて居る內に、之も漁船に乘つて、高杉は錦の直垂に烏帽子を冠つて、ピラ〳〵漁船の先きに見えて居るから、慥に是に來るだらうと待つて居ると軈て此方に遭ぎ付けて來た。それからして三人になつて始ての和議談判に取り掛ると、向ふではナカ〳〵承知しない。此の如き大事を惹き起した以上は、君公自ら出て談判がありさうなものである。其れがないのはどう云ふ譯か——イヤ君公は病氣で出られぬから吾々が委任を受けて來た——然らば委任狀を見せよ——イヤ委任狀などは持つて居らぬ。それでは談判は出來ぬ、還つて君公の出て來らるゝ樣に盡力をしたら可からう、でなければ十分なる委任狀を持つて來いと云ふことであつた。而して亦和議を結ぶに就ては段々の條件がある。和議をするに就て斯く斯くの條件を約さなければならぬと云ふのである。其條件の中には、和議の條約を締結するまでは戰爭中と認むると云ふことがある。戰爭中と云ふことになると、如何やうなこ

とも出來る。分捕も出來る。何でも出來ると云ふ譯であるから、其れ丈けは斷つて、漸く聽いて貰つた。まだ休戰には至らぬが其頃はナカ〳〵彼の日清戰爭に於けるが如くに、休戰條約とは如何なることをするものか、其條件はドンなものであるかと云ふことを日本に知つて居るものもなければ、吾々もさういふことは知らなかつた。併し常識で以て相談を纏めて歸つて來た。當時君公は丁度船木に出張されて居つたから、船木に於て評議を致したが、評議の中に私と高杉の二人が暗殺をされると云ふ騷動が起つた。此等は御承知でありますからお話するにも及ばぬ譯でありますが、夫より慥か十一人許りと、其外當時の參政をして居るものや、郎黨を同行して馬關に行つた。是から本當の和議の談判になつて、和議が整つたと云ふ譯である。

當時は封建の世の中で、武士は武士、百姓は百姓、町人は町人と云ふやうな階級があり、又彼所に居るものは此所に勝手に移住するといふことも出來なければ、商賣をしないものが遽かに商賣人になることも出來ず、百姓の戸籍などは中々嚴重で、其上に宗門改めなど云ふものが八釜しかつた。爾後、長州は色々な困難を經た。攘夷に引き續いて御一新になるまでと云ふものは或は京都に敗れ、馬關の砲擊より續いて第一の追討となり、それから內亂となり、第二の追討となり實に釜中の魚を煮るが如き形勢に迫つて、誰も彼も死地に陷らぬものはないと云ふ有樣であつたが、此等の困難を到頭拔け切つて、鹿兒島と聯合することになつて、其の結果、首尾よく王政復古維新の大業を開くことになつたのである。固より此等の事業は、今上皇帝の聰明に渡らせらるると御威德の然らしむる所ではあるが、天下に率先して我長州が翼賛したからである。其翼賛する以前に當つては殆んど死地に陷つて、再び今日の天地を開かうとは思ひも寄らなかつた所であつて、我長州は天下に先んじて事をなしたのである。天下に先んじて事をなすのは、天下の人の同意せぬことをするのであるから、隨分困難な事である。困難な事が即ち率先の事業となつて、率先の事業を成功をすれば必ず天下を一變するのである。此至難の事に當つたのは長州である。而して其の長州の事業に尤も關係を有するは此地方である故に、先ず御一新王政復古の事を說かんとすれば、其基點となつた此地方のお話をするのは敢て當らぬことゝは考へぬ。王政復古となつて恰も天の岩戸を押し開いて太陽の光線が一時に日本全國の上に輝いたのであるが、多くの人の耳目にさう感じないのである。

明治元年より四年に至るまでの間に、王政復古に引續いて廢藩と云ふことが起つた。廢藩が行はれて、始めて上は一天萬乘の天子、下は臣民と云ふことになつた。而して兵力も國力も統一し臣民に許すに自由の權利を以てすることになつた。封建時代に在つては、學問をしようと思つて

も其手段が甚だ六かしく、又各種の商業工業農業等も自由自在にすることが出來なかつた。日本の社會には各階級が備はつて居た。此階級も封建の政治に於ては頗る必要のものである。封建が廢せられなければ此の階級を解くことは出來ぬ。階級が解かれて、人民は始めて自由の天地に棲息することになつた。今日では、如何なる事業をしやうとも自由である。如何なる所に住居しても自由である。如何なる學問をしやうとも自由である。金がなければ出來ぬといふことは附いて廻はるかも知らぬが、是れは何れの世、何れの時に於ても同じ事である。此の如くになつて段々國家の形勢が進んで來た。同時に人民の子弟も教育された。まだ今日のところでは一般に教育が行き渡つたとは言へないが、前日に比すれば教育も大に盛況を呈して居る。其から又歐羅巴の文明の學術を輸入して人から人に傳へて、今日は其の爲めに百般の工業も開け、鑛山の事業も鐵道や海運の便も非常に開け、其他社會の上に現はるゝ事物的の進歩は非常なものである。此は皆維新の大業に基いたものである。固より其の目的とする所は國力を養成して國を富し、且國家を保護する防禦力を強め、而して一國人民の文化の程度を上げて國の名譽を高め、其結果國威を發揚するに在る。而して國民は、自由の行爲を許され百般の事に就て働き百般の事に就て利益を得ることが出來ると同時に、又國に對する義務を負はされて居る。乃ち今日丁年に至れば其中から粹を拔て徵兵に採られる義務を負はされて居る。此重大なる義務は、人民が國家に對する義務であると同時に、己れの國と云ふことに觀念を置いて己れの國の爲に盡すのであるから、單に義務とばかり云ふことはできまい。封建の世に於ては、士は普通の人民とは生れが違ふ位に思つて居つたが、豈に圖らむや、人の天性は同一なりと云ふ道理を以て、此の如く變革し來つたのである。固より一時の制度を以て萬古不易のものとするのではないが、自然に基けば、矢張り一般人民も其教育の如何に依つて如何なることをも爲し得るだけに進まれると云ふことが認められたのである。東洋諸國殊に手近の支那や朝鮮などに比較して見ても、ナカ〳〵此徵兵令の如きが行はれることは思ひも寄らぬことである。日本の人民は特種の性質を持つて居る所よりして、國を重んじ國を愛するの念慮が甚だ強い。此の念慮の強い日本國民の精神を利用して、國家の爲めに盡させると云ふ方法が徵兵令などである。又モウ一つは納稅である。人民に取つては稅のない方が便利であらうが、喩へて言へば、出入が自在にして、東西南北、彼方からも此方からも出られるやうにしまた大きな門から這入て行けるやうにして置けば、廻り道をせんで至極便利は宜しいがそれでは防禦と云ふものが着かぬ。防禦と云ふものを必要とする以上は、周圍に垣を結ぶことが必要であると同じく、宇内に於て國を立つるものが澤山あれば、國と國との交際が起る。此交際上の

關係は啻に禮儀禮節のみではない。商賣上や利益上や國の境域の關係等よりして、時に或は權力の衝突がある、其時若し力がなければ忽ち打毀はされなければならぬ。其打毀はさるゝのを防禦せんとすれば、平素に養ふ所あり、根據と賴む所がなければならぬ。其の爲に兵制の用意をしなければならぬのである。

兵制なども、今日に昔時と大いに違つて居る。昔時は其兵を作ると云つても容易く、武器の種類も鐵砲と云つた所が僅に小銃位で、其小銃も火繩銃位で濟んたが、今日の武器は非常に金が掛かる。兵制は矢張り競うて進むもので、丁度管子の兵法に云つて居る如きものである。管仲は、兵の强弱は單り其人間の强いばかりでなく、武器が敵よりも良く、又用ゐる所の總ての器具も良く、何も彼も能く、敵より優つて居なければならぬと云ふことを申して居るが、今日の情勢は丁度其れに當つて居る。各國は武器の競爭をして居る。其の競爭の激しい時代に於て、詰らぬ武器を以て當るならば必ず摧かれる譯であるから、已むを得ず精鋭なものを使はなければならぬ。精鋭なものを使ふことになれば金が餘計に掛る。海上の防禦に至つては非常に入費を要するものである。第一に甲鐵艦、之に次ぐに巡洋艦、水雷驅逐艦、砲艦、水雷艇と云ふやうに、海上の防禦に於ても非常な入費を要するのである。是は皆一國を保護するが爲めである。然らば一國の內には何がある乎。喩へて云へば、一國なるものは宛も倉庫の如きものである。其倉庫の中には日本國民の財產を有し、日本國民の生命を保存して居る。之を保護する爲めに必要なる防禦力であるから、之を忽せにすれば倉が打ち毀はされるのである。而して猶ほ此に止まらぬ。平素に於ては益〻敎育を進め人民各種の業を進めるやうにして行かなければならぬ。政府の政治と云ふことも多くは國民の各種の事業に關係することである。之を外にしては政治の重大なる問題は外國との關係があるのみで、其以外に於て政治と云ふものがあるものではない。故に政治問題として必要な事は民間社會の經濟上に關することが一番多いのである。之を益〻進めて行かなければならぬと云ふのである。さういふ譯合よりして御一新の方針が定つて今日まで着々歩を進めて來て今の形勢となり移つたのであるが、三十二年間の事業としては實に驚くべき長足の進歩をなして居ることは疑を容れぬ。三十二年以前には、各藩の大名が商船の古船を五艘か十艘持つて居つた位のもので、今の二等巡洋艦の一隻もあれば忽ち敵き碎き得る位であるが、其れを海軍と思つて居つた。今日の海軍はソンなものではない。今日は軍備擴張の半ばにあるのでありますが、之が整頓すれば、東洋に於て無比の勢力になる。日本國民が納稅の義務を盡した結果として、此の如き防禦力も備るのである。此三十二年間に於て日本國民の爲した事業は實にエライものである。

世間には色々な議論があつて、日本國は富んだか或は其富を減じたかなどゝ、今日まだ夢のやうな議論をして居る人が多いやうであるが、御一新の際から其後四五年の間に於ては、日本の財産は洵に貧弱なものであつた。玆に貧弱とは、其時の政府の財政のみを指すのではない。今日政府の財政と云へば所謂豫算のことで、國家の財政は是れに皆逐一擧げてあるが、此政府の財政のみを以て日本經濟社會の狀況を知ることは出來ぬ。一方に於て日本の殖産興業の統計を見なければ分らぬ。即ち米の出來高は維新當時より今日は幾ら增して居るとか、麥の出來高がどうとか、鑛物がどうであるとか或は漁獵水産の高はどうであるとか云ふやうに、皆夫々の事を計算して來て見ると、三十年後の今日は其前に比較して實に何層倍と云ふものになつて居る。其力の增した結果人口が非常に殖えて居る。元祿時代と思つて居るが、其時の人口調は固より精密なものでないと見て、先づ大體に於て日本の人口が二千六百萬位であつたと承はつて居る。明治初年の日本の人口は三千二百萬であつたが、今日は實に四千三百萬となつて居る。實に一千萬以上の增加である。而して舊幕時代乞食などをするものが非常に多かつた。當地方はどうであつたか深く私は知らぬが、東海道筋や江戸の往來筋には非常に多く乞食が居つた。奥州邊に參ると山の中に乞食が乞食仲間で互に婚姻をすると云ふやうな事であつた。然るに今日は貧窮の爲めに乞食をする者も多少あるか知らぬが決して前日の比ではない。一體人口は、食物がなければ增さぬのである。併し食物が增したら人口が屹度增すかと云ふと、さうではない。食物が得られるのは、人が働いて其代りに得るのであるから、仕事と食物と二つがなければ人口を增すことは出來ぬ。然るに鐵道も開け、電信も開け、又運送船も增加し、製造業も勃興し、港灣の改築、道路橋梁の修築、各種建築の起工等が盛んに行はれ、此等の仕事に依つて賃銀を貰ひ從つて澤山出來る物産を分配することも出來るのであるから、人口が殖えるのは乃ち財政の殖えるのと同じ事である。此の如くして三十二年間にして今日の狀態まで進んで來た。海外の貿易を以て見ても、御一新當座に於ては內外の貿易高は賣るものが一千五百萬圓買ふ物が一千五百萬圓で、一年中の貿易高は僅に三千萬圓に過ぎなかつたが、昨年に至つては四億四千萬圓以上に上つて居る。

斯樣に海外との貿易は進んで居るが、今日は尙ほ一層之れを進めなくてはならぬ。日清戰爭の結果、日本國は各國環視の中に在る。列國は我國を見て決して輕んじないのみか、日本に向つて備ふる力を增加した。日本國を略奪しようなどゝ云ふ國は決してないにしても、事の關係よりしては或る場合に戰爭もしなければならぬことも起て來ぬとは言へぬ。即ち他國が事に際して日本を輕んじないと同時に、決して之を子供視して打捨てゝは置かぬのである。故に日本國は益〻國

力を養ひ、一方に於ては國民の教育を忘らぬやうにし、國民の地位を上げて行かなければならず、又一方に於ては國を建てゝ行く以上は獨立でなければならぬ。人に支配せらるゝやうではいかぬ。獨立の國は獨立して已を護り、已の働きが獨立に出來なければならぬ。人が働かうと云ふ時に、ドッコイさうはいかぬと頭を押へられるやうなことでは、決して獨立ではない。而して獨立して國を建てゝ行くには、何れの獨立國も行うて居るが如く、己の法律と己の政治を其邦域内に完全に行はなければならぬ。是れが爲に御一新以來、上下擧て、日本の國權を恢復するとか、國權を全うするとか、獨立の權能を全うするとか云ふ議論が喧しかつた結果として、條約改正の事も行はれて、將さに此七月を以て實行さるゝことゝなつて居る。愈〻改正條約が實行さるゝと外國人は日本に來て何れの所にも自由に往來が出來、又何處へ行つても居住が出來、商賣工業を自已ですることも出來れば、日本人と組合つてすることも出來るのであるから、日本國民は開闢以來、未だ曾て會はざるの形勢に遭遇する譯である。日本は神武天皇の御即位以來未だ曾て外國と十分交際を開いたことはない。然るに今度始めて外國と交際を開いて世界中の人と交はることに、此七月からなるのであるから、日本國民たるものは宜しく大國民の襟度を以て之に對さなければならぬ。詰らぬことを考へて居つてはいかぬ。一個人一個人同士の爭の如きは既に日本に完全なる裁判官があつて理非曲直を裁判し、内外人を問はず等しく之に服從しなければならぬ譯であるから此等のことは一向憂ふるに足らぬ。又國と國との關係はどうかと云ふと、外國人の日本に來て住む者が、日本の國力を動かすとか日本の兵力を動かすとか云ふことはあるべき事でない。若し國と國とに衝突があれば、日本國民は納税の義務を負うて萬一の場合に國を保つべき防禦力を既に作つたのであるから、是れも一向に恐るゝには足らぬ。然らば外國と交際を開いて、互に智識の交換をし、彼等は久しく地球の上の諸所方々を廻つて各地の狀況を明かにし、且つ經驗にも富んで居るから、其經驗のある所を取つて以て我國人が自ら利すると云ふことになれば、大いに智見を開く所もあり、又確かな外國人と組合つて商業をすることになれば、彼等は商業の仕方も上手で且つ手堅く規律的に事をすることに慣れて居るから、我國を益すること大いなりと考へる。未だ曾て世界各國と獨立の交際をしなかつたものが、是れより始めて交際を開いて、若し立派に交際が出來れば、文明的の人民として世界の人から驚かれやうが、之に反して若し之を誤るに於ては、世界中の人から日本は開けたと云ふけれども其實はいかぬ、世界の人と普通に交はることが出來ぬと、斯う言はれなければならぬ。どうぞさう云ふことのないやうに、我國の位地を上げて行きたいと思ふ。又一方に於ては、日本國民は以前と違つて參政權を得て居る。一體

國政と云ふものは、天子樣が爲さるゝのが當然で、之れを學問的に分つて見ると二つに分れる。即ち法律を作る立法部と政治を行ふ行政部とである。行政部の方には司法裁判も這入つて居るが立法部は稅と法律とに就て國民に相談する所で、國民は其の御相談に與る爲めに議員を選んで出す。卽ち參政の權を得て居るから、取りも直さず國民が國家の大政に參與するのである。憲法を以て與へられた所の此權利は決して奪はるゝことはない。憲法は欽定憲法であつて、天子が下民に向つて綸言汗の如く布かれたものであるから、萬古不易決して動かすべからざるものと言つて宜しい。さういふ貴重の憲法とすれば、之れに對する國民の義務もまた考へねばならぬ。さういふ權利を賦與された國民であれば、一國の政治の利害は其身に負ふ所であるから、已れ自らの利害と國の利害とは十分明かになし得るやうな代議士を選で議會に出さねばならぬ。議員となつて出ようと云ふ技倆のあるものは、自ら出づることを努めて宜しい。封建時代の考へと今日の國民の考へとはさういう風に變らなければならぬ。故に何時までも睡つて居れば國に對して義務を盡すことが出來ぬ。今日でも往々にして古い夢を見て目の醒めぬ人民もあり、山の中などには頑固の說を唱ふるものがあり、甚しきは攘夷の觀念を持つて居るものさへあるが、今日は最早攘夷の觀念は拋たなければならぬ。今後は國家の利害得失の如何によつては外國と戰もしなければならぬが、併し平日は敵とは見ず友達として見なければならぬ。以前は外國人さへ見れば野蠻だとか夷狄だとか思つたのであるが、其の事は明治初年に於て天皇が國是方針を御定めになつて、既に改まつて居る、其の改つた事を自己の勝手な考へを以て反對して、それで忠義だと思つて居るのは間違である。どうしても其の御定になつた國是方針に從つて行かなければならぬ。國是方針なるものは一國の安危存亡を定める重大な事であるから、其の方針を守つて國民たるの義務を盡せば、夫れが乃はち國家の爲にもなれば又一國の富强を致して行くの途も自から備つて來るのである。日本の富强を致すことに就て、實業の奬勵とか或は殖產興業とか云ふことが固より今日の急務であるが、此のことに就ては各地に於て段々お話して置たから、新聞紙上にも現はれて諸君の一覽を經る時があらうと考へる。依て大要先づ此の如きの世界であると云ふことをお話し申して今日諸君の懇篤なる歡迎を蒙つた厚意に對するの謝辭に代へる譯であります。

憲法治下の國民と其觀念

（明治三十二年五月三十日三田尻市寶成庵に於ける歡迎會に於て）

諸君。此節は閑散の地にあるの故を以て當地方へ漫遊に出掛けました所が、當地に於て有志諸

君の頗る懇切なる歡迎を蒙つて深く感謝する所であります。私は御承知の如く當國に生れた者でありまするが、幼少の時より多年外に在つて山口縣下に居住したことは誠に僅な年月であります。特に維新以來は當初より身を官海に委ねて長く要路を汚して居りました故に鄉國に遊ぶことは至つて度數も少なかつた譯であります。故に諸君の中にはお目に懸つたお方も至つて少なからうと考へる。併しながら維新後兩三回は馬關の地方へ、又先年は忠政公以下の御銅像建設の事に就て本縣の有志者より推されて右建設の總裁を命ぜられた譯でありましたが、其節防長各地を巡廻致して御銅像甃設の事に就て防長が勤王の事に與つて力あること、忠正公等の王室に效された所の偉勳の事蹟等擧げて各地に於て談話を致したやうに心得て居ります。其外は餘り當地へ出掛けたこともない次第でありますが、鄉國のことでありますから、足山口縣下に立入れば舊時の事を回想致すは人情の免れざる所である。

今を去ること三十五年前に私は歐羅巴から歸國して始めて富海に上陸し、此の地を經過して山口へ入りましたが、當時は攘夷論の頗る盛なる時であつて其攘夷論に對して私は異議を唱へた譯でありました。固より攘夷論の到底行ふべからざることを縷々陳述に及ばんと欲して、是れが爲に歸國致したやうな譯である。然るに當時の形勢を想像して見ると此防長兩國は實に浮沈の境に臨で居つた有樣であつたのである。一面に於ては外國と戰を開き他の一面に於ては京師に於て戰端を開くと云ふやうなことであつて殆ど防長の形勢は釜中の魚を煮るが如きの有樣であつたと記憶して居りまする、年長の諸君の中には當時の形勢を今日も尙ほ記憶に存せらるゝ人もあらうと考へる。而して爾來三十五年の星霜を經過して居りますが、此の間に今日より想像すれば隨分國家の危急に關するやうなことも數々あつたと考へられる。然るに幸運なることには、日本の運命は屢〻安危の境に臨んで屢〻安危の境を免れ、今日國家の祥運は前古未曾有の形勢に立至つて居る。畢竟するに王政復古の大業より維新開國の國是を定められて內は國民の協同一致を謀り、外は益〻敦交の道を講じ、而して國力の增進を圖り、國民の敎育を勉め、進んで憲法政治と成つたのでありまするが、憲法治下の國民とは如何なるものであるか如何なる觀念を持つべきであるかと云ふお話を致したいと考へる。

抑〻憲法の政治とは、上下の權域を分劃して人民の當さに盡すべきの義務を盡し、人民の當さに得べき權利を得せしめて、之を確定して天皇の大權を以て政治を行はるゝことである。參政の權とは「政に參かる」と文字に書いて居りまするが、凡そ政治と云ふものは主權に屬するものである。主權は一天萬乘の天子に屬する事柄でありますが、其天子の御行ひになる政治に參與すると

云ふことである。して見ると日本開國以來未だ曾てあらざるものが開かれたのである。往昔大政の行はれた時に當つても、日本國民は此の如き位地を得たことはなかつた。當時郡縣の治は布かれて居りましたけれども、立法上の事に參與するやうにはなつて居らなかつた。而して武門の世となつては國民は唯だ命維れ從ふと云ふ外はなかつたのである。然るに王政維新となつて封建を廢し郡縣の治を布き、次いで憲法の政治が布かれて、日本國民は始めて正確なる國民の位地を得たのである。近代之れを稱して文明の政治と云ふ。文明の政治は文明の民でなければ出來るものではないから、日本國民は文明の民たるの位地を得た譯である。而して國民の參政權とは國會卽ち上下兩院の議員を選擧するのが重もなる事柄でありますが、併し是れのみに止まらぬ。國政の利害得失を明にしやうと云ふ觀念よりして己れの代表者たる議員を選むのであるから、文明治下の民卽ち憲法治下の人民は成るべく教育を普及せしめて、一國の利害得失に關係することが明に分るやうにならなければならぬ。

專制政治は多く秘密に涉ることが多いのでありまして、孔子が說いて居らるゝやうに由らしむべし知らしむべからずと云ふ仕掛方法であるが、憲法の政治は成るべく國民に政治の利害得失を明に知らしむる仕掛方法である。而して之を知ると知らざるとは其教育の如何に關係することであります。素より教育は一朝にして之れを進步せしむることは容易ならぬのであるが、併し漸々子弟をして學に就かしめて、教育の進步するに從ひ、又時勢の變遷するに從ひ、憲法政治の仕掛方法の解釋に對して段々經驗が積んで來るに從つて、政治のことも何でも分り易くなるやうにならなければならぬ。自然にさう云ふことになる譯である。故に此政治と云ふことに就て國民は眼を塞ぎ耳を掩うて居ることは出來ぬ。啻に出來ぬのみならず、各種の事業に從事するものは何者か政治と相關聯せざる者あらむやで、農業に從事するものも商業に從事するものも工業に從事するものも、等しく政治の仕掛方法に依つて盛衰弛張を來すものである。して見ると政治なるものは民間の利害得失に直接の關係を有つものであると云はなければならぬ。既に利害得失に關係を有つものであれば、常に之を明にするやうにしなければならぬ。然らば國民擧つて皆政治を研究して其れに通ずることが出來るかと云へば、未だ何れの國に於ても其れ程迄に十分なる發達を爲して居る所はない。其れまでに至らずとも、教育あるものが多數になれば、知らざる者も亦大いに便益を得て自から物が明になる。政治のことを國民が解さないと、往々にして誤解をすることがある。人民は國家に對して納稅の義務を有する。人民は國に稅を拂ひ此稅は如何に使はれるかと云ふことを明に知ることが出來る仕掛方法になつて居る。專制の政治と違つて、憲法政治に於

ては計算などは最も嚴密な方法を採つて居る。如何なるものが幾ら這入つて總計して幾らになるか、又之をどう云ふことに使つて居るかと云ふことを知ることが誠に易い。若し之に疑を抱く者があれば、之を質すことが出來る之を明にして國民に知らしむることも、憲法政治に於ては矢張り政府たるものゝ義務である。今日日本の歳入が幾らあるかと云ふことを知らうと欲するならば直ちに之を豫算に就て知ることが出來る。豫算上に現はれて居る所の歳入は二億四千萬餘になつて居ると記憶して居るが、併し國民の義務として拂ふ所の稅額は殘らず集て一億八千萬足らずのものであらうと考へる。其一億八千萬程の納稅を國民が納めて居るが、これはどう云ふことに使つて居るかと云ふことは、支拂ひの上に就て見ると、總てが明瞭に分るのである。

憲法政治の仕掛方法は斯くの如くである。併し封建政治が永續した爲に、人の觀念習慣は容易に改まり惡くゝて、今日は政治の仕方方法が以前と大に異つて居るけれども、矢張り以前と同樣の觀念を有つて居る人が日本國中にまだ餘程多い。政黨、政論をする者或は新聞などでは時としては故意に之を欺くやうな術を取る者もあり、又其れを利用する者もある。併し財政の事を明にすることは、己が從事する職業と直接の關係を持つて居ることであるから、之を明に解するやうにすることが誠に必要なことである。之を解しさへすれば、人の騙瞞に陷るやうなこともなければ又自ら疑惑することもない。其上で始めて利害得失を論辯することが出來る。知らずして事の利害得失を論辯することは到底出來ない。

今日の世の中は德川氏昇平三百年の時代と違つて海外と交通を開くやうな時勢に相成つて居りますから、國民も外國の事情に精通するやうにならなければならぬ。孫子も彼を知り己を知ると云ふことを言つて居るが、これは獨り兵學のみに止ることではない。國を立てゝ行く以上は、己の國を知るのみにては足らぬ。人の國も十分に知らなければならぬ。人の國を知れば我が足らざる所と我が長ずる所とを知り、比較的に物を見ることが出來る。又彼の長を採り我が短を補ふことも出來る。今は總て世界萬國交通の世の中でありますから、交通の利便に依つて己を利益することに深く注意しなければならぬ。維新の方針に依つて開國の規模を定められて以來は、一朝にして前日の攘夷論と相容れぬことゝなつたのであります。是れは維新中興の際に於て當時王政復古の業を重もに補翼した忠正、忠愛兩公などが大いに與つて力を效された所である。而して始めて至尊の思召となり、天皇の叡慮となつて日本國中に發せられて來た譯でありますが、此の方針は實に大切なるものであつて、若しも此時に於て斯の如き方針が定らなかつたならば、日本國は今日の如くに隆盛を極むることは出來なかつたかも知れない。又人心と云ふものは妙なもので、

國是方針に定る所がなければ紛議百出して底止する所を知らぬものである。卽ち嘉永癸丑の歲に亞米利加に海門を叩かれて以後、文久巳亥の歲まで、殆ど十年の歲月の間は、日本の國論は尊王攘夷或は開鎖の論であつて、到る所に紛擾を極め、各藩に於ても互に黨を結び、或は各藩相抗爭し、又民間の有志者學者等が種々な議論を爲し、之れが爲めに刑辟に觸れた者が幾らあつたか知れぬ。是れは甚だ悲しむべきことであります。我が長州の如きは始め馬關に於て外國と戰端を開き、後遂に和議を締び、無謀なる攘夷を以て國を保つ能はざることが明かに分つた結果、天下に率先して大いに開國の主義を執つた。是れ王政復古の際に定められた所の方針でありますが、其方針よりして、外國の事物を入れなければならぬ。外國の學問を誘導しなければならぬ。外國との交通を益〻頻繁ならしめなければならぬ。外國と成るべく商賣の途を開かなければならぬと云ふことを三十年間唱道し、之を奬勵し、之を誘導し來つた結果、電信の架設、鐵道の延長、海灣の築港、鑛山の開鑿等は勿論、其他の事象に於ても枚擧に遑あらぬ發達を爲したのであります。是は皆此方針に基いて來たものである。而して今日は如何。

今日の形勢を三十年以前に比すると、日本の富力の增して居ることは十倍や二十倍ではない。外國との貿易に於ても維新草創の際は僅に三千萬圓であつたが、今日は五億以上に成つて居る。又人口も三千二百萬ばかりであつたが、今は四千五百萬に殖えて居る。國家の歲入にして見ても、僅か六七千萬であつたものが今日は一億八千萬になつて居る。而して此の金は、學校を開き各種の試驗所を設け、又交通機關の便を圖り、又國を護る所の防禦力をして益〻鞏固ならしむる等、種々の事業に消費せられ、政府の事業は實に枚擧に遑あらぬほどである。之と同時に民間の事業の發達もまた異常なものである。現に日本國民の計畫して居る事業で株金を以て成立つて居るものが總額九億圓餘もある。悉く今拂込にはなつて居らぬけれども、現に持込んだ所のものは其半ばを越えて居る。是れ皆維新國是の方針に依て、日本國民が勤勉、忍耐して發達し來つた結果であると考へる。我日本國民を除いては新に世界の各國と交通を開いて斯くの如く圓滿に經過し、歐洲文明の模範に則つて一國の經濟、一國の敎育、其他百般の事業を斯くの如くに進步せしめた國は他には決してないのである。亞米利加及び歐羅巴各國の如きは、素より文化の源を其地に發し、然らざれば其人種が移つて新に國を成したものであるから、人と共に文化の移るのは當然のことであるが、まるで人種が違ひ風俗習慣が違ひ歷史を異にする國であつて、殊に遠隔にして、古來海外と斷ち切つて居つた國にして、日本の如く文化の發達を來した所は、世界中に一もないのである。而かも其の歲月たるや僅に三十餘年である。三十餘年の歲月は人の一代の半ば少

し餘りにしかならぬ。

近來の學問は多くは皆事實應用でなければ役に立たぬのでありますが、事實應用の上に於て日本人が働いて居る有樣は、此れ亦世界の耳目を驚かすに足るものである。汽車が走るのも、電信を架けるのも、各種の機械を扱ふのも、亦化學的の作用に因るものも、物理的の應用に由るものも、悉く日本人の力日本人の手でやつて居る。此れ亦歐米諸國を除くの外、何れも外國人の力を借らなければ出來ぬことでありますが、日本國の着目が善く、方針が善く、人民の子弟が勉强にして、資性、材能を持つて居るものが現はれて、以て此結果を生じたものと考へられます。此の如くにして進めば、疑もなく日本國は將來に於て地球上の文明諸國と隆盛を競ふことが出來ると確く信ずるに足るのであります。

併し國家なるものは、進めば進む程實力を養はなければならぬ必要が起る。又進めば進む程費用を要するものである。此費用は、政府に於ても亦民間に於ても成るべく其進みを助長せしむることに用ゐなければならぬ。今日の形勢は大略此の如くでありますが、決して爰に安ずることは出來ぬ。今日は各國共に境域を限つて、經濟を立てゝ居るのである。各人の發達を圖れば自ら人民の富を增加し、人民の富之を積算して國家の富となるのであるから、今日一番大切な問題は日本國民の經濟問題である。此發達を圖るには農工商——所謂實業の進步を謀らなければならぬ。而して實業の進步は資力と伴はなければ出來ぬが、併し資力ありと雖も懶惰にして其の業を怠れば其資力を空くする譯でありますから、其れを適當に用ゐしめて增殖する方法を講ずるのが、各事業に從事するものゝ努めねばならぬことゝ考へる。

各國の今日爭ふて居る所も卽ち其處である。自國の强を計らむと欲して、昔時は唯だ兵力の强大のみを圖つたが今日は獨り兵力の强大のみでは可かぬ。富源の開發卽ち財力の增加が伴はなければならぬことになつて居る。今日或は外交と云ひ或は政策と云ふも、多くは皆此の自國を富ませ自國の國民を富ませうとする國と國との生存競爭の戰である。平和的の戰である。故に自國で生ずる所の物產、自國で製造する所の物產は、之を他所に販路を求めて賣却し、以て成るべく金を己れの國に收めねばならぬ。其結果、富の增加に從つて國民の品位も揚がれば又國家の繁榮も期して待つことが出來るのであります。

今日の時機は最も大切な時機である、東洋の大勢上よりして已むことを得ず日淸戰爭も起つたが、既に結了し、所謂勝つて兜の緒を締めるべき時機である。一個人に就て言へば兜の緒を締めるで宜しいが、一國に就ては兵力を緩めれば則ち兜の緒を緩めると同じことでありますから、益

ゝ國を護るの堅城を築かなければならぬ。是れ單に戰を好む爲めに兵力を增すのではない。他より侵されぬやうにしなければならぬ爲である。交際には勿論禮を重んじなければならぬ。無禮を加ふるものがあれば、已むを得ず己れを守る爲に戰もしなければならぬ。平素に於て、先刻申す如く生存競爭の今日であるから、貿易の區域を擴げなくてはならぬ。此貿易に就ては當業者のみが知つて居て外の人が知らぬと云ふやうなことではいかぬ。現在日本國民の着て居る着物の原料たる棉花は多く亞米利加、印度、支那地方から來る。所謂貿易通商の機關に依て運搬されて來るのである。又日本の生絲、茶、石炭などは何れの所に販路を求めて居るか。其他の雜貨は如何。人に先んずれば己れの販路を得、人に後るれば己れの販路を失ふ譯である故に、先鞭を着ければ商賣の發達を圖ることが出來るのである。而して成るべく無益な入用を省いて物品を安く供給するものが商賣上に於て優先の位地を占めることが出來る今日の世の中でありますから、此商賣のことに就ては、政策上また國民の事業として最も注意を要することゝ考へます。各地方々々の有志の人が深く注意を加へ、一般の人に能く其理合を知らしめ、能く其理の存する所を知らしめ、以て誘導するやうに相成りたいと考へる。外交上に於て近來に起る所の問題は、屬地の事に關係をせざれば、多くは商賣上の事より起り、若し商賣上に得たる所の權利を失ひ併せて其利益を失ふと云ふことになれば、其不幸たるや實に國民生存の上に關係する譯であるから、國家は之を國家の問題として外交的に之れを扱はなければならぬやうになつて居るのであります。又日本の農業なるものは近來に至つて餘程發達して來て居る。農者は多くは農に專らに勞力を用ゐて居なければならぬから他の事には通ずる餘暇がないか知らぬけれども、併し農者も亦商の事に幾分か關係を有たざることを得ぬ、と云ふのは己れの收穫したるものを賣買すると云へば即ち商業の事となるからである。工業者も亦其通りである。商賣と云ふものは有無相通じて彼我の交換を爲すと云ふことで、今日の經濟社會に於ては何人も之を知らざることを得ぬ事柄である。殊に經濟の事は多く商賣の上に關係を持つことでありますから、日本國の政策と云ふものも是れよりは大に商賣上に發達を計ると云ふ方針に行かなければならぬ。是れが爲め昨年も此商工業の發達を計らむと欲して選擧法の改正案なども議會に提出して置いたやうな次第でありますが、此商工業に從事するものも獨り商工業のみの利益を計るにあらずして、商工業は多くは內地の關係もあるにしても、外國の關係と云ふものは大いに商工業者が與つて扱ふものであるから、其道に長じたものが帝國議會に現はるゝやうに相成らぬと國家の不利益であると考へる。卽ち本年も其案が議會に橫つたのでありますが、遂に通過を見ずして止まつたのは甚だ遺憾に存ずる所である。此等の改正

案などは皆經濟上の問題と相牽聯して居ることであります故に、唯だ議員の數を增加するとか或は政黨の異同などの上の利を見ると云ふ次第ではない、誠に緊要な問題であると考へる。

今の時に當つて隨分近視の眼を以て見る人は、此の世の中を太平の如く見て居る。外交にも格別至難な事もないから、日本國が危險な地位に陷るやうな憂はないと見て居るのでありますが、素より危險な事などがさう輙くあるべきものではないにしても、怠ることは出來ぬと云ふことを常に考へて居らなければならぬ。支那の如きは堯舜以來縱令他國に侵されたとしても、纔に近隣の同人種に過ぎなかつたが、今日は實に古今未曾有の危險な境遇に陷つて居る。此の一事を考へて見ても、世界の形勢が如何に變遷しつゝあるかと云ふことを想像するに餘りがある。今日の形勢は決して枕を高うして安んずべきではない。日本國民に向つて私が飽まで希望することは、實際の事業を益〻進歩せしめて國家を安全の地位に置き、平素に於て富國の術を講じ、事ある時は國を護ると云ふ精神を益〻進めることである。政治に與る權即ち參政の權を得たる國民は、所謂至尊と社稷の憂を分つのである。此社稷を奉じて居る所の政治上に啄を容るゝことを許され、啄を容るゝ權利を得て居るのであるから、洵に重大なる國民の職務且つ最も榮譽ある職務である、此職を盡しつゝ國家の發達を計らなければならぬことゝ考へるのであります。

學生の覺悟

（明治三十二年五月三十一日　山口尋常中學校に於て）

諸君。此節當地に來遊したに就て、當校へ參つて何か諸君の心得になるやうな話をしろと云ふことでありましたが、諸君を益し且つ諸君が將來に向つて抱く所の希望の點に就て諸君を利するやうなお話は甚だ難かしいことである。況や生徒の中には高等の學校に在る人もあれば中學又は農學校、師範學校に在つて學業に從事さるゝ諸君もあると承るから、各々將來の職務も亦た異同があるであらうと考る。併しながら斷じて一言申せば、諸君の將來に就いては、日本の社會は諸君の學業の成就するを待ちつゝあるのである。

我國各般の事業は纔に其の端緒を開いたのみである。然るに一國の社會は常に進歩して止る所を知らぬものであつて、從つて事は日を逐うて頻繁になつて來るものであるから、社會の事業は世の進歩と相連れて共に專門的に事が分れて參るのである。故に今日學業に從事して居る書生が將來各種の事業の爲めに力を伸すの原野は甚だ濶遠なものであると考へる。今日まで日本國は文明の方針を取つて歐洲の學術を誘導して參つたとは云へ、歲月の僅々にして殊に維新以前の學問

とは大いに異るものであつた爲めに、其の進歩は未だ以て歐米諸國と比肩の地位には進んで居らぬのである。故に益〻事業の進歩を圖ると共に、其學業の進歩は必ずや社會の事實問題に應用されなければならぬ。世界の文明諸國の有樣を見ると、近來の進歩は實に偉大なるものであつて、社會の全面に現はるゝ所の各種の事業は悉く根據を學術に置かざるものはない。而して其專門的に發達して行く所よりして、人々の從事する事業は、最も專攻を要することゝなつて來て居る。從つて其の勢力も社會の上に異常なる發達を爲して參つたやうな有樣である。故に諸君が將來に於て爲さむとする所は殆ど枚擧に遑あらぬのである。固より諸君は皆各々其目的とする所を有して居るであらう。而して其目的とする所は、或は海陸軍の武官となり、或は國家の官吏となり、或は商業或は工業或は農業或は教育と云ふやうに、皆其適從する所に從つて選むがまゝでありませうが、唯だ予は之を一貫して一言以て諸君に勸告したいのは、人は忠實にして勤勉ならざれば何事も成就しないと云ふことである。忠實とは即ち其從事して居る事柄に親切でなければならぬと云ふの謂である。又世の中には詐欺百端の事が行はるゝやうな時もあるが、併し其首尾を見ると、詐術は永遠に貫けるものではなく、纔に一時を僥倖するに止るものである。故に信義を以て立たなければ、人の希望を全ふし社會を益することは到底出來ぬのである。商業に從事する者と雖も皆然らざることを得ぬ。歐羅巴流の商業に從事して居る人は多く此等の大體に通じて居るから、商業も益〻發達して行くのである。又其の信用も其事業の增殖するに從つて世の中に擴まるのである。此の如くにして一國の商業も振起すれば一國の工業も振起するのであるから、諸君にお勸め申すのは、勤勉にして忠實なれといふことである。此れは如何なる人に對しても必要であると考へるのであります。

青年の諸君は、唯今も申す通り、將來頗る有望であると同時に、今日の時勢に深く鑑みる所がなければならぬ。今日の時勢とは今日日本の遭遇して居る時勢の謂である。日本國の百般の事業は今や纔に其端緒を開いたのみであつて、其成功を望むの期は甚だ遼遠である。此遼遠なる事業を成就せしむるのが諸君の任である。諸君の任の在る所は即ち諸君の力を效す餘地である。先づ學業を第一に修めて而して社會百般の事に從事し、日本の國光を益〻世界に輝かすやうに勉められんことを希望するのである。人の世に處するに就てはナカ〳〵事一轍に出づるものではない。故に何れを選み、何れを採ると云ふことは、自ら工夫を費し自ら研究して以て之に適從する外はないのであります。凡そ人は其從事する所の事に忠實ならざるべからずと云ふことに就て、一二の例を擧げてお話をするが、古今に有名な人物となつた人の所爲を見ると、如何なる者も其境遇

に依つて其事に力を專らに致して居る。歷史は諸君が皆讀んで明にして居る所であらふと察するが、彼の漢の光武の如きも幼年の時には訟廷の吏となつて汲々と勤めて居つたが、後日は能く漢室の中興を圖つたのである。又宋の韓琦の如きは、始めて進士及第に登つたときに之を試むるに下等の官吏を以てされたが、其下等の官吏の仕事に於て頗る勤勉忠實にして其事に親切であつたゝに、他人が之を評して彼は他日宰相になるべきの器なりと云うて夙くに其人物たるを認めたのである。不出世の人物でも、皆此の如くに勤めて來つて居る。故に人は人に使はれることを知つて而して後に人を使ふやうにならなければならぬ。人に使はるゝに當つて、所謂服從の義務を盡すことが出來なければならぬ。其代りに己れが人を使ふ時には人を服從せしむるだけの技倆がなければならぬ。始めより巨大の志を持つて見た所が、ナカ〳〵其巨大な事は經驗がなければ出來るものではない。經驗は頗る必要なものであつて、經驗に依つて己れの目的を達することが出來るのである。學問は如何なるものであるかと云ふに、學問は青年の人が成長の後に於て各々志す所の事業を爲さむと欲するの手段に過ぎぬのである。學問其物が目的を達しさせる譯ではない。先づ學問を以て世に處するの階梯として、而して學んだ所のものを以て事實に應用して始めて人は經驗を得る。其經驗の積んだ者は、如何なる事に從事しても、其事を成し遂げ得るやうになるのでありますから、其遂ぐるに就ては深く諸君に希望を抱かざることを得ぬのである。

今の世の中は昔と違つて學問をするにも甚だ易い。吾々が幼年の時には、諸君が今日、學校で修學して居るやうな學問をしやうとしても、學校もなければ敎へる人もなく、總に日本の歷史や支那の歷史や兵書の如きものを讀んで、其日を暮らして居つたのであるが、是れすら修めるのにナカ〳〵容易ならぬことであつた。然るに日本が始めて開國の方針を取つて、歐洲の文明を導くやうになつて以來は、百般の學術が立ろに輸入し來つて、今では學校なるものが日本國中到る所に設立してある。乃ち當校の如き、又山口縣下に在る他の各種の學校の如き、皆之れに模範を取つたものである。而して諸君は何れの學校に這入らうとしても自由自在であつて、其課程を終れば上級の學校に進むことも出來るやうになつて居る。是れ誠に今日に生れた諸君の幸福である。此幸福を空しくすることなく、將來に向つて國運の伸張を共に謀る事に從事さるゝことを希望するのである。國運の發達を圖ると云ふことに就ては又一つの解釋を下さゞることを得ぬが、一己の利益を計るのも矢張り國運の伸張を圖るのである。國家のことに從事して居る者ばかりが國家の事を爲す譯ではなくして今日の世の中では何れの國も皆己れの國を富すことを第一の目的にして居る。國を富すと云ふことは、即ち人民が富まなければならぬと云ふことである。人民が富ま

うとすれば各種の事業が發達して來んければならぬ。而して其發達は學業と相待たなければならぬのである。

今日の學問は總て皆實學である。昔の學問は十中七八までは虛學であるから、纔に論究を爲して應用を與ふる如きものであつた。故に今後は諸君は今日の如く一方に於ては事實應用の出來る學問をし、又文學的の手段としては支那の書物などを讀むことも宜しい。併ながら支那の學問のみでは殆ど事實に應用せらるゝことは少い。昨年も支那を漫遊して、支那の高官連中などゝ段々話を致して來ましたが、支那の學問が虛學に陷つて居ることは彼等も大いに嘆息して居る。併し其學風を一變して、今日歐羅巴の文明の學問を輸入することは出來ぬと云ふ有樣である。日本は幸にして此等の障碍がなくて、今日日新の學問を自國に誘導することが出來て、其の誘導の力に依つて、各種の事業が起つて居る。日本の地圖を開いて全面を見れば、第一鐵道の如き事業、或は電信郵便其の他各製造の事業等、殊ど枚擧に遑あらぬのである。而して之を他人の力を借らずして運用し活用して行くことの出來るのは、此學問を導いて入れたからである。支那の如きは、假りに鐵道を敷いた所が、支那人を以て此鐵道の運用は出來ぬ。僅かの鐵道が天津から北京までの間に出來て居りますが、此鐵道でも西洋人の力を借らなければ運用が出來ぬ有樣である。然らば支那人は天資此の如きの人間であるかと云へば決してさうではない。之に適當な教育や實用の智識を與へぬから出來ないのである。故に教育は實に大切なることであつて、而して書生の學問をするのは先刻も申す通りに將來に向つて各種の事業に從事する手段方法であるのであります。

又一方に於ては、日本國が今日如何なる位地に居るかを顧みなければならぬ。日本國は今や東洋諸國の羈絆を脫して、直に萬里を隔つる歐羅巴の文明諸國と竝び馳せて、其文化の進歩を圖て行かうと云ふ所謂比肩の地位を占め、又歐羅巴から明に文明國を以て認められて居るのである。其認められて居る證據を云へば、則ち本年の七月より實行される所の改正條約である、此改正條約なるものに就て一と通りお話を申すが、舊幕府の末年に當て歐羅巴諸國と結んだ所の條約なるものは、彼の治外法權と云ふものゝ下に外國人を支配して居るのである。此治外法權の沿革に溯つて見れば、是は元と宗教などの關係に依て土耳古から始つたものであるが、通商が地球全面に開くるに從て、東洋に此條約の仕方方法を用ゐられ、之を日本にも適用して結んだ所の條約である。而して之を深く講究して見ると、他國の法權が自國の上に行はるゝと云ふことは、取りも直さず一國獨立の權能を全ふしたものでない。國と云ふものは、其邦域内では自國の法權、自國の政治が完全に行はれて、何人と雖も其法權、政治の下に服從せしめ、均しく之を保護するやうで

なければならぬ。然るに風俗の異同或は宗教の異同等に依つて、日本を除く外は東洋に於ては對等條約なるものゝ行はれて居る國がないのである。維新以來僅に三十二年の星霜を經て、日本國は法律の改正を圖り或は政治の改良を圖り、今は外國人に向つて惡感を懷く者はない。縱令人種が違はうが、宗教が違はうが、人間の交際に於て異るべき道理がない。人の交誼は同一なものであると云ふ觀念が第一に出なければ對等條約は行はれぬことでありますが、日本人は其文明に依つて確に之を行ひ得ると云ふ事を認められた結果として、歐羅巴諸國が日本と對等の條約を結んだのである。固より獨立の國は獨立の權能を具へなければならぬのは當然なことであるが、獨立の權能を實行せんとすれば又獨立國としての義務を盡さなければならぬ。其義務を誤れば則ち得た所の權能は水泡に屬することになるのである。

時に或は國と國との衝突も起らぬではない。或は利益の衝突が起り或は種々な邦域の爭が起ることは免れぬ所であるが、是れは個人的の議論ではなく、一國を主宰する即ち國權を左右する政府の執行する業である。個人的に於ては相親睦して以て相互に利するやうにならなければなぬ。其等の事が出來るものと歐羅巴諸國が明に認めて、日本に向つて同意を表して、此條約改正を行つて、將に數月を出でずして實行さるゝと云ふ今日であるから、日本國民たるものは今までの如き外國に對する觀念卽ち攘夷的の觀念を持つやうなことでは可かぬ。頑固な政治は決して日本の將來に向つて昌運を圖るの具にはならぬ。故に日本の國民たる者、特に學問をする者などは能く時勢に通達して、分らぬ者には、其の意の在る所を說いて諒解させるやうにしなければならぬ。國力を伸し或は國威を張ると云ふが如きことには、矢張り大國の規模がなければ可かぬ。大國の規模なるものは、一國の存立を重んじて、是非曲直の上に於て國と國と爭ふべきの時には爭はなければならぬが、個人的に平素の區々たることを爭ふのは甚だ詰らぬ話である。併ながら商業を營むとか工業を營むとか或は交通機關に從事するとか云ふ場合に、競爭的に事を營むのは、一國內の人民相互同士の間に於いてもあつて差支ないことで、外國に向つても勿論差支ないことである。國が違ひ國人が違ふから、斯くの如き條約を實行する際に排外とか何とか云ふやうな觀念を持つのは可かぬと云ふのである。斯く申すのは、必ずしも諸君がさう云ふ念慮を抱いて居るからではない。此の如く心得るのが必要であると云ふことを念の爲めに申すのである。

今は進んでさう云ふ時代と成つて居る。而して此の學業の進步に於て、今日の進んで居る所を以つて歐米諸國の進んで居る所に比較して見ると、我國の及ばざる所が未だ澤山にある。故に常に敎官などを派出して向うへ往つて研究させる必要もある。而して後進の人が日本で隨分發明も

多くしまた著述も澤山するやうに、段々文運が進んで來て、始めて文明の列强と肩を比べる地位に進むのであるが、此等のことはみな日本國を愛する心のある者に待たなければならぬ。それには、餘程是れから學問をして、誠實に骨を折つてやらなければ出來るものではない。

次に又愛國心に就て一と通りお話して置きたいと考へる。愛國心と云ふものは日本の學問では餘り古くから言はなかつたことであるが、近來に至つて其名稱も事實も共に發達して來た。是れ誠に嘉すべきことであつて、固より一言の異說を挾むべきではない。併しながら此愛國心と云ふものは、人が何事に從事しても相伴ふものであることを心得て居る必要がある。商業をする者は商業に伴て愛國心を持ち、工業に從事する者は工業と共に愛國心を持つのである。愛國心は殊更に之を作興しなくとも、歷史のある國、歷史に於て一致統合して居る國は格別憂ふるに足らぬ。自然的に愛國心は發達するものである。支那の如きも固より歷史を有する國であるが、其歷史は異常なるものであつて、殆ど四五千年の間に横はつて居ると言つて宜しく、日本の歷史とは其趣を異にして居る。日本の如きは、開國以來未だ曾て他より侵されたことのない國である。偶々侵さるゝことがあつても之に服從したことがない。何時でも之を掃攘するに於て全力を傾け、其災厄を免れて居るのである。此の如き歷史を有して居る國に於ては愛國心の奮興は誠に易いのである。故に特に愛國心々々と言つて、外の業務を忘れて愛國心の作興に從事するなど云ふことは眞に學者の僻見である。誰しも己れの生れた國を愛せぬ者はない。人間百端の事に從事する際に愛國心が伴はねばならぬと心得てさへ居れば宜しい。殊に國と國との衝突などは兵力の軋轢であるから、さう云ふ際には必ず現はれるものだ。而して一度現はるれば則ち歷史を成すのである。此等も深く注意を要することゝ考へるに依つて、序でにお話しを申して置きます。

それから此中には師範學校の敎官或は又將來敎官となるべき諸君が多いと承つて居るが、師範學校を出て敎官とならるゝ人には、幼童をエライ學者にしやうと云ふ觀念よりは、寧ろ普通の事に通達せしむるを目的とさるゝが大切と考へる。固より師範學校を出て敎官となり小學校に臨むに當つて、小學校はエライ學者を造る場所でないことは分つても居るでありませう。國家が普通の學問を一般人民の子弟に授けるのは、幼童の敎育は元來父母の責任であるが、手が屆かぬ故に國家がその世語をするのである。而して其度合にも大概程度があるが、成るべくその普及を圖るのである。而して成るべく其幼童の父母又は兄弟などの從事して居る業務と相背馳せぬやうにすることが必要である。此は唯だ普通に解釋して申すのでありますが、若しさうでないと、小學校の課程などは固より學問として甚だ低いものであるが、其低い學問の位地にある者に餘り高尙な

了簡を持たせることになると、却て危險であるのみならず、其人をして誤らしむることになる。小學の課程を終り、階級を經れば少年の體力や精神の發達もこれと並行して智識氣象も自から高まる譯であるから、其れより進んで專問の學問に進むやうな人は別段なことゝして、幼童には成るべく父母の家庭と餘り扞格することのないやうに敎育さるゝことが必要であると考へる。是れは固より師範學校の敎官の職に在らるゝ諸君は能く研究も屆いて居ることでありませうから、私の素人の所見は無用であるか知らぬが、近來段々承る所に依れば、或は之れと齟齬して居る學校も日本國内にはあるといふことであるから、念の爲めにお話し申すのである。

別に長いお話は致さぬのでありますが、諸君の學業は日々に益〻頻繁を加へて止まる所を知らぬ程であるから、自分で各々其の適從する所を擇び、而して是れに潛心し、事に臨んで忠實に、成可急功を求めずして大成を期するように相成ることを、諸君の爲めに希望致します。

王政復古と憲法政治

（明治三十二年六月二日、本願寺別院に於ける萩町歡迎會に於て）

私は矢張り諸君と同じく當縣に生れた者でありまして、諸君と鄕國を同じうするのみならず、幼少の時には當地に於て成育し修學の端も當地に於て開いたのでありますから、當地には我師友として恩を受けた人も多數居住せらるゝことでありまするし、且つ私の此地に居住したのは丁度今の小學の課程にある子供の時代でありまして、其當時を回顧すればなほ更ら懷舊の念も深く、今日幸に此場に諸君と御目に懸ることを得て、自ら歡喜の至りに堪へぬのであります。御一新以來當地へ參ることは今回で兩度でありますから、多分此中には先年御目に懸つた諸君もあることと推察しますが、先年は忠正公の御銅像建設のことに就てお話を申したと記憶致して居ります。爾來彼此足掛け九年になりまして、其間には他の本縣出身の人は時々歸鄕に相成りましたから、其節は御接見にもなつたことゝ存じますが、私は始終公務に從事して居るか或は遠國の旅行をするといふやうな譯で、偶〻内海を通航致す折に馬關等には立寄ることもありましたが、當地に參ることは至つて稀れでありまして、此以後とても屢〻御目に懸るの時機は得られぬかと思ひますから、御求めに應じて所見の大略をお話申したいと存じまする。

先づ其話を申す以前に於て前申す通り當地は私が幼少の時に成育した所でありますから恩顧を蒙つた人も多いのでありまして、其人々に對しては平素深く心に感謝の意を抱いて居るのであります。私が恩顧を蒙つた人々の多くは本縣傑出の士であつて、此等の人の扶掖に依つて私は成長

することを得、又其推擧に依つて青年時代には忠正公の聰明を汚して拔擢せられ、爾來國家の危機に際して或は陽に或は陰に國務に執掌することを得たのであります。忠正公の恩澤は私が今日生存し得るの根據であると信じ、深く記憶に留め、常に念慮に往來して忘れざる所であります。私は先づ我日本の大體の變遷よりお話しを申す心得でありますが、今日まで或は馬關或は長府或は三田尻或は山口等、到る所に於て維新前の小歷史を大要述べ盡して置きましたから、之を重複するの必要はないと考へますから、維新の際より維新以後に於ける大要をお話申す積りである。

上古に於ける神武天皇の創業、天智天皇の中興、明治維新と、此の三つは日本の歷史上に於て最も重大なる三大事蹟でありますが、此の中に於ても明治維新は事の關係する所が最も重大なるものである。此王政復古に就ては歷史が敎へて居るから委しく說明する必要はありませんが、如何なる者が主動者となつて働いたかと云へば、防長兩國の主たる毛利家が卒先して此至難なる大事業に當られて、兩國の人民は齊しく其指揮號令の下に働いたのである。故に勤王の大體に於ては今更諸君に向つて之れを說くに及ばぬことゝ考へるが、此の王政復古に次いで重大なる問題は開國の規模である。既に開國の規模を國是として定められて着々と此の方針を貫いて行くに就て內は封建の政治を廢して郡縣の治を布き、以て國の兵制を統一し、人民の位地を進め、之に許すに種々な自由を以てしたのである。開國の主義と文明の政治とは、唯だ言葉を換へて之を稱するのみで、事柄は同一である。抑〻開國の國是方針を我聖明なる　天皇が皇謨として定めらるゝや之れを翼賛したものは我が忠正公である。而して此事たるや從前に比して大いに國の方針を變へたのであつて、之れに對しては日本の國民をして智能を發達せしめて、其業務を益〻盛大ならしむることが必要である。故に封建を廢すると共に日本國民は新天地に棲息して種々な自由を有することゝなつたのである。其自由なるものは元との封建時代に當つては未だ曾て得られざりし所である。即ち第一には移轉の自由を許され、之に次ぐに職業は各〻好む所を選んで適從することを得るの自由を許され、又何人と雖も好む所に從つて學問をすることが出來るといふ自由を許され、次いで上下の別なく婚姻することの自由を許され、或は又言論の自由を以て政論を爲すことも許されたのである。此の如くに今日の日本國民は各〻其好む所に依つて、法律の範圍內に於て自由を享有して居るのでありますが、此等の自由は所謂文明治下に棲息する人民の當に享くべき權利である。之を許し之を享有せしめざれば、國民の發達を圖ることは出來ぬ。國民の發達を圖ることが出來なければ、國を富まし國を强うすることは出來ぬ。而して是等の事は殆ど開國の規模と共に行はれて、漸々に其れを發達せしめて來つたのでありまして、深く之を攻究すれば何れ

も皆重大なる事柄である。若し今日に當つて其一を閉して見たらどうであるか、自由を禁じて見たらどうであるかと云ふと、人の了解し易いことゝ考へる。既に此の如く文明の政治を布き、國民として文明の民たらしめ、一國をして文明國たらしむると云ふまでに開國の皇謨が進んだ以上は、之に臨むに一定の準則を設けざることを得ぬ。是れ則ち憲法政治の起る所以である。

抑〻憲法政治なるものは、先づ上下の分域を明に劃して、以て國民と君主の爲すべきこと、即ち君主の當さに行ふべき權利、國民の享有すべき權利を明にして、次いで國政を料理する次第を規定したものである。憲法に依つて國民は參政の權を得るのであるが、此の參政の權は國民に取つては重大なる職務であると共に又重大なる權利である。政事は一天萬乘の天子の御行ひになるべきものである。其の天子の御行ひになるべき政治に直接に參與するの權利であるから、國民の責任とし國民の名譽とし國民の光榮として頗る重大なる事柄と考へなければならぬ。爰に至つて日本國民が當に服膺し記憶せざるべからざるは、日本の國體と云ふことである。國體を明にするものは歴史である、故に日本國民は日本歴史を知る義務がある。是れ日本國民たる者の一大義務である。己れの國を知り己れの國の生れを知り己れの國の經過を知り己れの國の生存を知つて、日本の國は開闢以來　天皇陛下の統御あらせらるゝ所であつて、日本の國民の心を歸一するものは王室を除いて他にないことを了解しなければならぬ。素より各國は其歴史を異にし、國の生存する所以を異にし、國の基礎を異にする爲めに、各國は皆同一國體ではないが、我日本は國を統一するに王室を以て中心とすることは今日までの日本の歴史の徴證に依つて明かなる所であります。故に日本の國體を心得ることは國民の一大義務でなければならぬのである。

次に日本國民は立國の國是方針を知らなければならぬ。縱令政黨の論議或は其他が政治上に種種な意見を有するにしても、其等は其範圍内でなければならぬ。然らば其一國の方針とは何であるか。即ち王政復古の際に皇謨として定められた國是である。此の如く國是として明瞭に示されたことは未だ前古に於て無き所である。而して之を示さるゝに就ては、前きに翼賛の力與つて大いにありと言つた忠正公などの勳業に基く所が多いのでありますから、是れ亦た防長の國民は深く考へなければならぬことである。開國の國是は、單に國を開くと云ふことに止らぬ。凡そ地球の上に於て國を成すものにして尚ほ野蠻の風習を持續し、之を改良し之を修飾して文明の位地に進めることの出來ぬ國も澤山あるが、此等は文明國の伍伴に入ることを許されずして、蠻人として取扱はるゝのである。我が日本の國是方針は、文明の地位を開いて宇内に國を成し文明の地位を占むる歐米諸國の伍伴に入ると云ふのが始めよりの目的である。伍伴に入ると云ふのは仲間入

をすると云ふことでありますが、仲間入をするに就て如何なる權利と義務を要するかと云ふことを考へなくてはならぬ。文明國同士の間には通義と云ふものがある。此通義を守ることが文明國の仲間入をするのに必要である。總じて東洋の諸國は、支那でも日本でも、外を卑んで內を尊む癖がある。然るに文明の通義に從つて互に交る際には、相互の間に同一の禮を以て相接して、彼を卑んで吾を尊み又吾を卑んで彼を尊むやうなことはなく、獨立の國は獨立の國同士對等の權利を有し、對等の義務を盡すと云ふ萬國の通義に依つて交らなければならぬ。所謂國際法とかいふ名前を付けて、之を悉く規定して居るのであります。御維新當座の詔勅にも、「萬國公法に從つて云々」と云ふことが度々出て居る。そこで萬國の通義なるものを國民をして了解せしめ、又前に條列した所の自由を與へて、以て其自由の發動の力に依て國民の智能を增し、從つて國民の富力を增さしめると云ふのが目的である。此目的の爲めに各種の自由を許され、更に之を鞏固ならしむる爲めに憲法上に之を規定せらるゝことゝなつたのである。故に國民の大義上分別せざるべからざる要義は、第一國體を知ること、第二國是方針の在る所に從つて進行することを能く了解せねばならぬこと、第三憲法治下の人民は如何なる義務と名譽と權利とを有するかを了解することである。

主權卽ち一國を統治する　天皇の大權より見れば憲法治下の國民は同一である。直接に　天皇の臣民であつて、所謂陪臣なるものは無くなつたのである。是れ卽ち日本國民が偉大なる名譽を得て、國民の地位を昇進せしめた所以である。國民は　天皇の大權に歸一せられたる立法權に參與せしむる所の代議士を出せるやうになつたのである、代議士を出すことを得れば、國政の利害得失に就て間接に意見を述ぶる事が出來るのである。然らば日本國民たる者は縱令農たり工たり商たるに拘はらず、政治の利害得失は豫て知るやうにならなければならぬ。獨り政治の利害得失のみではない。各〻己れの業務に就ては深く研究して富まねばならぬ。人各〻富み、村各〻富み、郡各〻富み、縣各〻富んで、其富を積算した所のものが日本の富となるのである。兵力の强大を致し國家の威嚴を伸長するが如きは、皆國民の力如何に問はざることを得ぬのである。故に其等の發達をなす爲めに、國民が此等の權利を享有することは當然であるのみならず、又必要である。加るに又敎育を普及せしめて、政治及社會の改良に對する了解を爲し得るだけの智識に人民を進める必要がある。憲法政治は專制の政治と違つて未だ發して命令とならざるものを除くの外は、機密と云ふことは少ないのである。故に依らしむべし知らしむべからずと云ふ主義は行はれぬのである。能く分らしめて、而して其れを遵奉せしむるのが憲法政治の仕掛方法であります

から、政治の利害得失は今日と雖も明に判るのである。之が判るだけの明を日本國民の全部に求むることは難かしいが、一村一鄕の中には皆夫々特に研究して居る者もあれば又之れに通曉して居る者も自からある譯である。故に其等の者に依つて成るべく人民をして國の政治の利害得失を明にせしむるやうに導くのが必要である。凡そ政治の目的とする所は人民の生活に關係する各種の事業、即ち農工商等の事業を其の所に就かしめ、之を治めて其發達を圖るに在るのであるから是等が皆自ら政治問題となつて來るのである。政治の問題となるべきものは、政治の行ひ方一つに依て其の利害得失を大いに異にするのである。時に或は人民に不利になることもあれば、或は又利益になることもあつて、國家の政は一國全體を統治する政治であるから、一個人一個人に就いては必ずしも都合の好いやうな譯には參らぬ。併しながら國家の事は固より銘々各個のことではないから、國家の目的、國家の威嚴、國家の名譽と相伴ふやうにして行かなければならぬ。其爲めに國民は國是を了解しなければならぬと云ふ義務も持つのである。此義務を持つ國民は、國家を己れのものと考へなければならぬ。己れのものたるが故に、之を護る爲めには兵役の義務も盡さなければならぬ。國を護るの經費も拂はなければならぬのである。而して之を拂へばどうなるか。昔は唯だ之を貢獻して上に納め、其より以上のことは國民の與る所にあらずと云ふ仕組であつたが、今日はさうではない。今日の政治は、如何なる事に是れが仕拂はるゝか、其仕拂はれた事柄が國家に對して如何なる關係を有つて居るかと云ふことまで、明に知ることが出來るやうに組立てゝある。若し其使途に就いて非なりと思ふことがあれば、所謂言論の自由を享有して居る國民でありますから、之に就いて非難の聲を起しても一向差支ない。唯だ衆論紛々として定まる所がなければ之を決することが出來ぬ故に、乃ち議會なるものを設けて、議員の多數の意見に依つて之を定めることになつて居る。故に一般國民は其享有せる參政權を完全に行はむと欲するならば、代議士を選むに於て深く注意を加へなければならぬ。國政上の事に通じて居る者を代議士として出さぬと、國民が折角得て居る權利も之れが實行に於て其れだけの效能を致さぬやうになる。

大要先づ今日の有樣は斯くの如くになつて居る。此の如き位地に遭遇して居ることを、日本國民は皆心得て居らなければならぬ。特に今日は明治初年に定つた國是方針の結果として重大なる事柄が目前に横つて居る。維新以來今日迄三十二年の星霜を經過した、其間に於ける我日本の進歩は實に異常なるものであるが、此異常なる進歩を各國が公認した結果、遂に對等の條約を締結して、本年七月より實行することになつて居る。之に就ては、歐米の事情を見ない人などは憂慮

を懷くことなきにしもあらずと察せらるゝが、外國に行つて見た人などには一目瞭然たることである。今日文明の地位に在る國を旅行して見ると最も自由であつて、如何なる商業を營まうとも工業を營まうとも旅行をしやうとも又其國人と共に利益を計からうとも、其國法の下に支配せらるゝに於ては更に妨げがないのみならず、此等の諸國は相互に條約を結んで、彼より來る者は己れの國法の下に服從せしめ、又權利を得せしめ、吾より彼に行く者は其國法の下に服從して而して權利を得ると云ふことになつて居る。我國も既に之と同じき對等の條約を各國と締結して本年の七月より實行せらるゝことゝなつて居るのであるが、其實行の後に至れば當所の如き所にも外國人が這入り込んで來るかも知れぬ。併しながら來たからと言つて少しも驚くには足らぬ。若し彼と我との間に是非曲直の爭ひが起るならば、之れを裁判所へ訴へれば宜しい。彼と雖も最早我國法の下に服從しなければならぬのである。のみならず、外國人の我國に入込むことは寧ろ我に取つて益する所があると思ふ。彼は前申す通り文明の仕掛方法で政治を行つて、多年の經驗を積んで居るのみのみならず、凡そ宇内各國の事情に殆んど通ぜざるはなく、又其足跡の至らざる所はないと云ふやうな經歷をも持て居るから、日本の國民が職業の發達を圖り殖産興業其他百藝の進歩を圖る上に就ても彼の經驗に俟つ所は澤山あるのであるから、共に信義を守つて相交て行くやうになれば大に我に益する所があらうと考へる。此の如きは皆維新草創の國是に依つて定まつたことであつて、歐米を除いては亞弗利加、印度地方、支那、朝鮮、安南、暹羅、緬甸等の地方より南洋の各諸島、小亞細亞と數へ來つた所で、何れも皆我日本が爲した如き事は出來ぬのである。それ等の地方は、風俗が固結して之れを改良することが出來ぬ、即ち或は宗教心等に束縛されて居るから、斯かる大變遷は出來ぬのである。然るに獨り我日本國は其等の故障を排除して一國自身のことを大切とし、國家獨立の地位を保つを主眼として進み來つたのである。是れ御一新草創の際に定められた所の國本であつて、其の國本に依つて遂ひに他國の模倣すべからざることを行ひ、又將來に向つても行はむとしつゝあるのであります。之れが完全に行はれて行きさへすれば、日本國の地位は萬古不易、安全なることは疑を容れぬのみならず、從つて日本國の盛大を致し、日本國の各種の事業及國民の發達を致して、以つて雄を世界萬國の間に爭ふに足ることも亦た疑ひないと考へる。時勢が變遷に伴つて國家の取る方針を　天皇が御定めになるのであるから、其趣意のある所方針のある所を了解して以て時勢と共に變移して、國の威嚴を伸張し國民の位地を上げなければならぬ。尙ほ之を細に分析して言へば、國力を增進し國を護るの兵力を進めて金甌無缺の日本帝國を萬世に亘つて鞏固ならしむることを努むる爲めには、日本國人民が勤勉

且つ忍耐にして大國の氣風を養成し、以つて之に當るの覺悟が第一に要用のことゝ考へますが故に、幸に今日御目に懸つたのを機とし事重要に係ることでありますから、一言お話を申して置きます。

今日の勤王

（明治三十二年六月九日、山口縣德山町無量寺に於ける歡迎會に於て）

豫ねて當地有志諸君の御招に依り疾くに當地に來るべき所、少しく風邪に罹つたのと、風雨の障りとに依つて段々延引し、屢〻諸君を失望せしめたのは、私の遺憾とする所である。尙ほ諸君の厚意に依り、當地通過の節は一泊せよとの懇請でありましたが、昨日まで風邪の爲めに山口に滯在し、今日出發して當地を通過するやうな譯でありまして、諸君の厚意を空しくするは遺憾でありますが、此度は暫時の御會見に止め、重ねて他日當縣へ參つた節に緩々御目に懸つてお話する積りであります。風邪後で、豫ねてお斷りを申して置いたやうに十分お話をすることが出來ませぬのは甚だ遺憾な譯でありますが、折角御面會を申しましたから、唯だ一言諸君の厚意に酬ゆる爲にお話申します。先月來當縣へ來遊を致した以來、各地に於て思ひ掛けない懇篤なる待遇を受けて、殆ど謝する所を知らぬやうな譯合であります。御承知の通りに私は多年外にあつて、當國に於て生活したのは幼少の時の僅少な歲月であつた。併し自分の故國でありますから、諸君と友情を共にする點に於いて自ら他の地方と大いに異なる處がある。特に此の如き優待を蒙るは、心中歡喜に堪へぬ次第である。多年身を政海に委ねて自ら揣らずして遂ひに知らず識らず槃地に進み、至尊の側らに奉侍するに立至つたのであるが、己れを顧ると慚愧の至りに堪へぬのである。併し人は元を忘れぬことが大切であるから、特に當縣卽ち山口縣に向ては眷戀の情に堪へぬ。此度は到る所に於て衷情を陳述して置きましたが、各地に於て述べ盡さざる所を一言當地に於て補はうと存じます。諸君が熟知せらるゝ通り此防長二州卽ち山口縣は、王政復古以前に當つては、一度國を擧げて水火の中に投じ方さに存亡の境に瀕した。畢竟するに防長二州は勤王の爲めに亡びても宜しいと云ふ覺悟を一旦極めたのである。而して忠正公及此末藩諸公の誠忠の現はるゝ所遂に王政復古となり、進んで今日は憲法政治を布かるゝやうになりました。此の經過の事蹟を顧みると、防長兩國は勿論、日本全體が危機一髮の間に國運を全うしたのである。人の誠を貫くと云ふのは、此の如きものである。防長兩國の人民たる者は、其古を顧みて尙今日に其志を存せむことを希望する。今日の日本國民は　天皇直轄の國民である。卽ち　天子の御直臣である。天子

の御直臣として日本古今未だ曾てあらざるの時機に遭遇し、日本國を今日の隆盛な地位に進め日本の國威をして四海に輝かさしむるに至つたのであるから、今後此の大業を失墜せしめざるやうに盡力しなければならぬ。夫れは日本國民の義務であるが、特に殆ど回天の事業と言つても宜しい防長二國の事業を失墜せしめぬやうにするのが防長人民の義務と心得なければならぬ。新田、楠が五百年以前に於て後醍醐天皇の王政復古を輔翼したのは、王政の地に墜ちて居つたのを回復しやうとしたのであつて、此勤王の業は殆ど宗教的、觀念的に成立つたのである。けれども新田、楠の如きは遂に後醍醐帝の大業を全からしむることが出來なかつた。然るに防長の事業即ち毛利家の事業は、遂に其業をして全からしめ今日の日本國家を現はしたのである。今日遭遇して居る所、世界と相對して居る所地位等を思うて、日本國民特に防長の民は勤王の念慮を忘れぬやうにしなければならぬ。昔の勤王は宗教的の觀念を以てしたが、今日の勤王は政治的でなければならぬ。何故今日の勤王は政治的でなければならぬか。國家に對して義務を盡し、王家に對して忠實の心を存し、憲法に條列してある所の權利を享有して國に對するの義務を盡し、之を誤らぬやうにすれば、即ち勤王の實を擧げることができるのである。此れが即ち昔の勤王と大いに異る所以である。今日は何れも齊しく日本國民は政治的の勤王をしなければならぬ。特に長州の如き王政復古の基礎に於て盡力した民は、寧ろ其功を誇るよりは、政治的の勤王を國家に盡して以て他をして其驥に倣はしめるやうにするのが肝要である。さうすれば之を率ゐて其功を全うされた忠正公及藩の先公方の志に協ひ、又上は一天萬乘の天子の宸襟を安じ奉ることもできる。此が即ち古今時代の變遷に依つて勤王の異る所以で、元と王家が權力を失うて虛器を擁して京師の一隅に閉され、九重の雲の深き所に在らせられた時と、日本全國を統御あらせられる今日とは、天子に對しての臣民の義務は大いに異らざることを得ぬ。今日は臣民は直接の　天子の臣民である。其臣民が　天皇に對して直接に勤王を盡すのであるから、其勤王は着々政治上に於て盡されねばならぬ。此事だけは各地に於て申して置きましたから、諸君に向つて此一言を呈して、諸君の厚意の在る所に答へます。吾輩は山口縣に歸て諸君に御面會申すのを喜ぶと共に、日本の今日の形勢に依て將來を考へて見ると、未だ事業を爲すべき事が指を屈するに遑あらぬ程あるから、此時に當て錦を着て故鄕に歸るの心持は一點も持たぬ。然るに圖らざりき、各地を巡回致す中に、遂に諸君の歡待厚遇に逢ひ、殆ど自分の體に着て來ぬ錦を掛けられたやうな心が致します。如何にも己れに問うて見ると甚だお恥かしい。多年　天皇の御側に侍し奉つて山の如き洪恩を負たに拘らず、未だ十分に其恩澤に報ひ奉ることも出來ぬやうな次第であるから、玆に諸君の歡待を受け

て益〻勵んで國家の爲めに忠を致さなければならぬと云ふ觀念を大に起したのであります。今日は、前以て御斷り申した通り、十分のお話も出來ませんが、諸君の厚意のある所に對して感謝の意を述べて、病中のことであるから、習慣に從つて諸君と献酬もすることが出來ぬが、幸に携へて來た盃がありますから之を諸君に献じ、諸君が順々に之をお飲みになつて、盃が私の手元に歸つて來た所で、私が其盃を傾けて献酬の禮に代へむと欲します。左樣御承知下されたい。

商業の發達を望む

（明治三十二年六月九日、山口縣柳井津歡迎會に於いて）

三郡の有志諸君。定めて諸君は御承知であらうが、私は卽ち此三郡の中の一郡に於て生れた者である。故に此三郡の人とは最も親みの深い譯である。唯だ幼少にして鄕里を出で、永く當地方に居住したことがないから、山河の形勢を見ることも亦た三郡に居住せられる諸君と面會することも、今まで至て少かつたのであります。併し面識の有無に拘はらず、鄕里を同うすれば人は自から情合の相感通するものであるから、諸君を舊友の如く心得て居るのである。此節は誠に匆々に通過する譯で自分に於ても心に慊らざる感を懷いて居る次第でありまして、若しも時が許せば此の如きの少時間を以つて諸君と相見ゆるよりは、寧ろ諸君と膝を交へて今日の日本の形勢を語り、又日本國民は將來に於て如何なることをしなければならぬかと云ふことをお話し申したいと考へるのであるが、殘念ながら時の許さぬ爲めに、暫時にしてお別れ申す次第であります。昔、封建時代にあつても、古人の所謂貴に居て賤を忘れずと云ふことが人情の極致であつたが、況して今日文明の世の中となり王政復古となり封建が廢せられて日本國民が　天皇の臣民となつた以上は、縱令其位置を異にし其職を異にすると雖も、貴賤の甄別はあらう筈がない。今日は誠に上下相近いのである。卽ち上は獨り一天萬乘の　天子を仰ぐのみで、外は等しく臣民である。臣民にして其職を異にして其事を行ひ、其責に當るの輕重に依つて其地位を異にするのみであつて、平素に於ける貴賤の甄別は昔考へたやうな譯合とは大きに違ふのである。故に尙更のこと、今日鄕里に歸れば親しく言語を交へ膝を接して俱に相語りたいと云ふのが人情であるが、只今申す通りの次第であるから、遺憾ながら此の如きの歡を盡すことを得ぬのである。故に諸君が予を迎ふるの厚意に對して無限の感謝の意を胸中に滿ふると同時に、簡單に今日及將來に於ける日本國民の心得べき所に就いて聊かお話し申さうと思ふ。

御一新以後の日本は、昔日の鎖國の時とは大いに變つて、今日は地球全面の各國と往來交通を

爲し、互に有無相通じて商業の利益を計る有樣であつて、之に處する國民は相當の態度を取らなければならぬのである。之を簡單に申せば、昔は士農工商と分れて各〻其守る所を異にして居つたが、今日は人の職業――人の爲さむと欲する所は、何人たりとも畛域を設くることなく法律の許す範圍内に於て何事をも爲し得る世の中である。唯だ之を爲すの方便は求めなければならぬ。其方便とは則ち學問である。人は各〻學問を修めなければならぬ。商賈に專一ならむと欲する者は商業に就いての學問をしなければならず、工業を專らにせんと欲する者は工學を修めなければならぬ。農業も亦たさうであつて、農業を進歩せしめんとすれば農學を修めた者が農業に就いての改良を爲し、利害のある所を明にして之を進めて行くやうにならなければならぬ。恰も商工農の業をする者に資本がなくてはならぬと同樣に、各〻學術に依つて進歩を圖らなければならぬのである。役人となる者も其通りである。今の日本國民は、何人でも其途を講じ其道に由つて進みさへすれば、軍人として海陸軍大將ともならるれば、又政治上に於ては總理大臣にも各國務大臣にもなれると云ふ譯で、昔の如き貴賤の差別のない世の中である。從つて又國民の義務も昔日とは同一でない。昔は政治より軍事に至るまで、悉く士族が引受けて居つたが、今日は總て日本國民の負擔となつて居る。一國の安危存亡得失には、國民全體が之れに當らなければならぬのである。世界各國に於て其國力を增さむとして勉めつゝある者は、皆此の如く爲しつゝあるからである。國民の力を養成し各國と其利益を競爭せざれば、其國は衰頽して遂に滅されるのである。乃ち國を滅されざらむと欲すれば、國民各〻其職業に勉めなければならぬ。其爲めに學問も研磨しなければならぬのである。故に教育の事が非常に重大なる關係を有つて居る今日である。

大體に就いて申せば此の如くである。之を逐一に條列すればナカ〳〵時間を要するから大要に止めて置くが、先づ第一に今日の急務とする所は商業工業の發達を圖ることである。當地の如きは水運の便を得て、海濱に在つて而も陸地と接續して物産の集る所であるから、此の如きの土地に於ては最も商業のことを講ずるのが必要である。商業のことは獨り國内に止まらず、各國と俱に競爭しなければならぬ今日である。而して往々世人は、商業は商者の計る所であつて農者工者の與からぬ所であると云ふ考を持つて居るが、此れは大いなる誤解である。商業の發達は、また大いに農者を益し工者を益するのである。故に今日の最も急務とする所は商業の發達にありと云ふのである。何に由つて商業が此の如く農業に關係を有ち工業に關係を有つかと云ふと、商業は世界各國と關係を有するものである。例へば日本國が飢饉で國民の食物とする米が不足する時には、其米の供給を他國に仰がなければならぬが、其の際に何れの地方が比較的に米が安いかと云

ふことを詮索して日本に米を輸入する者は則ち商業家である。又日本に於て日本の消費するより以上の物産が出來た時に輸出を多からしめ輸入を少くすると云ふ觀念を起せば、必ず商者が販路を求め各國に之れを賣捌くであらう。其販路が擴がるに從つて日本の商業が擴がり、爲めに農者は其物産を造ること益〻多く、之に工業を加へて輸出し、其結果金が這入つて來て日本國の富を爲すのである。此の如き關係を有つて居るから、商業の發達を今日各國は競うて勉めつゝあるのである。然るに我國に於ては此商業が一番開けて居らぬのであるから、向後最も進歩を圖らざるべからざるものは商業であつて、商業に從事する者もせざる者も俱に講究を盡さなければならぬ。商業の關係する所は最も廣く、外交の如きも多くは皆商業に關係するものである。今日各國は何れも商業上の利を爭つて、之に勝つものは其國を富ませ之に敗れたものは國を衰弱せしむる結果に至るのであるから、日本に於ても此商業の進歩を圖るのを最も急務とする。故に昨年も帝國議會開會中に於て商工業者の代表を更らに多數に議會に出して、其代議士をして日本の商工業を發達せしむる爲めに力を盡さしめんとする考よりして選擧法の改正案を議會に提出したのであつたが、不幸にして議會を解散しなければならぬことゝなつて、其の通過を見ず、本年春期の議會にも現在の政府より同樣の案を議會に提出したが、是れ亦通過を見ずして止まつた。此の如き議案を議會に提出して通過せしむることは、獨り民權の發達を期するなど云ふ無形なことゝは大いに違つて、日本國を富ます手段を講じ商工業の發達を圖るに最も緊切なる事柄である。商工業の發達を圖れば自ら海外の事情に明になり、海外の事情に明かならざれば日本の商業を發達せしむることが出來ぬのであるから、日本國民は此事に專ら盡力して日本の商業をして益〻隆盛を赴かしむるやうにならなければならぬと考へる。

山國に在つて唯だ農事のみに從事する人が夫等のことに思を專らにすることは固より出來ぬことであるが、國の盛衰に關係することは豫め心得なければならぬから、一通りお話を申して置く次第である。今日、日本の遭遇して居る有樣は、三十年、四十年の以前とは大いに異つて居る。眼を開いて纔に一衣帶水の前岸を望めば、北は露西亞の浦鹽斯德から朝鮮地方、其れより滿洲北支那の方面より支那の海岸を沿うて南方に至るまでの日本と相對する地方は、歐羅巴の資本と智力と經驗とに依て將に其の掌中に歸せんとするの有樣である。此時に當つて纔に一衣帶水を隔て我日本國は、疾く商業の立脚地を持たぬと、將來日本の物産が幾ら出來ても賣先を失ふことになる。先んずる者は卽ち人を制するの理であるから、今日より豫め其地位を成さなければならぬ。日本今日の地位は、支那、朝鮮、印度、安南、暹羅、緬甸、波斯、埃及、亞弗利加等と違つて

古今獨歩の地位を占め、歐羅巴文明の諸國と位地を同うし、且つ條約改正の結果として、歐羅巴各國の人民は、本年七月以後は日本の各地に居住するも、商賣をするも又往來交通をするも自由に出來るやうになる。此の如きの時に當つては、日本國民は益〻進んで學問を磨き、寛大なる了簡を以て之に對し、俱に利を計り、彼と共に其智識技能を交換し、又其經驗を交換して以て相對峙することを圖らなければならぬ。故に今までの如き狹隘な了簡ではいかぬ。日本國民たる者は寛大なる了簡を持ち大國の氣風になつて各國と觀を同うして文明の地歩を益〻進め、遂に雄を世界に爭ふまでに至らなければならぬ、此くの如くならしむるには卽ち商業を進めると云ふことが今日の最も急務とする所である。其他お話すれば百端ありまするけれども、今日は時間が短い故に止め、他日當地方へ漫遊をした時分には何人とも相接して委しく所見をお話し申すやうに致します。甚だ遺憾ながら今日は僅のお話を以て諸君の厚意に對へ、併せて諸君が予を待つの甚だ篤きを自分は東方に向つて歸るに臨み立派な餞として脊に擔ふて歸途に就く積りであります。乃ち玆に諸君の厚意を深く感謝するの意を陳べ、諸君とは前申す通り鄕を同うして友達の如く考へて居る次第であるから、其間貴賤の差別を措くが如き淺薄なる考を更に存せず、飽迄打寛いでお話をしたいのであるが、殘念ながら時間が許さぬ故に是だけのお話に止めて置きます。

名所古蹟の保存

（明治三十二年六月十日、嚴島光明院に於ける歡迎會に於て）

關西地方漫遊の途次、歸路を當地へ枉げて立寄りました處、當地の有志諸君より特に歡迎を蒙りまして、厚意の在る所を深く感謝致します。私は先日來風邪の爲めに暫く平臥して居つたやうな譯で、此處に臨みましても演說などをする積りではありませんでしたが、當地に參つて諸君に御目に懸ることを得た故に、當地將來のことに就て一と通りお話を申したいと考へる。

當嚴島が上代より日本三景の一として稱揚せられ、當地の事蹟に就ては昔より歷々として記錄の存するものがあるから、殊更にお話し申す必要はない。又神德、靈地と云ふやうなことに就ても世人の汎く知る所であるから、此れも殊更今述ぶる必要はないと考へる。併し當島は、風景と云ひ、又頗る淸潔なる有樣と云ひ、誠に日本國中に於て稀れに見る所であるから、各地方の人が絕えず遊歷に參るので、此島に居住して居る數多の人々はそれに依て生活して居るのである。詰り此島は山水の秀麗なのが資本となつて居る。神社佛閣等の最も美麗なる爲めや、靈驗のある爲めに人が尊敬を拂はんとして來るのも、其中に籠つて居ることではあるが、就中山水の美を見る

の目的を以て來遊する者が多いのである。して見ると、山水の秀麗なるを保存することは、獨り此の島の爲めばかりではない、日本全國の爲めに大いに利益となることである。乃ち私は、日本全國の利益になると云ふ上からお話を申したいと考へる。

日清戰爭の將に終らんとする時に當つて、どうか此の島の神社佛閣や、山水の秀麗なる風景を失はぬやうに保存の方法を立てたいと考へ、段々廣島の縣廳に相談した。それは鍋島幹が知事を致して居つた時のことである。從前も此保存に就ての企はあつた趣であるが、中間に色々の議論のあつた爲めに捗取らずして、遂に其目的を達すること能はず、今日まで延引して參つたと云ふことである。それで今度はどうか實際に於て其事の擧るやうにしたいと云ふので、段々相談の結果、此地方の八田謹二郎と云ふ人が主となつて此世話をしたら宜からうと云ふ縣知事の意見で、之れには廣島の保田八十吉、小泉甚右衞門、或は尾ノ道の橋本吉兵衞などを補助として加へて、斯う云ふ人々に段々縣廳が謀つて保存のことを企てたのである。處が其事が親しく　天皇　皇后兩陛下の御聽に達して、多數の金額ではないか、若干の恩賜の金も下され、之れを本として保存のことを發起した所が、其後色々經濟界の都合などがあつて、未だ今日まで思ふやうに基本金が集らぬと云ふことである。勿論斯樣なことを企てるには、一時に其の目的を達することは難かしいが、德義心や名所古蹟保存心や信仰心等を有する有志者が金を出して、積んで參れば、多くの歲月を經ずして相當の金額が出來る。それが出來れば、修繕や其他風災等の臨機の災害があつても、元のやうに回復することが出來る譯であるから、必ず是れが保存せらるゝに至るであらうと考へる。此地方の面々が能く其處に注意して之を繼續する趣向を考へさへすれば、何れの日にか其の目的を達することが出來るであらうと思ふ。

然し今日お話し申たいのは、獨り此嚴島のことに就てのみではない。東洋諸國の有樣を見ると支那を中心として北は朝鮮、南は安南、東京、暹羅、南洋諸島であるが、此南の方は熱帶に屬して居つて非常に熱い。支那も夏は思ひの外熱い所であつて、風景なども奥の方に這入れば隨分大きな風景もあるが、海岸を見廻して見た所では殆ど風景として見るべき所はない。朝鮮なども矢張り同樣である。今は朝鮮、支那、南洋の諸島から印度地方にまで各國の人が出掛けて行つて、頻りに貿易を營んだり他の各種の事業に關係をしたりして居るが、夏の熱さや土地の不清潔にして流行病や何かの常に多い所から、夏は日本を天國のやうに考へて多く日本に避暑に來る。避暑に來ても、一と所で唯だ安坐して涼しくさへあれば樂しいと云ふ譯のものではなくて、日本の地を段々旅行をして歩いて、風景の好い所に足を駐めて其處で遊んで樂むと云ふやうな譯であつて

此數年間に日本へ來遊をする者の數が段々增して來て居る。來遊をする者は支那、朝鮮、南洋諸島、印度地方に居る者ばかりかと云ふと、さうではない。歐羅巴又は亞米利加の各地方からも、日本の風景や氣候の好いことを聞て旅行をして來る人間が年々殖えて來て居る。日本に來遊する者は日本に來て貿易を營む人々などとは違つて、皆資產に餘力のある人間ばかりであつて、銀行に爲替を附けて金を持つて來るか或は自分のカバンの中に入れて持つて來て、其金を遣つて日本の各地に遊んで身心の樂を買ひ、耳目の樂を買ふと云ふのが目的である。大きな風景は、歐羅巴にも亞米利加にも其他の大陸にも隨分ありますが、日本の風景とは大に異なつて居る。日本の風景は小さい區域に於て多いのであつて、小さい區域に於て風致を爲して居るものは誠に美しい。其の美しい風景を見るのを樂み、清潔なる場所を好むで、外國人は日本を世界に比類なき所として見物に出掛けて來るのであるから、此の嚴島の如きは自然に資本を持つて居るやうなものである。諸君は此處に目を着けて、此島の風致を保存すると共に此地の繁榮を圖る工夫をしなければなりますまい。此土地が繁榮すれば、從て風致も益〻其美を加へて行く。又保存にも力を致すことが出來る。如何に好い風致があつても、掃除や多少の人工を加へなければ、其の秀麗を保つことが出來ない。自然の風致に人工を加へるから、其の景色が更に增すのである。故に其風景を十分に保たしめ更に其美を加へしめやうと云ふには、どうしても其地を富ませなければ出來ることではない。此の如きことを言ふのは、獨り此地方のみの爲ではない。之を小にしては、唯だ此の土地の風致を保存する、嚴島一地方の富を增すと云ふことにはなるが、其等を積み來れば日本全體の益になる譯であるから、其點よりしてお話を申す次第である。故に將來は各國人の此地に來遊する者に對して十分便利を與へるやうな方法を考へて、而して彼等を滿足せしめ、從つて此地の利益になるやうに努められるが必要であると思ふ。何れの國に於ても、自然の風致のある所は成るべく多く各國の人を導いて來遊させ、且つ成るべく永く足を駐めしむるやうに謀つて居る。他國の人をして成るべく金を多く落さしめやうと圖つてゐる。佛蘭西の巴里は打遣つて置いても自然に人の輻輳する所である。英吉利の倫敦も世界の大都で自然に人が往來する所である。併し瑞西の山中は夏でも雪がチラ付いて、湖水の數は數へ盡されぬ所であるが、山の上には鐵道を敷き、旅館なども造つて、色々工夫をして他國の客を引いて、其れより得たる利益を以て其國の利益とするやうにして居る。獨り此の瑞西のみでない、世界到る所、爭つて斯ういふやうな方法でやつて居る。

日本は此風景の美を自然の資本として持つて居つて、之に多少の人工を加へれば、人が金を投

じて遊びに來る所である。故に少し工夫を加へさへすれば人をして喜んで金を遣はせることは決して難かしいことではない。嚴島の一島のみでは僅かなものであるが、日本全體に渉つて今申すやうな仕掛にすると、ナカ〳〵大きなことになる。私は一昨年歐羅巴に參つて、歸り掛けに加奈太から飛脚船に乘つたが、之に乘込んで來る旅客を調べて見ると、日本の風景を見物に來る客が少くない。而して其來遊客は何れも有福な人達で、或は家中の者もあれば兄第連れもあり、又友達連の者もあつて、何れも一人が日本へ到着するまでの船賃其他の旅費等を別にして、日本で遣ふ金が平均五百圓である。今の所でも、さう云ふ來遊者が年々に遣ひ捨てゝ行く金額の總體は大概五六百萬圓から一千萬圓に近い。故に若し日本各地の風景の好い所に旅行等の便宜を付けて置けば其利益は非常に殖えて行くであらう。利益が殖えれば土地の繁昌を助けるに違ひない。殊に本年からは改正條約も實施せらるゝのである。今迄は日本に來て居住する外國人は、願書を出して旅行免狀を受けなければ日本國中を旅行することが出來ず、旅行免狀を持つて居つたにしても行先き〳〵で巡査などから旅行免狀を出して見せろと言はれるやうな面倒があつたが、モウ今年からは旅行免狀も要らないから、面倒も何もなしに勝手次第に何れの所に旅行することも出來れば、何れの所で家を借ることも出來、何れの所へ行つて泊ることも、何れの所へ行つて土地を借ることも、又何れの所で商賣することも、日本人と連帶組合で商賣を起すことも、又は一人立でやることも、何れも自由に出來るから、さうなると日本に居住して居る外國人は勿論、夏は此嚴島が誠に綺麗で、蚊も居らず水も良し、潮も清潔であるから海水浴をするにも便利であると云ふやうなことを知つて、段々此處に出掛けて來る。來れば必ず金を落して歸るから、唯だ是までの通りに日本人の見物や參詣人位に目を着けずに、世界各國より來る旅行人の爲に便宜を圖るやうにしたならば、此土地の繁昌は容易く出來ることゝ考へる。

外國人の待遇に就ては能く心を致さなければならぬが、外國人は至つて待遇の仕易いものである。例へば宿屋を拵へて泊らせるにしても、日本人と違つて、食事をする時も極つて居れば、起きるにも寢るにも時が極つて居る。日本人などは夜半時分に歸つて來て熱い汁でなければ飯を食はぬなどゝ云ふやうに時ならぬ時分に急なことを言うて困らせることがあるが、歐米人はさう云ふことはない。故に食事の時にチャンと手當さへすれば宜しい。若し時ならぬ時分に食事を求めたら、其の用意がしてないと言つて斷つても先方で不足は言へぬ風習になつて居るから誠に待遇は容易い。唯だ親切に、何事も欺かずして信用を得るやうにさへすれば宜しいのである。此れは何れの國人に對してもさうなければならぬが、殊に彼等に對しては此の點に注意しなければなら

ぬ。當地に於ても能く此に目を着けて行くやうになつたら餘程宜からうと考へる。

日本に來遊する外國人に對しては、旅行案内が出來て居る。其旅行案内には、何處其處はどう云ふ風景である、何處其處にはどう云ふ宿屋がある、其處には通辯が居るか居らぬか、旅籠屋の一人前の宿賃が幾ら位で茶代が幾ら位であるか、何處から何處まではドンナ鐵道があるか、或は人力でなければ行かれぬなどと云ふことが委しく書いてある。此れは彼等の來遊に至極便利を與へ、且つ遊意を惹起する種となるのであるから、此の嚴島の風致なども案内記に載せる工夫をしなければならぬ。さうすれば、順繰に廻つて當地にも遊びに來るものが餘程殖えやうと思ふ。さう云ふ所に目を着けて土地の繁昌を圖るやうにしなければならぬ。嚴島は靈地である、神佛の靈驗の地であると云ふやうなことで、他國から來る人の往來交通に妨げを與へぬやうに考へなければならぬ。今日の世の中は昔と違つて伊勢の神廟と雖も外國人が參拜が出來る。德川氏時代には日光では大名でも廟所の前に行つて遠方からお辭儀しか出來なかつたのであるが、今は如何なる外國人でも近くに行つて其結構を見ることが出來る。又富士山などは、修業者でなければ殆んど行かれないことになつて居つたが、今では女でも上られる。各地共に、さう云ふことになつて居る。故に譯も分らぬ癖に宗教的觀念などを以て土地の繁昌を妨げるやうなことはさせぬやうにせんと可かぬ。如何に他國の人だからと云つても、何も日本で尊敬するものを汚さうと思ふ者はありはしない。併し物を知らぬと、知つて居る者に不敬をしたと云ふ觀念を起させるやうな事をするかも知らぬが、それは寃罪といふものである。日本人で西洋に旅行する者も澤山あるが、其等が西洋に行つたとて、耶蘇の教堂などに於けるお辭儀の仕方を知らう道理がない。中には外國の目から見たらば隨分不敬なことしないとも限らぬ。けれども決してそれを咎める者はない。風習が違ふから、分らう道理がないと言つて恕して居るのである。それで外國人を親切に丁寧に世話をしてやれば、その親切なる仕方に感心して、先方も亦丁寧になるのである。日本の壯士の肩を聳かし兵兒帶を結び、妙な下駄を穿いて目を怒からし人が通れば肩で突當ると云ふが如きは、甚だ見苦しいのみならず、人たる者の爲すべからざることである。動もすると、田舍の物の分らぬ者をさう云ふ風習に誘導するやうな風が近頃見えるが、甚だ宜しからぬことである。本當の愛國心とか勇氣とか云ふものは、其の樣な肩を聳かしたり目を怒らしたりするやうなものではない。日清戰爭の時に日本の兵士は勇氣を出して働いたが、あゝ云ふ勇氣を出すべき所に出すのが本當の勇氣であつて、猥りに之れを出すと、效能を失つて他に卑められる。彼等は決して故意に靈地を汚さうと思つて來るのではないから、若し彼等が間違をしたならば、日本の風習は斯う云ふも

のであると云つて教へてやりさへすれば宜しいのである。

今日は經濟的の觀念を以て其土地の繁榮を心掛けなければならぬ時である。今各國が互に爭つて居るのは金儲であつて、自分の國に金を落させる仕掛方法を爭つて行つて居る。豪らさうなことを言つて見た所が、算盤を持つて見ると、年が年中損をして居るやうなことでは役に立たぬ。金を儲ければ、其結果として軍艦も出來れば、大砲も出來、砲臺も出來れば、水雷もまた出來る。之に反して金がなければ今日は何も出來ぬ。學校を起して教育を施すことも出來ぬ。斯樣な仕掛方法で日本に金の落ちる高は、外國との貿易の算盤には乘つて來ない。外國貿易の計算は海關稅の調べで分る。如何なる物が幾ら這入つて其代金が幾らで、其れに對する稅金が幾らで、又外國に出た物が幾らで、其價が幾ら其の稅金が幾らと云ふように、勘定が其儘分るが、旅行に來た者が我國に落して行く金の勘定は海關稅では分らない。然らば何に因つて分ると云ふと、外國と取引をして居る銀行の爲替を調べて見ると凡そ分る。外國人が旅行をして日本に來ると、大概金を爲替で取寄せる。此方に在る西洋の銀行か或は日本の銀行に宛てゝ爲替を振出す。日本の銀行は正金銀行一つしかないが、向ふから派出してある銀行は幾つもある。其銀行の書付も條約改正が實行せられゝば皆分る。また外國人は自分で持つて來た金を銀行に預け入をして留置くから爲替の金や、預入の金を銀行に就て調べて見ると、日本は幾ら此の種の金が這入つて來たかゞ分る。其金は實にエライ額であらうと思ふ。各國に於ても始終其處へは眼を着けて居る。佛蘭西や英吉利は物産の製造が非常に盛んな國で、裝飾や芝居なども非常に盛な所であるから、世界中の人が皆遊びに行つて、其處に落す金額は非常なものである。貿易上では負けても、落ちる金が非常に多いから、差引いて見ると矢張り勝つて居ることになる。外國から物を餘計に買つても、金の出入の上から見ると負けては居らぬのである。國の繁昌を圖るには、成るたけさう云ふ仕掛方法にして餘計金の落ちる工夫をしなければならぬ。それも風土も惡るく景色も惡るいと云ふやうな所では、來いと言つても人が來やせんが、日本は先刻から申すやうに全國を擧げて大いなる庭園で、四方は海を以て取卷いて居るから、空氣の流通は宜し、經緯度の上から見ても熱帶地方や支那などに較べると、熱くなく寒くなく、天然の資本を持つて居つて、天然の風景に依つて金を餘計に儲ることが出來るやうになつて居る。就中當島の如きは昔から日本三景の一と言はれ、且つ水は清潔である。水は人の健康上には非常な關係がある。當島は、水のみでなく、土地も清潔であるから、計るべからざる利益が備つて居るのである。腐敗した水が多いとか或は惡水の捌け方が惡るいとか云ふやうな所には動もすると流行病が流行るが、本土の如きは右樣な虞は更にな

いから、健康上から見ても便宜である。斯樣な土地柄であれば、其土地の繁昌を圖ることは左程難かしくはないと思ふ。唯だ皆の目の着け所が改つて行きさへすれば、利益を圖ることが出來るのである。利益を圖る結果、其土地が富み其土地の富む結果、日本の富を增すのであるから、此地の保勝は自分も贊成をし且つ望んで居る事柄である。今日は諸君へ御注意の爲めに此事をお話し申して置きます。

日本現下の情勢

（明治三十二年六月十一日、廣島市眞菰春和園に於ける歡迎會に於て）

私がお話申さうと云ふ事柄は、唯だ一地方々々の利害に關係することでなくして、多くは日本全體の上に關係を有する事のみであります。此の如きお話をするのは、己れ自身の利益觀念からではない。私は多年國家の要路に在つて當然國務上に關し憂慮に堪へぬものがある所よりお話を申す次第であります。素より政治上の關係をお話申しますのでありますが、併し政黨の觀念とか或は目前日本に流行する所の政論の是非得失を論斷するやうな譯合ではない。大體の形勢に就て自分の希望する點よりしてお話申すのである。殊に當地は戰爭中大纛を進められて永らく御駐蹕の場所でもありまするし、當時鳳輦に侍して永く往來して居つたやうな譯合がもあります故に自から當地有志諸君には面識の人も多いのである。旁々以て諸君の御要求に對して心情默止し難く、一片の誠心をお話し申す心組である。

歲月の經過は迅速なるもので、眞に古人の所謂歲月は隙駒の如しと云ふ通り夢中に過ぎて、當地に御駐輦の時より既に五ヶ年を經過して居りますが、此間に東洋の形勢は變遷一ならずして、前日の形勢と相對比する時は雲泥の差を來して居ることは諸君の御熟知のことゝ存じまするが、之に就て大略のお話を申して置きます。固より歲月の永き間には東洋の形勢も幾度か變遷を爲し、殊に此四五十年間には餘程な變遷を致して居りまするが、僅かな短日月の間に異常なる變遷を爲したことは全く輓近のことであつて、殆ど東洋の歷史上に、未だ曾て此の如き偉大なる變遷を爲したことはない。日清戰爭は明治廿八年四月十七日馬關條約の締結に依て戰局を結びましたが、三十年の冬期に及んで支那の北部に膠州灣の事件が起り、續いて其前岸なる遼東半島に所謂旅順、大連灣の事件が起り、之に次ぐに昨年に於いては威海衞の事が起り、又南部に於ては雲南、廣東、廣西各州の不割讓の事が起り、當年に及んでは三門灣の事が起ると云ふやうに、支那の形勢は爾來殆ど寧日なしと云ふ有樣である。支那の地圖を展覽すれば、北より南に涉つて支那

の東三洲、卽ち蒙古、滿洲、遼東の三洲がありますが、其の海岸は今日では殆ど支那の有なりや否や疑問の形勢に在る。更らに直隸灣を越えて前岸に渡れば山東省で、その威海衞には英國が據り、膠州灣には獨逸が據り、また其前岸の江蘇に於ては本年に至つて種々な事件が起つて居る。轉じて楊子江を隔てゝ向ふへ渡れば浙江で、三門灣の在る所であるが、此處は伊太利の事件に關係して居る。之れに次いで其の隣接の福建は日本が不割讓の約束を支那に向つて請求した所である。其次は廣東廣西兩省であるが、此れは佛國が不割讓の約束をして居る。此の如く支那の海岸には、各國爭うて據らむとして居る。今日の東洋問題は、獨り東洋に止まらず、世界列强が重大問題として注視する所である。我日本國は幸にして王政復古、維新の盛事を擧げられ開國の國是方針を定められて以來、歐米諸國の採る所と其揆を一にして進んだ結果、此頽瀾の渦中に投ぜらるゝことなく、毅然として東海の濱に屹立の位地を占めて居るのは、諸君と共に慶賀せざるを得ぬのであります。是れ全く　今上陛下の聖明と、吾等が先輩として仰ぐ所の諸公の忠誠とに因るのであつて、其恩澤は日本國民たる者が永く記憶に存せなければならぬ事柄である。

東洋の形勢は今日は此の如き變態を來たして居るが、前途に於て如何なる變遷を來すかと云ふことは、是れ亦大體洞觀し易いことである。縱令如何なる變遷が來らうとも、我日本國は之に對して所謂金甌無缺の帝室を戴いて國を泰山の安きに置くべき政策を取らなければならぬ。之れ上下一致の希望と信じて疑はぬ所でありますが、之に對する軍國の經營は種々な方面に涉らなければならぬ。獨り陸海軍の擴張のみに止らずして、日本全體の國力を發達せしめ、國民文化の程度を進め、從つて資力の增殖を勉めねばならぬ。これが今日の急務であると考へる。目下の形勢を熟〻考へると頗る多事多端であつて、事に應じて着々其歩を誤らぬやうにせぬと不測の災に陷る虞れがある。故に今後は獨り自國の事のみに眼を注いで居ることは出來ぬ。國家の安危は常に外國と相對する所より生ずるのでありますから、玆に歐洲輓近の進歩をお話し申しませう。

御一新以來、總ての方針政策國是として採つて來た所のものは、成るべく日本國民をして內外の事情に熟通せしめ、國民の力と發達とに依つて國家を維持しようと云ふのであるから、國民が封建時代の如くに眠つて居るのは、單に今日の時代に於て不可なるのみならず、又國家の希望する所でもない。衆庶の眼を開くを以つて頗る必要なることゝして、國家と云ふ組織の上から眼を注いで見なければならぬのであります。歐羅巴、亞米利加の開けたのも、固より長歲月の長きに亘つて出來たことでありまするが、之を我國が始めて開港した時の事に溯つて其時代と今日とを較べて見ると實に異常な違ひである。我國の開港は嘉永安政卽ち癸丑、甲寅の際でありますが、

癸丑の歳より計算すると、當年で四十七年になる。然らば四十七年前には日本國は如何なる形勢に居つたか。又歐羅巴、亞米利加の形勢はどうであつたか。四十七年前は西曆の千八百五十三四年に當りますが、當時歐羅巴に於ては露土の戰爭が起つて、英佛が同盟して土耳古を助けて露西亞に當り、遂に露西亞の敗軍となつて、黑海に軍艦を浮べることが出來ぬと云ふ條約を取結ぶことと成つた。當時は蒸汽船の發達が甚だ不十分で、軍艦抔も今日の如く强大なる力を備へて居らず、多くは木船の軍艦であつた。然るに其の後軍艦は蒸汽と電氣の作用に依て異常なる進歩を爲し、その外百般の事に對する此四十五六年間の歐羅巴の進歩は意想外である。歐洲諸國が支那の港を開いたのは其以前の事であります。支那が衰弱に赴いたのは、太平の夢に耽つて永く軍國の經營を忘却した爲めに、兩三回歐羅巴諸國と戰爭をする度に敗を取つたからであります。其時用ひた兵數などは僅かなものであるが、每時敗軍に終つて爲めに、脅迫的に開國しなければならぬことになつたのである。

夫れより引續いて歐羅巴諸國に於ける海上の交通や海上の武備の整頓が益〻進んで、此れと共に歐羅巴の力が殆ど地球全面の上に及んで來たのであります。其力の及ぶ所即ち威力の及ぶ所、從つて貿易力の附隨する所であつて、其の勢力の及んで行く有樣は殆ど朝暾の海波の間を出でゝ天に冲するが如くであります。近頃の雜誌に海軍の進歩の度合を相對照して書いてあるから、之を一寸お話申したいと考へる。

歐羅巴に於て海軍國と稱するは、英吉利、佛蘭西、露西亞、獨逸、伊太利でありますが、此等の國に於て千八百七十九年から千八百八十八年に至る十ケ年間に於ける海軍の發達を見ると、英國は十七艘の戰鬪艦を製造して其噸數は十六萬七百噸。佛蘭西は此間に於て十四艘の戰鬪艦を製造して其噸數は十三萬千二百噸。露西亞は其間に四艘の戰鬪艦を製造して四萬噸。獨逸は其間に於て二艘の軍艦を製造して一萬二千六百噸。伊太利は其間に於て六隻の軍艦を造つて七萬九千一百噸を增した。それから第二期に當るべき千八百八十九年から九十八年即ち昨年までの戰鬪艦の增加を見ると、英國は其間に於て二十六艘の戰鬪艦を造つて三十六萬三千三百噸の增加となり、佛蘭西は十五艘の戰鬪艦を造つて十五萬四千六百噸となり、露西亞は十六艘の戰鬪艦を造つて十四萬五千一百噸となり、獨逸は七艘の戰鬪艦を造つて七萬三千九百噸となり、伊太利は四艘の軍艦を造つて四萬三千七百噸となり、此處に至り亞米利加が始て加つて、其間に十三艘の軍艦を造つて十二萬千二百噸となつた。此の如くに以前の十年期と次の十年期とを比較して見ると、非常に海軍力が進歩して居る。これは昨年迄の計算でありますが、昨年に至つて製造中のもの及計畫

を了して建造に着手すべきものは、英國は軍艦十二艘十七萬噸、佛蘭西は二艘二萬七千二百噸、露西亞は八艘九萬三千四百噸、獨逸は五艘五萬五千噸、日本は一等甲鐵艦三艘四萬五千噸である。此二十年間及昨年に於て英國の戰鬪艦は五十五艘增して六十九萬四千噸、佛蘭西は三十一艘增して三十一萬三千噸、露西亞は二十八艘增して二十七萬八千五百噸、獨逸は十四艘增して十四萬千五百噸、日本は六艘增して八萬五千噸、伊太利は十三艘增して十六萬三千三百噸、亞米利加は十九艘增して十九萬九千二百噸、是れは有効なる四千噸以上の戰鬪艦で、之に亞ぐに巡洋艦なるものがありますが、其增加は、千八百八十九年から九十八年の十箇年に於て、英國は七十四艘の巡洋艦を造つて此噸數が四十一萬八千噸、佛蘭西は三十五艘十三萬五千三百噸、露西亞は三艘增して二萬六千九百噸、獨逸は十六艘で六萬四千八百噸、日本は十四艘增して六萬五千四百噸、伊太利は十艘增して三萬三千七百噸、合衆國は十五艘增して六萬六千六百噸。また昨年に於て計畫したる巡洋艦の數は、英國が十九艘で十八萬四千四百噸、佛蘭西が十六艘で十二萬四百噸、露西亞が二十一艘で十一萬九千噸、獨逸が五艘で二萬〇二百噸、日本が七艘で四萬八千四百噸、伊太利が四艘で二萬三千七百噸、合衆國が九艘で五萬二千五百噸。此巡洋艦の兩者を合すると、英國は九十三艘にして六十萬二千四百噸、佛蘭西は五十一艘にして二十五萬五千六百噸、露西亞は二十四艘にして十三萬五千九百噸、獨逸は二十一艘にして八萬五千噸、日本は二十一艘にして十一萬三千八百噸、伊太利は十四艘にして五萬七千三百噸、合衆國は二十四艘にして十一萬九千百噸であるが、近年に至つて各國の造艦は世界中何れも押しなべて非常に增加して居る。

日本今日の造艦計畫は、決して前岸の支那朝鮮や南洋諸島や印度地方などが標準ではなく、所謂世界列國と稱する歐米諸國の强大國を標準にせねばならぬ。其等の國々に對して、我が國體を失墜せしめぬやうに計畫を實行して參らねばならぬ。故に今の歐米各國進步の形勢を前以てお話申した譯合であります。

此の如き形勢に在るにも拘らず、軍備擴張に就ては今日衆議紛々たる有樣でありますが、國家を何處までも安全に維持し其國威を墜さぬやうにする爲めには、豫め其力を養成して置くことが必要である。縱令目下に於ては敵にあらざるも、何れの日にか敵となるべき國々の爲す所に對して備を要するのであつて、敵が生じて後に總ての計畫をすると云ふことは、到底出來得べからざることである。故に勿論國家が安全で何れの國とも禍端を啓くことのないやうに希望はするが、一朝事齟齬するに至れば已むを得ず干戈も交へなければならぬから、種々の計畫をせざるを得ぬのである。

然らば內に在つてはどうかと言ふと、內に在つても戰爭以前と戰爭以後とは大いに形勢を變じて居る。戰爭以前のことは暫く措いて戰爭以後の狀態に就てお話申すと、戰爭平定匆々の間に俄に實業などが膨脹して、此れが爲めに一時大いに資本に窮する有樣に立至つたが、私は、此等の事業をして失墜せしめぬやうに之を維持し之を進めて行くのが政治上一番大切な事柄と考へて、昨年も不肖を顧みず已を得ず重ねて奉職をせんければならぬことになつて、一月より六月まで奉職して經濟上の實況を段々取調べて見た所が、此の計畫の偉大なるに實は驚いたやうな次第である。獨り政府が財力の限りを盡して百般の事を計畫して居るのみならず、民間のものも其財源が之に及び得るや否やを各個人に於て確めることが出來ぬ故に、各〻競うて事業に着手したやうな譯でありまして、遂に一時は如何なる不幸の位地に陷るかと人をして憂慮の念を抱かしめましたが、種々な手段が其間にも施行されて、先づ今日の所では大患に至らずして喰止まるであらうと云ふ見込が付きまして、誠に日本國の爲めに喜ぶべきことである。併し全體の外の形勢より考へて見ると、ナカ〳〵猶豫して居る所ではない。今日に於ては、國民の勉强と忍耐力と愛國心とに依つて此難關を突破して、日本の經濟社會卽ち農工商業の發達を益〻圖つて其基礎を鞏固にして國力の源泉となるやうに、此處數年を出でずして進步せしむることが必要であつて、之を除けば他は皆空論であると言はざることを得ぬ。此等の事を十分に進めて行く爲めには、政治上から申せば、是非とも政府が永續せねばならぬ。政黨政派や其の他のものゝ爭の爲めに紛爭を極めて、政府が屢〻計畫を立てゝも未だ着手に至らずして政府が代り、或は漸く其の端を啓いても政府の代るが爲めに其の手段方法も從つて變ると云ふが如きことになると、誠に國家の不幸であると考へますから、どうか政府が永續して國家の事業の益〻擧るやうに一方に於いては望み、又た政黨なども空論に陷らずして日本の國政及經濟上の事業に就て能く講究する所があつて、常に國の利害得失と共に步を進めるやうにありたい、今日の政黨は現今の如き種々な弊習に陷ることなく大いに耳目を改めて益〻改良を加へるやうにせねばならぬ。此黨善く彼黨惡しと云うて批評的に申すので決してはない。政黨なるものは憲法政治の下に於て必要である。假令必要でなくても無くすることが出來ぬ以上は、之を益〻進めて良くするの外はない。政黨なるものは古今の歷史や他國の例を見ても、其存立は免かる能はざる所でありますから、是れが存立する以上は必ず國の利害得失と相俟つて行くやうになりたいと云ふ考で、其說を主張して參つたのである。

今度はモウ一つ進んで憲法政治と云ふことに就てお話を申したいと存じます。憲法政治となつた以上は、人民が幾ら厭やでも仕方がない。國民全體の敎育が進んで其の智識が發達すれば自か

ら利害得失が分り易くなり、利害得失が分り易くなれば其の利害を論ずることは自然の結果として來らなければならぬ。人に物を知らしめて而して其の利害得失を言はしめざらんと欲するのは猶ほ木に緣つて魚を求むるが如きの論で、決して行はれやうがない。既に之れを論議せしむることになれば、それ相當の施設をせねばならぬ。是れ卽ち議會を設けざるを得ぬ所以である。既に議會を設ければ、一般の國政殊に國家百般の事業に對する豫算の內容を國民に對して明かに知らしむると同時に、又其是非得失を論評せしめねばならぬ、それ故に憲法政治の下に於ては厭やでも應でも國民は政治の事を知らぬ譯には參らぬのである。之を知るのは國民の一つの義務であると言つても宜い。各種の實業は總て此經濟的の問題に關係するものであつて、之を細かに云ふと經濟的の問題は一個人の利害にも關係すれば、又一つの法人の上にも關係する譯であるが、自己の利害の上から論じても政治の得失を蔑視することは出來ぬ。憲法政治とは、國民の耳目を明にして、國政の利害得失より國家百般の事は勿論、社會經濟的の事までも分明に分らせやうと云ふ仕掛であるから、國民に成るたけ國政の事は明に知らしむるやうにしなければならぬ。又知つて貰はなければならぬのである。之を知れば國民に取つて勿論利益があるが、所謂治者被治者の關係上から論じて見ても、政府は成るたけ國民が利害得失を明に知つて呉れゝば誠に宜しい。憲法政治に於ては財政の事などには少しも秘密はない。各種の統計表或は豫算を以て之を世に公けにして居るのみならず、議會の論議に任せるのである。之を知つて歲入出を明にすれば種々な風說流言に驚かさるゝことなく、また疑惑の念より物の誤解を來すやうな憂も少なくなる。是れ文明の政治に於て最も美なる點であると考へる。憲法政治の利益が此度合にまで達しないと、矢張り封建時代或は專制時代のやうに政治が他人の物になる。此の如きは憲法政治に於て甚だ忌むべきことであると考へる。右樣な譯であるから之を知らしむることが頗る必要であつて、之を知らしむる爲には敎育の普及が非常に必要と成つて參るのである。今日の所では敎育の進步と資力の增殖と國政に明かならしめることとが最も必要である。其國政に明かなる所より發足して、國民が內より進んで參るやうにならぬと、將來の國運を進展せしむる上に於て妨げがあると考へる。

維新以來の國是方針として開國の主義を取り、今日に至つて萬國文明の社中に入つて、以つて尊むべきことを尊み卑むべきことを卑み、守るべことを守り、斥くべきことを斥けて行くと云ふやうにしてこそ、始めて事の善惡是非を國と國との間に於て等しく論ずることが出來るのでありますが、此方針に依つて一國の獨立を保つて行くことになると、國家なるものは自國の版圖內に於ては其國法を完全に行はんければならぬ。否らざれば決して獨立の權能を全うしたものとは言

へないのである。之れに依つて維新以來上下共に希望して來た所の所謂對等の條約なるものも既に締結せられて、今や將に本年の七月即ち來月より之を實行するのであるが、此れが實行されゝば如何なることになるかと云ふことも、亦た考へざるを得ぬ。萬一にも改正條約に種々な障碍が起つて行はれないやうなことになると、一度文明諸國の社中に入つたものが其の社中より外づさるゝことになる。然る時には、獨り國家の面目を汚すのみならず、將來に於て國運の進歩を圖る事が出來ぬやうになる。勿論さういふ事は杞憂であらうが、併し對等條約の實施は日本開闢以來未だ曾てあらざる事であるから、政府も國民も愼重なる態度を取つて愼重に事を處して、成るべく彼我の葛藤を起さず、勿論之に就て行ふべき事や取るべき事を徒らに枉げて服從する必要はないが、彼我人種の異同に依つて殊更に其處置を變化するやうな事のないやうにありたいと希望する。謂はゞ日本國は殆んど古今獨歩の試驗を行はるゝのである。歐米諸國は、人種、風俗、宗教の異なる國と對等の條約を行つたことは未だ曾てない、然るに日本國が憲法政治と云ふ文明の政治を行ふを見て、日本國の文明の基礎の慥かな事を各國も認めて、日本國の要求を至當として、之を容れて對等の條約を締んで、之を實行することになつたのである。

之れを要するに、今日世界に於て國を成すもの殆んど數百ありと雖も、其の中世界の海軍國と謂はるゝは英吉利、佛蘭西、露西亞、獨逸、日本、伊太利であつて、之に亞米利加を加へて居るのであるが、此等の諸國と日本が肩を比べて、此外に地球の上に海軍國はないと云ふまでに言はれて居るのであるから、一層力を養うて益〻强大に進まねばならぬ。既に列强の伍伴に入れば、固より盡さなければならぬ義務の附帶して來るのは當然のことである。權利と云ふものは單獨に發するものにあらずして、之に伴ふに必らず義務を以てするものである。其の義務を怠つて權利を得んと欲しても、到底出來る次第ではありませぬ。國力の增進するに從つて國威は發揚する譯で、國威の發揚に依つて國家の位地も上る。國家の位地が上れば、從つて國民の態度も之に應じなければならぬのである。故に我日本國の爲めに切に望望して國民の誠實なる愛國心に訴へる爲めに、今日の日本は此の如き形勢であると云ふことを諸君が熟知されて、國に對するの責任義務を果さるゝやうにありたいと云ふ一念よりして、斯やうにお話しを申す次第であります。

實業の發達と國力の伸張

（明治三十二年七月十六日、宇都宮市舊城館に於ける實業家招待會に於て）

諸君。私は當地實業家諸君の招待を蒙り、過日有志の總代が大磯の草廬を叩かれて私に當地に

罷出て愚見を陳述致すやうにと云ふの請求でありましたから、其御厚意の在る所に應じて今日當地に參り、諸君と此處に於て面晤の榮を得るのは頗る衷心に欣幸と致す所であります。私は政治に就いて所謂公會の演說などをするのは誠に昨今のことでありまして、未だ十分なる經驗を得て居る者ではない。故に今日まで政黨に從事する諸君、或は演說に巧みなる諸子と匹敵する演說を爲すなどゝ云ふことは決して出來るものではありません。併ながら諸君の厚意に對へむと欲する所よりして、自己が平素胸中に確信して居る所を一と通り御話し申す積りである。

先づ私は、明治維新以來今日に至るまでの間に、當初國家の方針國是として定められた所の所謂宏謨なるものは着々其歩を進めて、既に列擧されたるものは其端緒を開かれて、大綱は既に擧つて居ると云ふことを確信するのであります。其大綱なるものは何かと云ふと、諸君も御熟知の通りに、維新の初めに當つて、我天皇陛下の祖宗に御誓ひに相成つた所の五事の御誓文に基いて居るのでありまして、此の五事の御誓文に基いて居る所の大綱は既に擧つて居ると確信するのである。私は必ずしも御誓文の文意に從つて之を解釋致すのではない。王政復古に從つて開國の主義方針を定められたが、それは抑〻如何なる理由に依るかと云ふと、我日本國は東海の一隅に在つて世界の各國とは交通を遮斷し、唯だ一國内の治安を圖つて居つた國でありましたが、四海交通の便が開けた以來、各國互に往來交通を始めて、彼の癸丑甲寅の歳に亞米利加の爲めに、海門を叩かれ、乃ち舊幕時代に始めて通商の門戸を開いたのであります。而して世界各國の輓近に於ける形勢は異常なる進歩であると確認して開國の方針を採られた譯でありますが、此方針を採つたのは必ずしも開國の方針其物が目的ではなくて、國家の獨立を圖り益〻己れの進取の氣象を養成して以て日本國なるものを大にせんとするの希望であつたのであります。此れが爲めには種々犧牲に供したものがある。如何なるものが犧牲に供せられたかと云ふと、鎌倉以來七百年の間、我日本の形勢は、國内の爭奪に依つて、遂に國家の權力が悉く武門の掌中に歸して居つたのである。所謂大名士族なる者に日本の國權は左右されて居つたのであるが、一部の大名或は士族に日本國家の權力を委ねて置いては日本の統一を圖ることは出來ぬ。即ち開國の國是を實行する上に於ては封建を廢して、以て國家統治の權力は　天皇親ら御總攬に相成つて、而して之に參與する參政の權を人民に與へ、君主と臣民との二つを以て日本國を維持し、日本國の將來益〻進歩することを圖らうと云ふことに成つたのである。即ち國力を歸一すると云ふことが主眼である。而して國力を歸一した上に何をするかと云ふと、獨り内政を整へ一國の安寧を謀ることのみに安んぜず、日本國を世界の全面に現して、以て益〻日本國の强大を圖らうと云ふのが目的であるのであ

ります。

是が爲めに封建を廢し、特種の權利、權力を得て居つた者を悉く廢してしまつて、前申す通り統治の權は　天皇之を統べ、一國の伸張は國民と共に之れを圖ると云ふ方針でありますから、國民の力を益〻進めて行かなければならぬ。國民の力を進めるのは、即ち國力を進める所以なのであります。此國民の力即ち國力なるものは如何なるものであるかといふと、人民の資力と人民の腦力、此二つの者が進まなければならぬ。此二つの者が進むのは一は無形的の進步、一は有形的の進步でありまして、この二つの進步が相待つて國家の進運を圖るのである。玆に所謂無形的の進步とは敎育の發達する謂であつて、また有形的の進步とは即ち實業を益〻進步せしむることである。此等の大綱は維新以來三十年の歲月を經て既に擧つて、今殘る所のものは、之を益〻進步せしめて當初の目的に適はしむることである。而して其れを進步せしめてどうするかと云へば、世界列强と雄を爭ふ希望に歸するのである。世界列强と雄を爭ふとは如何なることであるかと云ふと、必らずしも干戈を以て、即ち鐵砲や刀を以て、叩き合ふ擊ち合ふと云ふことではないが、唯だ他より侵さるゝ時には已むことを得ぬから、即ち自ら衞つて自ら進むやうにしなければならぬ。然らば自から衞り、自ら進むとは何であるか、雄を爭ふとは何であるかと云へば、國力を進めて以て他の列强と競爭的に進むと云ふことである。之に就いて一と通り御話をしたいと考へるのであります。

輓近、歐羅巴、亞米利加の進步の形勢は如何と云ふに、彼の亞米利加の此の百年間に於ける經濟學上の變遷を見ると、異常なる變化を來して居る。昔は戰爭をすると云つても唯だ單に國を取り或ひは名譽の爲めにすると云ふ風でありましたが、それが段〻進步して、戰爭も所謂利益なるものと相伴はなければならぬと云ふやうに、戰爭の上に於いても變化を致して參つて居る。固より一二の取除きはありまするが、彼の進步の歷史を繙けば、今の經濟の有樣は實業の進步であることが窺はれる。然らば實業とは如何なるものであるかと云ふに、之を平たく申せば農業、工業商業であるが、農業は土地に限られて居る者であるから、限られた範圍に於て農業を進める外はない。然るに商工業の進步に至つては、必ずしも一國內に限る譯のものではない。他國と相駢行し他國と相交涉して進むのである。此商工業の進步は世界に有力なる影響を與へたものである。之を解釋し易く申して見ると、自己の製造する所のもの又は自己の農產物等を成るたけ他國に餘計に賣り込んで、他國よりは成る丈け餘計に物を買はぬやうにすることから起つて居る。他國へ餘計に物を賣込んで他所から餘計に物を買はなければ、差引何が殘るかと云ふと金で、金を其國

に積む結果になるのである。金を其國に積むと云ふことは手段でありまするが、單に金を積むのみならず、其金を使つた結果として何が來るかと云ふに、即ち兵力を强めることも出來れば、又一國內治に於ても異常なる效力を與へて、學事なり衛生上なり萬事に應じて、以て一國人民の地位を高めることが出來るのである。古人も既に「衣食足つて禮節を知る」と言うて居るが、衣食と云ふのは即ち國を富ますことに當り、禮節を知ると云ふのは即ち國民文化の度合の進むことに當るのであります。私は今個人的に言ふのではない。社會的に論ずるのである。成るべく一國國民の文化を進めると同時に一國の利益を失はぬやうにし、其れが爲めに商、工業の進步を圖らねばならぬのであつて、歐米諸國の經濟觀の變遷は輓近に至つて此の如く進んで居るのである。而して其結果たるや、或は他國に向つて貿易を爲すことを要求し、又他國へ工業物を賣込み、或は他國の粗造品を買込んで己れの製造所に於て製造して他國に販賣するといふやうに段々進んで參つた、從つて衣食も足り、衛生上のことも進み、人々銘々文化の度合が進み、施いて人口の繁殖と成つたのである。而して其人口繁殖の結果はどうであるかと云ふと、今や四方に屬地を求めて以て己れの人民を成るたけ方々へ植付けやうとして居る。此百年間の開け方を見ると、其目的は事と共に進んで參つて居ります。其事と共に進む譯はどうであるかと云ふと、蒸汽の發明が起り電氣の發明が起り、蒸汽電氣に次いでは水力利用の發明に依つて所謂交通機關運搬機關なるものが非常の進みを爲した。言を換へて云へば、電信の如きは交通の機關であつて蒸汽船や鐵道は運搬の機關である。此二者が段々進行して參るに從て、地球の全體を見渡すと厚薄の異同はありますが、地球上に殆ど交通の出來ぬ所はないやうになつて來たのであります。此の如くにして此交通運搬の機關の發達は商、工業の進步を促して、今や各國の爭うて其政略とする所のものは商、工業のことに基いて居るのである。之を以て國家の方針として居るのである。今は成るべく自國の商業、工業を他國に負けぬやうにしようと各國は餘程努めて居る有樣であつて、輓近に至て起る所の戰爭などは何が根據であるかと云ふと、多くは商、工業の利益を他に押擴めるに當つて他から妨げられるのを防ぐ爲めとか、或は自ら進んで其商工業を世界の上に擴充しやうと云ふ目的から起ると云ふやうな譯である。故に外交の政略に於ても、また軍事に於ても、自國の商、工業を保護することが唯一の目的と今日は相成つて居る。然るに此商、工業を發達せしめんと欲すれば、國民の力に據るの外はないのであつて、國民の勤勉、國民の進取の氣象を養成して、以つて其目的を達しなければならぬのである。海陸軍を置いて之れを擴張して行く所以のものも、商、工業の利益を成るべく擴充しようと云ふのが目的である。固より本來の目的は、一國の防禦即ち

他國から侵されないやうに防禦することになるのであるが、延いては己の商工業を發達せしむるゝために力の及ぶ限り海、陸軍の力を養成して、以つて其商工業を何處までも押し擴めて行かねばならぬ。前申す所の列强と雄を爭ふと云ふのは卽ち此趣意である。此れは今日の世界の形勢に於て大概定まつた所の議論であつて、決して一家の私言ではないのである。

我日本に於ても、此れが唯一の開國の方針として採られた所の目的でありまする。此開國の方針の目的は、唯だ退いて己れを護ると云ふ位地に止まらず、進んで自ら己れを擴めて行かうと云ふ考より起つて居ることは明治初年より明にせられて居ることであつて、其れが段々今日は押擴つて參つたのである。如何なる力に依つて押擴まつたかと云ふと、元は無論開國の方針より出たのであるが、また日本國民の强力と忍耐力とに因るのである。故に諸君自らが與つて大いに力のあることゝ考へる。然れども未だ猶ほ今日を以て滿足することは出來ぬ。ナカナカ此位のことで足る所ではない。マダモッと大いに進めねばならぬ。其爲めに封建も廢し、其爲めに日本國民に自由も與へて、各〻人の選む所人の力の及ぶ所に依つて發達せしめたのである、要するに國家の目的は國力を增進せしむるに在りと云ふ所よりして、進んで憲法政治も開かるゝことに成つたのである。自由の目的を達すると云つても、獨り自由の目的のみが達して國が衰弱するならば、其様な自由は實は自由ではない。人をして選む所に適從せしめ、各々其好む所、長ずる所に依つて發達せしめて、それに由て國家の富强を持來してこそ眞に自由の目的は達したのである。

右の如くにして維新の宏謨なるものは、國家の國是を定め、開國の方針を取り是が爲めに封建を廢し、日本國民に各種の自由を與へ、之に教育を授け、而して其自由、權利、教育等を以て國民の力を益〻伸張せしむる希望であつたのである。今日と三十年の以前とを比較して見ると、其功績の顯著なることは實に偉大なるものである。今此處に其統計表を擧げて諸君の前に條列するは徒に冗長に涉るのみであつて、各地方に於ても、學問のある諸君又は平素に其等の事を研究する人は、各々其統計に依つて三十年前と三十年後の今日とを比較して見らるれば、一目の下に瞭然たることゝ考へるに依つて、私が之を贅言する必要はないが、兎に角日本の進步は異常なるものである。而して今は憲法政治が實行されて居るが、それも唯今申す通りの目的の爲めであるから、其目的に適合するやうに憲法政治を運用して行かなければならぬ。故に憲法政治を運用して行く上に就いては、上下成るべく相調和して、爭ふべきことは國の利益不利益、國民の利益不利益と云ふ點に止めねばならぬ。一部人民の利益などをを以て一國全體のことを犧牲に供するのはその目的でない。

故に國家の政治は時に或は一部人民の爲めに不利益となることもあるが、其等の不利益は國の爲めに犧牲に供せざるを得ぬ。是れが卽ち政治の範圍に入るの端緒であります。抑〻政治とは如何なるものであるかと云ふと、一國の利益に關係して始めて之を政治と云ふことが出來るのである。其以下に於ては地方々々の事たるに過ぎない。地方々々の事に至るまで日本全國歸一することは到底出來ぬ。例へば宇都宮地方のことを關西地方に均しく行はうと云つても、必ずしも出來るものではない。皆其土地々々の希望があり又特殊な習慣があるのである。乃ち其地方々々の特殊な事情に依つて事を行つて宜しいと云ふ譯からして、自治の制度も施さるゝのであるが、苟も國家の事となつた以上には日本全體を見通さなければならぬ。即ち日本全體を見、日本國の利害得失を見た上から起つてこそ、之を政治と稱ふるのである。此政治に就て又必要なことがある。彼の黨派とか政黨とか云ふものも、無論衆を集めるもの故、其意見を一にすることは難かしいことであつて、各々意見を異にするのが自然である。而して其の意見の異同が黨派を生ずる譯であるが、一國の方針に至ては其異同以上に居らなければならぬ。抑〻一國の方針とは何であるかと云へば、前申す通り、日本國を打つて一團結と爲し、以て雄を世界の列强と爭ふのが即ち之れであつて、此觀念は各黨派の爭ふべき點でなく、日本全國の方針である。是れだけは異同の外に居らなければならぬ。而して其方針なるものを實行し其目的を達するに於て如何なる手段方法を採るべきかと云ふ點が、政黨などの意見を異にする所となるのであります。此の如く、其手段方法に至つては、已むを得ず見る所を異にせざるを得ぬのであるが、其之を異にする所以は、即ち此政黨の政策とし彼の政黨の政策として、各〻別箇の方針を執るからである。而して其の方針とする所が所謂國家の生存、國家の進取の政策に適へば、其方針として支持する所と國家の目的と喰合ひ、之に反するものは國家の目的と喰合はぬことになる。之に就いては、黨派の異同に拘はらず、國民の眼力を以て見別を能く着けて行かなければならぬ。衆の見る所は自から公平なるものであると考へるが、其衆の見る所と國家の利害とを問ふの中間に在る政治家とか政黨とか云ふ者は能く之を見別けて、以て國家の目的を達し、國民の利益になるやうにしなければならぬ。苟も國民の利益を謀る以上は、一時の感情一時の好惡に拘はらず、終局の目的を達するやうにしなければならぬと私は確信するのであります。

先づ大體に於て右樣な譯であるか、前來申す通りに輓近に於ける經濟の情態が各國共に大に變遷して、今日は卽ち商、工業を以て世界各國は相互に爭うて居る有樣である。故に農業の如きは未成品を造り出すのであるから之に深く注意を加へて、決して怠るべからざることであるが、併

し尙之に工業を加へて而して商業の機關に依つて他國へ餘計に賣込み、或は他國から未成品を取つて之を我國で製造して、更に之を他國へ賣出しても宜しい。何れにしても算盤珠の勘定に合ふて他國に賣ることが出來さへすれば宜しいのである。今日は實に此農工商なるものが國家を生存せしめ國家を發達せしむるの手段と相成つて居つて、軍事も外交も、之と相伴はなければならぬと云ふことに相成つて居るのである。其故に昨年選擧法の改正案も當時在職中に於て議會に提出した譯である。國家立法の部に於て國家の進運を圖るの目的を達しやうと云ふならば、どうしても商工業に從事して居る所の人を立法部に現はして行かなければならぬ。而して是が爲に農者は果して不利を被るかと云へば、決してさうではない。農者は他所の安い農產物を取つて己の品質の良いものを他國へ賣れば、其れだけの利益があると云ふ譯であつて、其農產物を賣るに就いても、所謂商業の機關に依らなければ出來ぬのである。商工業に從事する者と云へば、內地に於ても多く商業を營む者であるが、さればとて單純に內地の商、工業の關係のみに止ることは殆どなく、必ずや他國の商、工業の進步の有樣、即ち他國が商、工業に於て如何なることをして居るかと云ふことに始終注目をしなければ出來ぬのである。例へば日本に於て種々な物を製造するとして見ても、若し他國から日本人の好む物を日本よりも安く拵えて賣込まれるやうでは、內地の品物は其れが爲に賣れぬことになるから、製造品にしても始終他國と競爭的にしなければならぬ。競爭的に之れをしやうとすれば內地に於て安値な物を造つて、他所の物の這入つて來る防禦をするやうにしなければならぬ。故に多く商工業に從事する者は、獨り內地の事に着目するのみならず、外國の事も深く注意するのである。此注意は頗る必要なことである。而して之に注意する所の商、工業者は、取りも直さず人民の外交政略を扱ふ譯で、即ち人民の外交家と云つても宜しいのである。故に其貿易等の關係に明なる者を以て、自國の損失を來すことなく、其利益を謀つて行かしめやうとするならば、各地の市等より商、工業に從事する者の代表者を立法部に出させるやうにしなければならぬと云ふ譯からして選擧法の改正案も出たのでありましたが、未だ之を實行するに至らぬのであります。右樣の理由でありますから、此次の議會に於ては彼の選擧法改正案の通過するやうに、諸君の盡力あらむことを希望する譯である。之に對して反對の議論を唱ふる者もあるが、其反對の議論たるや多くは僅に一局部の議論であつて、全體に涉るの議論はどうもない樣に見える。凡そ國家全體の利益に着目した上でなければ、此の如き重大なる法案の通過は固より出來る譯ではありませんが、前來申す如く重要なる事件が相伴て居る以上は、此法案の通過することは國家全體の發達を望むに於て頗る必要なことである。

次に一と通りお話を申したいのは軍備擴張である。軍備の擴張に就いては、世間に或は不必要と云ふ議論があるが、今世界の列强が日本の軍備擴張を如何に見て居るかと云ふことを考へなければならぬ。今や世界中に國を成すものは多いが、呼んで海軍國とせらるゝものは總に七ケ國に過ぎない。即ち英國を以て第一とし、之に亞ぐに佛蘭西、而して獨逸、露西亞、伊太利、亞米利加、日本と斯うなつて居る。其外には海軍國と指さるゝ國はない。日本が近來海陸軍の擴張を圖つたので、各國は我日本を海軍の七大强國の一に數へて居る。若も此事が弄びの道具にする目的であるならば、國民の負擔を輕くする爲めに、之を擴張せぬ方が宜しいが、有力な者は他に尊敬さるゝと同時に又他に怖わがられるものである、かういふ位地に在て他と相對すれば話が着き易い、蔑視さるゝに至れば、國の利益も國の權力も一朝にして無くなることになるのである。陸軍の力に於ても、亦各國の見る所、殆ど之と同樣である。陸軍の力に於ても、國を七ッ數へて、陸軍の强大なる力を有つて居る國は獨逸、佛蘭西、露西亞を首と致して居るが、之に亞いで墺太利英吉利、伊太利、日本、是れだけである。而して東洋に事ある日に當つて、日本國が右に向くか左に向くかに就いては、容易ならざる關係を生ずると各國は明かに見て居るのである。日本國の國威は、必ずしも鐵砲を打出した時に始めて現はるゝ譯ではない。平素に於て力を蓄へて置けば其れだけに矢張勘定の中に入れられて、他より輕蔑をされぬのであります。故に軍備の擴張と云ふことは、國家の利益や國家の權力を維持する上に於ても、また頗る必要なことである。此の如く軍備擴張は必要であるから、國民の負擔も已むを得ず重くして、他より侵されぬ防備をなし、間接に國民の生存を保護するのである。故に直接には不利益の如く見ゆるが、結局は保護すると云ふ目的の爲に已むを得ぬ次第である。

兵力の養成は此の如く必要である。又兵力の維持も斯くの如く必要である。今列强諸國に於ても、兵力維持のことは大に問題と成つて居る。我日本が兵力の爲めに費す所の費用の俄かに增加したことは、日本の國力に比して隨分エライものであるが、各國に於ては之よりもモット甚しいものがある。此節和蘭の都のヘーグと云ふ所で露西亞皇帝陛下の提議に依て平和會議が開かれて居るが、此會議の開かれた原因は各國の間に戰鬪を歇めると云ふ誠に仁義の趣旨に基いたことで至極結構なことであるが、裏面より穿つて歐羅巴の學者抔が何と言つて居るかと云ふと、此れは經濟的の問題である、經濟上より見る時は、兵力の增進を各國が競爭的に進めて行けば殆ど底止する所を知らぬことになつて、終には國民の負擔に堪へざるの域に陷りはせんかと云ふやうな觀念よりして、此提議をせられたものであると云ふ議論をする者が中には間々ある。是れは固より

全體の議論ではないが、是亦一理ある議論と思ふ。併しながら何れの國でも兵力を削減することは出來ぬ。ナゼ出來ぬかと云へば、有力なる國が皆此通りやつて居るから、互に減ぜぬ間に獨り我れのみ減ずる樣なことがあつたら他より侵さるゝ虞がある故に、出來ぬのである。日本國も亦然りで、他所が兵力を減ずれば日本國も減じて、國民の負擔を兵力の上から輕くして以て外の事業に投じて、他の事業をして益〻進ましむるやうになれば、此上もないことであるが、如何とも仕難い。他國から侵されぬやうに、即ち自强、自衛の途を講じやうとすれば、どうしても兵力を緩めることが出來ぬのであつて、遂に前期の議會に於いても矢張り增稅を爲すの已むを得ざるに至つて政府は其の案を提出し、議會の多數の贊成に依つて議決せられた譯でありまするが、是れ國家の目的に於て已むを得ざるの事にして、其目的と相合して行く所の政略を採るにあらざれば到底將來に於て國家の消長と伴ふことは難いのである。

凡そ今日の事情は此の如くでありまする。從つて前申した趣旨を以て、諸君に向つて、否寧ろ日本全體の國民に向つて希望する所は、所謂實業即ち商、工業の發達を謀らねばならぬといふことである、謀つて而して是を唯だ內に於て足れりとせずして、前岸なる支那或は南洋諸島又朝鮮地方、進んでは歐羅巴、亞米利加にも此商、工業を進步せしめて、彼と競爭し得るの位地にまで至つて、其の結果國力を增進するやうにならなければならぬと考へまするが、此れは日本全國の實業家諸君に向つて希望する外はないのであります。依つて、敢て自己の意見を吐いて、獨り己れのみを利することなく、將來國運の益〻隆盛ならんことを希望し、乃ち諸君に此の如きの所見を陳述致す譯であります。餘り長過ぎると御退屈でありませうから、諸君の御厚意に對して爰に深く感謝の意を述べて退席致します。

實政治に對する學者の責任

（明治三十二年十二月九日國家學會に於て）

國家學會に出席して會員諸君に面會するは今日初めてなれども、國家學會の設立は既に十有餘年の前に在り。予は當初より名義上にては會員の一人たる榮を有するも、是れ迄境遇を異にし、且つ自身の怠慢により此席に列するの機を得ざりしが、今回當會の有志諸君より此會に臨んで愚見を陳述せよとの要求ありしに由り、今日出席したり。

所謂國家學會と云ふ名稱の下に在る會員諸君は、皆學識を備へて最も高尙なる思想を有せらるる諸君子と信ぜり。故に予は諸君に向ひ、專門的の事項を談話せざるべし。學問上に於ては、諸

君は予より先進者なりと考ふればなり。然れども予は多年身を國事に委ね居る事故、自己の經驗又は自己の今日に於て抱懷する所見の一端を陳述せば、或は諸君の參考となるべく、又予は諸君の之れに就いての高見を他日に聽くことを得ば、自己研鑽の資料とするを得べしと信ずるなり。

國家國會は所謂國家學と云へる表題の下にあるゆゑ、サイエンス・オヴ・ステート又はポリチカル・サイエンスに就いて研磨せらるゝものと解釋して差支へなからん。

維新以來數十年を經たる今日に於て、既に諸般學術の進歩を見ると雖も、尙ほ學者が和漢洋に分れ互に見解を異にし、學問上錯雜して未だ其歸一を見ざる有樣にあることは、予の甚だ憂慮する所なり。固より洋學の我國に開けしは僅少なる歲月なれば、一般國民の思想の混淆せるは無理ならずとするも、學者社會に於ては此一國人心を誘導し行くリーヂング・スピリットを持たざるべからざるに、彼此其解釋を異にし種々混淆するものあるが如し。例へばコンセプション・オヴ・ステート或はコンセプション・オヴ・ソベレンチーの意義の如きは、漢學者の說く所と洋學者の說く所と神道學者の唱ふる所とは大に逕庭あるべく、充分學識を有する者なれば迷ふことはあらざるべきも、多數人民はそれだけの學力を有すること能はざれば、其聽く所に依て大に觀念を異にするを免れず。此事たる、今日日本の形勢を解釋する上に於て、毫厘の差千里の謬を來すの虞あれば、予は窃に憂慮措く能はざるものなり。又憲法政治の上に於ても尙ほ種々の異說を抱くものあれば、學者諸君は率先して充分に國民の誤解を正すことに勉められむことを希望して止まざるなり。

今日に於て一般の社會に行はるゝ新聞雜誌に記載する所は、固より有力なる學者の說も多けれども、普通の談話に於て政治家と云ふ名稱を有せる人々の說は其題目に於ては稍〻同一なるも、其題目以外に涉るときは大に異なる所あり。之が爲めに日本の憲法が——勿論存在し居るには相違なきも——憲法其物が適當に行はれ居るや否や、及び憲法に依て享有する權能が行はれ居るや否やに至りては、大に迷を生ずる事多し。蓋し立憲政治の君主卽ちコンスチチーショナル・モナークなるものは專制時代の君主と同視すべからざるは言ふまでも無く、均しく政府主權と稱するも、封建時代の君主國の觀念を以て解釋するときは大に誤らざるを得ず。是れ動もすれば混同の基となり、學者たる人々亦往々其間に我田引水的の解釋を下して、國民の理會心に適應するや否やを顧みざるが如き有樣あり。此等は學者諸君に於て充分に注意し、國民をして誤解に陷らしめざる樣盡力あらんことを望まざるを得ず。

日本は開國以來僅に三四十年の星霜を經るに過ぎざれば、學問上に於て異常なる迅速の進歩を

爲し能はざるは已むを得ざることなるも、世界の大勢に隨伴して或る度合までに進まざれば、一國の地位を高むることは能はざるを恐る。而して今や日本は鋭意長足の進歩を圖らざるを得ざる境遇に際せり。何となれば與國近年の進歩は實に著るしきものにして、我進まずんば彼に伴ふを得ず、彼に伴ふを得ずんば國の品位を墜落するに至るや明なればなり。

今予が與國と云ひしは文明諸國の謂にして、即ち歐米諸國を指すものなるが、歐米諸國に於ける進歩發達の如何に驚くべきかは、予が言ふまでも無く諸君は既に新聞雜誌又は著書に於て充分に諒解せられしなるべく、又中には洋行して實見されし者もあるべく、又洋行せし人の談話を聽きて承知せられし人もあるべし。然れども歐米に赴きたる人の中にも平素の境遇に於て各々解釋を異にし、又其人の學問の素養の有無に依て其見聞する所の觀念を異にすることあり。兎に角日本に於て學業を修め又は技術に長じ、而して歐米に赴き專門的の事を研究して歸りし者の所見を聽き、又は日本に於て實業に從事し經驗ある人の所見を聽き、或は又法律政治經濟等を實際に經驗し、其力ある人の所見を聽き、而して己れ自ら書を讀んで研磨せる所に依と合せて考ふれば歐米の進歩の度合は略ぼ想像し得らるゝ所なるべきが、其の度合たる實に異常なるものなり。僅かに三十年前までは一萬有餘里を隔つと思ひし歐洲も、今日は恰も對岸の感をなすに至れり。故に學識なき味者は姑らく之を措き、予は專ら學者に向て能く此進歩の程度を比較し以て各種の事項を討究あらんことを望まざるを得ず。例へば兵力さへ強ければ他國より侵さるゝの虞なしとか、或は國民の愛國心さへ發達すれば憂ふるに足らずとか云ふ如き簡單なる考案にては、此錯綜紛雜したる國務を調理し行くことは能はざるなり。是非とも今日は、各種の事柄につきて、それ〴〵皆日本の進歩の後れざるやう、其發達を圖らざるべからず。殊に日本の形勢は、開國以來年所を經る久しからざるを以て海外の情況に精通する人に乏しく、加ふるに學問の素養ある者は國民全體より算して甚だ少數なりとすれば、此際學者は學問上の智識と實驗に得たる智識とを以て、此多數なる國民を誘導し社會全面を啓導し、善く我國の後圖を誤らしめざること最も必要なり。

今目前に横はる事柄の中には實に重大なる問題あり。これは國家の觀念又は政治上の觀念を以て見れば直に釋然として了解し得べし。既に諸君も知らるゝ如く、封建政治を打破し憲法政治を布かれたる今日、此憲法政治なるものが如何に進歩を爲せしか、如何に進歩しつゝあるかと云はむに、若し一歩を誤れば憲法政治は或は東洋には不適當にはあらずやとの觀察を下す者あるに至るやも計る可らず。是れ予が憂ふる所なり。然れども現今の人類社會に於て、未だ憲法政治より善良なる政體の發見せられざるが事實なる以上、吾人は之に改良を加へて、專ら憲法政治の進歩

發達に勉むるの外なきを確信す。

而して憲法政治に於て最も大切なることは行政事務なるが、之が機軸を定め標準を立るは、多くは立法部の事務に屬するを以て、立法行政二つながら其進歩を圖らざるべからず。立法部も、行政事項に通ぜざれば、到底國家に適するの良法律を作ること能はざるべし。而して之が改良は學識を備へ世務に實驗ある立法者の出づるにあらざれば、到底望むべきにあらず。此等の改良の任も亦學て學者たる諸君に望まざるを得ず。其任に當らるゝことは諸君の責任なるべきを信ず。

抑〻行政の事たる機關的の組織にして、其機關を扱ふ行政官には、命令に服從して事を執る者と法律及規程の範圍内の權力によりて命令を發する責任者との區別ありと雖も、何れも其事に須要の學識なからざるべからざるは勿論、幷せて實地の熟練あるを要す。是恰も醫師が醫學の外に治術の手腕を具へざるべからざるが如し。要するに立法者となるも行政官となるも、壯年の時に於て學識を備へたる者にあらざれば、其事に當るを得ず。

今や歐米諸國に於ても、議會の議員と爲り又は政府に在りて政務を掌る人々は、皆學識を備へたる者にて、是等の人々は悉く大學出身と云ふには非ず。他にて修學せし者もあれども、兎に角高等の教育を受け相當の學識を有せざる者なし。勿論此等諸國の政治界に於ても、多少の紛亂あるは時々新聞紙等に散見する所なるが、是れは夫れ〳〵原因のあることにして、我日本の如く秩序なき紛擾を極めし國は多く之なきに似たり。唯我國は幼稚なりと云ふの一言を以て之を蔽ふの外なし。而して之が改良發達を圖ることは是非とも諸君に望まざるを得ざるなり。

日本は今より三四十年前に於ては、所謂封建鎖國の國なりき。此時に於て始めて亞米利加に海門を叩かれて開港となり、殆ど十年間は、上下共に、之を如何に處せば可なりやといふことに就き其方向に迷ひ、大に狼狽を極めたり。之が統御を爲す者の方針明ならざる時に當つては、固より一國の人心の混亂を極むるは當然のことにて、或は攘夷と云ひ或は鎖國と稱し或は開國と稱ふる者ありて、此時の日本の形勢は累卵よりも尚危かりき。而して此累卵の危きに居る所の人民は如何なる感覺を有せるかと云に、他より見るときは甚だ危險なりしにも拘はらず、自身は其安危を知らざりしなり。今より回顧すれば實に累卵當ならざる有樣なりしも、王政復古の詔勅は今上陛下の即位と共に發せられ、始めて開國の規模も立ち、茲に一轉して國勢の進歩を來たし、國民は其間に於て國家と云ふ觀念の爲めに其自已の心力を竭せしことも亦異常なりき。而して此國民が充分なる力を國家に致す爲めには亦國民の束縛を解きて自由を與へざるべからずとの說起り、竟に憲法政治となりたる次第なるが、其間には種〻の階級を經、或は法律の改正を行ひ、或は行

政組織の變更を行ひ而して其結果、條約改正とまで進み來りしなり。

條約改正は維新以來の宿望にして隨分至難の業たりしなり。其改正の至難なりしは固よりなれども、此成功は吾人國民の最も幸榮とする所なるが、之と同時に日本國の負ふ所の責務の重きを加へたることを知らざるべからず。

凡そ他國と交際を爲すに當り、同等の位置に立てば同等の禮遇を享くるものなり。國と國とが對等となれば、國民と國民とも亦對等の位置を有するものなれば、國の內外を問はず、相互に商業を營み或は他の事業に從事する上に就て內外人の調和を謀り、遠人を懷くるの熱心なかるべからず、若し其調和を缺くことあらむには、國家の權力を擴張せしむる支障となり、遂に彼我の平和を永遠に保全すること能はざるに至らん。

近來の形勢に就ては學者諸君は既に熱知せらるゝ所ならむが、多數國民中往々甚だ面白からざる擧動を現す者あり。是れ獨り自然の結果にあらずして、或は戰勝の結果も幾分か之に伴ひしものならむが、多少頑陋なる排外思想の浮び來りしものゝ如し。顧ふに是等は、固より無學の徒が事理を辨せざるより起せしことなるべけれど、善く此輩を誘導して以て其宜しきに從はしむるを勉むるは、一國の最も高尙なる思想を有する學者の責任なりと予は信ぜり。

此に於て、予は條約改正を實行せらるゝときの詔勅に就き一言せざるを得ず。此詔勅は固より諸君の記憶に存することなれども、予が近頃各地方を巡遊視察する所を以てすれば、兎角人民の此詔勅に重きを置くの觀念薄きが如きを感ぜり。是等も學者諸君が率先して普ねく人民に知らしむるやう力を盡されむことを望む。此詔勅は、言ふまでも無く、改正條約實施に付き一般國民の應さに執るべき方針を示されたるものなれば、國民に於て重きを置かざるべからざるは勿論にして、彼の敎育に關する詔勅と輕重なきものと信ず。敎育の詔勅に付ては學者皆之を崇重し隨て國民之に重きを置くも、其詔勅の解釋に於ては學者各自に我田引水的の意見を挿めり。例へば敎官頑固の人なれば其說く所頑固に、開けたる頭腦を有する人なれば其說く所開明に、各々隨意の解釋を下すが如き、予の甚だ遺憾とする所なり。條約改正の詔勅は既に官報に新聞紙に揭載せられしことゆゑ、諸君は充分に記憶せらるゝことゝは信ずれども、今日の事態最も大切なるものなれば、予は今此に諸君の前に於て恭く之を捧讀すべし。

朕祖宗の遺烈に賴り紀綱を振ひ治化を施き內國運の隆昌を致し外列國の交誼を敦くすることを得たり而して朕か年來の宿望たる條約の改訂は規畫を悉し交涉を累ねて竟に締盟各國と妥協を遂くるに至る玆に其の實施の期に迨ひて帝國の責任重きを加ふると共に列國の和親愈〻其の基

礎を鞏くしたるは朕が中心の欣榮とする所なり

朕は忠實公に奉するに厚き臣民の深く朕が意を體して開國の國是に恪遵し億兆心を一にして善く遠人に交り國民の品位を保ち帝國の光輝を發揚するに努めむことを庶幾ふ

朕が在廷の臣僚は朕か爲に新條約を施行するの責に任し百官有司を飭し愼重措置中外臣民をして均しく其の惠澤を享けて憾なからしめ以て列國の和好を永遠に鞏固ならしめむことを期せよ

聖旨斯の如し。今日に於て此優渥なる聖旨を充分に遵奉せざれば、日本の位置を傷け、日本の國威の發揚を妨ぐるに至らむ。國民の擧動が文明諸國の人民と其軌を一にすればこそ、彼我對等たるを得べきなれ。東京の如き多數の人口を有する場所にては、多少行屆き難き事情もあらんが、兎に角全國中に於て最も文化の進みたる帝都なれば、事理を辨へたる者割合に多く居るにも拘らず、漫に肩を怒らし腕を扼して外國婦人に突當り、或は弱き者を押倒すと云ふ如き事實の近來往々外交家社會の話頭に上り、或は外國人の怨聲を聞くに至るは、實に憂慮に堪へざる所なり。是等は固より當局官吏の注意を要することなれども、人民も亦自ら注意し、傍ら學者諸君に於て善く之を誘導して過ち無からしむることを切望す。國民をして愛國心を培養せしむることの必要なるは勿論なるも、斯る暴慢の所業を以て愛國心なりと誤信することあらば、他の國人に迷惑を及ぼし、我が國威を失墜せしむるの恐あり。予は此頃前岸なる露國の浦鹽斯德、ハボロスカ邊を旅行せし我國人の話を聞くに、土地荒漠人口稀疎にして樹木の間を汽車の通行するあるのみ。或場所の如きは唯兵士の居住するを見るのみなるが、日本人が鐵道の停車場に行けるとき、其人は大禮服を着たる文官にもあらず、又金モールを附けたる武官にもあらずして、唯商業視察の爲めに旅行せる一個人たりしに拘はらず、彼國人は其日本人たることを知ると同時に注意を惹起し、場内に充滿せる兵士も、時間待合せの爲めビールを飲みて樂み居たる者までも、各〻席を立ちて日本人に腰掛を讓るが如き有樣なりしかば、實に大國民の氣風は斯くばかりのものかなと驚歎の外なかりきと云へり。實に然り然るに我國にては何だ、外國人の癖に、エラサウに眞中に座はつてなどゝ怖ろしき劍幕にて外國人を立退かしむる如きことを往々見受るも、是等は甚だ宜しからざることなり。

諸君も知らるゝ如く、平素國家に海陸軍の設あるは不虞に備ふる爲にして、他國と戰端を開くは國權の發動に依らざるべからず。然るに若し兵士一個人が平生外人に對し粗暴なる擧動を爲すことあらんか。年中外國と紛爭を爲すの有樣に陷らん。豈深く儆めざるべけんや、左れば凡そ軍人たる者は平素は成るたけ穩和に人に接し、一朝事ありて軍令の下に敵に向へば勇猛なるにあら

ざれば、眞に文明的の軍人とは言ふを得ざるべし。軍人にして已に然り、況や普通人民たるものに於て一層の注意戒愼を要するは言を須たざるなり。

外國人の我國に來れる者は誠に少數にて、其少數なる者は我國に來りて如何なる事を爲すかと云ふに、多くは商業に從事し、或は旅行の爲に渡來する等、他意あるにあらず。故に日本に來れば一身の安固を日本法權の下に托するものなるに、此等の人に向ひ肩を怒らして衝當り、或は瓦礫を投じて快とするなど、事小なるに似て而かも頗る重大なる干繫を有せり。特に各國を代表する外交官の如きは、外國の君主に對し派遣せられたるものにして、我國家は最も鄭重に之を待遇せざる可からず。知らずや、我國家を代表せる外交官が歐米諸國に於て如何に敬重せられつゝあるかを。此事に就て、予は何れの時にか談話を試み注意を喚起せむと思ひしも、尋常無責任の人に向ひ喋々するも益少しと思ひ居りしに、幸ひ今日此席に於て學識ある諸君又は學識を養ひつゝある諸君と相見るを得たれば、抱懷する所の所感を取て之を諸君の前に愬ふ。諸君たる者、爾來斯る過ちの無き樣、我國人を誘導せられんことを希望す。蓋し之を望むは諸君を措て他にあらずと考ふればなり。實に日本後來の隆盛を圖るは諸君の責任とす。今日の元老とか或は元老政治家とか云ふ者は、多くは六十歳以上の人々にして、人壽に限りあるの定なれば到底永續の望なし。殊に是等の人々は如何なる時に生れしかと云ふに、日本刀を横へ腕を扼して其强きを示したる時代なれば、今日の國家學などの話をするも腦髓に入るべき樣もなし、又今日より之に注入するも年一年と老衰萎縮するのみ。之に反して學者の頭腦はカルチベートすればするたけ擴がり、其耕作に應じて著しき效果を見るを得ん。故に斯る談話を諸君に爲し置かば。他日諸君は一般人民を誘導する位置に立ち、之を行はむには、一般の國民も之に靡くべく、又其方法手段に於ては或は之を筆にするも可ならむ、或は談話を以て導くも可ならむ、又獨り此會席に集まりし諸君のみならず、諸君の親友も他に多くあらむ、是等の諸君とも謀られ、大いに誘導せられんことを望む。是れ實に予の希望にして又諸君の責務たるを疑はず。

再び歐羅巴の進歩に立戻りて概言すれば、歐洲に於いて學者のアソシエーションが勢力を得て氣焔を高めたるは近來異常の出來事にして、今までは百姓議員や寄集りの政黨を以て社會を組織せし時代もありしが、三四十年以來歐羅巴の形勢も大に其趣を異にし、文學者、法學者、醫學者、實業者各自の團結力頗る鞏固となり、從て總ての商工業或は航海運搬の事業に至るまで團結力强くして、他に對するの競爭上多大の利便を占むるに至れり。然るに日本の有樣を見れば、一般の事業は進歩せしが如きも、例へば鐵道を敷設するも、如何なる會社を起すも、唯株券の價格

を增すことにのみ心を用て、事業其物の發達如何を顧る者極めて少なし。是れ甚だ遺憾なることにて、予は常に此等の事に通曉せる人に向つて嘆聲を發せり。唯株券の價格や配當の多きことのみを望めば、鐵道にありては自然に道路の修繕を怠たり、機關車の腐朽をも顧みず、唯目前の利益にのみ是れ走ると云ふ如き有樣に陷らむ。斯る事業は到底永續を豫期すべからざるものにて、假令事業は長足の進歩を爲すと雖も、斯る有樣にては、歐洲に於ける資本に富み且つ經驗力の强き者及び其事物の頻繁として來る所のものに到底抵抗し得べからざるのみならず、其結果遂に我れは彼れに及ばずと云ふ悲境に沈まんのみ。各種の事業に從事する者は固より、政治家たる諸君も、各〻其專門の事柄に就て充分其進歩を企圖せられむことを希望す。

又政治家となる者又は政治の範圍內にある人々に希望することあり。今の世に在る政黨や政治屋にては甚だ危險なるものと考ふ。帝國議會開けてより以來、政治上に於て其結果如何と云ふに大體に於ては進歩發達を來し、尙引續き將來に好望を有すとは、予が本年の二月十一日に憲法發布の紀念日なるの故を以て國務大臣其他の人々を招き、一と通り憲法政體に從事せしことより其以來の經過に至るまでの經緯を談話を爲したる際、言明せるが如し。唯尙ほ此以上一層の進歩改良を、行政の上にも立法の上にも望まざるべからず。然れども其人を得ざれば、假令如何なる名法あるも之を用ふること能はざるを信ず。元來議會は立法府にして、國家重要の機關の一に備はり大政に參與するものなるに、其議員たるもの私利を營むに汲々たらば、如何にして善良なる國政を施くを得んや。國政に參與するは卽ち國家を世話する公の業なれば、徒に權力を握り私利を圖るべきにあらざるや言を待たず。然るに屢〻醜聞を耳にする事あるは予の深く悲しむ所なり。又實業社會若くは學者社會に在ては多く政黨を嫌ふ者あり。政黨を嫌ふは差支なきも、國家社會の今日に於ては、何物か政治に關係せざるものありや。各種の事業も之を細分すれば皆政治に關係するものにして、日本國四千餘萬の人口中より其資格を以て代議士を選定するに、或は諸君が議員となりて國家の利益を圖り、以て國家を泰山の安きに置くも亦諸君の務めなれば、學者たると實業家たるとを問はず、總て政治の範圍に居るものなれば、政黨に就ても亦心を用の、其の發達を促して、安んじて國務を附托するに足るものたらしむるに努められんことを希望す。

留別の辭

（明治三十四年九月十三日、末松男爵邸に於ける留別園遊會に於いて）

諸君。予が今回の外遊に對し、海陸旅行共に安全に歸着せんことを希望せられたる諸君の厚情

に對し、深く感謝の意を表す。予は醫師の切なる勸告により、健康恢復の爲外遊の意を決せり。然かも僅々一二週間の海上旅行のみにては充分に其の效なきを思ひ、遂に海陸旅行を試むるに決し、將に歐米漫遊の途に上らんとす。凡そ旅行は或は健康の爲めにし、或は研究の爲にし、若しくは利益の爲めにす。予が旅行は其の主とする所、素より健康の爲めなるも、歐米に於ける緊要の場所は大抵漫遊し、見聞の及ぶ丈は各種の事物を觀察し、知名の人物を訪問して其の意見を叩き、殊に極東問題は刻下の大問題なれば、各地に赴いて其の影響する所如何を究め、場合によては卑見のある所を開陳するが如きこともあるべし。然かも予が旅行は政府を代表してに非らず若しくは政府の使節としてにも非らず、一個の伊藤博文としての旅行なれば、其の責任は總て此の伊藤一個に歸するものなり。即ち予が今回の旅行は健康と研究との爲めにして、是れに由りて予が政友會に總裁として諸君を統率する點に於て利益し、且つは諸君が國家に盡す所に於て稗益する所あらんことを期す。

諸君。予の旅行は、思ふに長き日子を要せざるべし。願くは諸君は、予の不在中に於ても、一意國家の爲めに盡瘁せられんことを望む。殊に予の暫時の間の旅行中に於て政友會が分裂するとか、若くは外間の中傷離間策に乘ぜしめらるゝとか云ふが如きことなく、諸君に於いては充分に此點に留意し、協同一致益〻國家の爲めに盡力せられんことを祈る。予は諸君の厚意を感謝し、諸君が本會の爲め國家の爲め充分に盡力せられんことを切望す。因て予は諸君と共に政友會の萬歲を唱へん。

歐米漫遊發途に臨み訓示

（明治三十四年九月十五日、政友會創立一週紀念會に於いて）

諸君。顧みれば昨年本月本日政友會發會式を擧行致して、諸君と共に私も又政友會員の一人に列するの榮を擔つて今日迄參りましたが、此間の經過に於ては只今末松男爵より述べられたる所で其大要を盡して居ると考へますが、私の不肖を以て諸君の長となつて今日迄經過し參つた其間には、諸君をして甚だ不快の念を感せしめた事が澤山有つたらうと、自分も大に慚愧する所であります。併し夫れにも拘らず、猶ほ諸君は私を總裁として、共に今日進行しつゝあると云ふことは、諸君に對して私が深く感謝する次第であります。今日、一週年を經過したる祝日に當つて、此祝意を表することを第一と致し、次には醫師の勸告に依て私が歐米漫遊の途に上るの期、將に一兩日に迫つて居る譯でありますから、暫く諸君にお別れを申す次第であります。醫師の勸告に

依て海上の空氣を吸ふことを勸められ、又旅行に於て幾分か目擊して自分の得る處も求めたいと考へる旨を、諸君に申上たいと存じます。

諸君。御承知の通り、晩近數年の間に於て、極東の形勢は日々の歐米諸國と交渉を重ねて段々接近を致して參る形勢でありますから、能く將來の爲めにも實地に研究を致すの必要があると考へる。病軀を以て充分の事は出來ぬか知りませぬが、視察上に於ては多少の得る所が有らうと考へます。畢竟、是れも自己の見聞に依て、諸君と共に進行する上に稗益する所あらんことを希望して居る次第であります。

目今の我國内の形勢を顧みれば、目前は尙小康の時でありまして、格別重大なる事項の到來する事も認めぬのであります。現在の政府の採つて居る所の方針方向に就ても、大體從來の政治と格別變態を來たすと云ふやうなことはない樣に思ひます。

我會の之に對する態度に於ては、成るべく諸君は熟慮されて輕躁のことのないやうにして、國家の爲めに圖らるゝことを希望致します。又現時の政府は黨派に依つた政府ではない。然れば之を敵視する必要もない。又敵黨といふ譯もない。故に政友會の之れに對する態度は、本年辭職後に於て、諸君に一應相談しましたが、爾來の經過に於きましては、格別異動はないと考へます。

成るべく國家の爲に親切にして、而して善意を以て之を迎へ、國家の爲めに不利益なることがあつたならば止むことを得んが、政治の要は國の利益を第一とし、次に自己の黨派の利害に及ばなければならぬから、私の切に諸君に希望する所は、成るべく政治上のことは熟慮して、輕擧のないやうにして最大黨派たるの地位を益〻鞏固にして、他よりも重ぜらるゝやうになつて參りたいと考へる。夫に付て、大體のことは一通り總務委員に話も致して置きました。私が不在中は、常務にある所の總務委員に依賴して置く積であります。依て私は松田君を總務委員長に指命した。緊急なる事は常務の總務委員會で執行して行く。又事の重大なる物は他の總務委員とも相談してやる。又別に協議員を作る積りであります。協議員は此前にも拵へてあつたのでありますが、人員を今少し增す積りであります。後より御報道に及びます。且つ來る議會に於る處の院内總理は毎々熟考の結果尾崎行雄君に一任する積りであります。總務委員長と院内總理とは共力協議して以て院内の事を行はせるといふ事に致して置きました。大要此通りに取極めて置て出立致す譯でありますが、議員諸君は成るたけ此際は共同一致の考を以て愼重の態度を採られんことを他迄私より御依賴を申して置きます。で國家の事と云ふものは豫定し難きことが多いので殊に國内のことのみではない、近來の狀勢に照らして見ると何時でも意外に事が發表する譯でありますが、

さういふ際は又別段のことであります。其事の起つた際に當つては殊更に夫に對する方針を特に定めなければならぬ。是等も大體は總務委員に依賴して置く積りであります。先づ目下の處に於て諸君に御話申さうといふものは是丈けに止まつて居りますが、誠に出立の際頗る繁劇で寸暇もなく、今も支那公使が尋ぬて來て居られ、十一時には又々露國公使に面會する約束が有ると云ふ樣な有樣で精しく御話する餘地がない。私の望む處は唯今申す處の愼重なる態度を執られ、國家の爲に十分熟慮を盡されて、而して他に向つて善意を以て之に當り、政友會と所見を異にする場合に反對しなければならぬと云ふ事は別段であるが、輕躁にして內部の紛議を釀すが如き事のない樣にありたいと云ふことを私は總裁の位地よりして諸君に御依賴申して置きます。暫く諸君と御別れ致しますに付、決して私は政友會の爲に慮ることを擲て居るような次第ではないのであるから、歸朝の上は又諸君と共に國家の爲めに盡力致したい積であります。今日の祝日に當つて微意を陳述致して置きます。

早稻田大學開校に際し所懷を述ぶ

（明治三十五年十月十九日）

校長閣下及諸君。歲月は隙駒の如しと申しますが、當東京專門學校の創立以來已に二十年の星霜を經過して玆に其記念會を開かれ、且つ早稻田大學開校の式を擧行せられるに就き、私も特に招待を蒙り、此席に列して蕪辭を呈するの榮を荷ひ、諸君に御面會致すのは、私に於て頗る滿足に存ずる所であります。爰に私が祝意を表すると同時に一の愚見を呈したいと考へます。當東京專門學校は當初我畏友たる大隈伯爵閣下の希望に依つて成立し、而して先刻來諸君の既に指名されたる所の當校職員の盡力に依つて今日の盛大に至つた。即ち大隈伯爵の熱心は勿論、職員諸君の奮勵盡瘁が二十年の星霜を經た今日赫灼たる光を放つに至つた譯でありまするが、愚見に據りますれば、當校の隆盛を致したのは、其基礎を鞏固にするに就て學校の經濟其宜きを得たといふ事が與つて大いに力のあつたものと存じまする。今や經濟上の關係は、國家に於ても敎育社會に於ても、官民共に最も注意を要する時と存じます。敎育に就て極手短にいへば、なるべく無用な費用を省いて有效なる敎育を施さねばならぬと云ふ事に官民共に深く注意を加へねばならぬと信じます。而して本校の如きは二十年來一厘一毛の官費を仰がずして其隆盛を致すと同時に絕へず怠らず改良を加へ、終に今日の盛大を見るに至り益〻基礎の鞏固となり行くは實に人をして一驚を喫せしむるに足る者があると信じます。私は是に於て本校の關係者たる大隈伯爵及職員諸君に

向つて頗る敬服の意を表せざるを得ない。固より當初に於ては大隈伯爵閣下が是が爲に私財を拋つて經營せられた所も多からうし、尙ほ全國の有志諸氏に告げて寄附を求められた所も多からうと存じますが、併し二十年間の久しきに於て此學校の經營に從事せられたる所の諸君が最も困難を感せられたるは經濟上の事であつたらうと存じます。即ち本校は經濟上の處置其宜きを得て始て今日の隆盛に立ち至つたものであると信じて疑はぬものであります。又之と同時に東京專門學校の教育は、從來營業的に流れて居ないと云ふことを確かに認める。其設備と申し其經濟の基礎と申し、私立學校中に於て甚だ稀に見る所と存じます。之を大いに世上の教育に從事する人々が參考に供するに足るものがあると認めるのであります。

次に一言すべきは、此東京專門學校を以て、政黨擴張の具と爲さんとするものゝ如く誤り見たるものが多いと云ふ一事であります。これは大隈伯爵の識量を誤認したものと認める。大隈伯爵は政治、教育共に熱心であるが、素より政治と教育の別を知つて居られる。學校教育の事業は之を政治の外に置き、教育機關を濫用して黨勢擴張の具とするの策は斷じて採らなかつた事は明かに認める。これは世の中の具眼の人には分つて居るか知らぬが、多くは之を誤解して居つた。私は局外者である。局外者の意見は却つて公平を失はないかも知れぬから、世上に向つて一言之を言明せざるを得ぬのであります。

尙ほ又當校は大學として、本日は開校の祝典を擧げられるに就ては、素より祝意を表するに躊躇致さぬのでありますが、私の淺學を以て教育の事を論ずるは甚だ當らぬかも知れぬが、併し所見を述べて其取捨は諸君の採擇に任せる積りである。抑〻專門の學問は終身の事業でありますが學校に就學するの目的は唯だ僅かに終身の事業の端緒を開く丈の事と考へる。で、眞に其專門學の發達をさせるのは、卒業の後の努力如何に在ると考へます。學校に於て學ぶ所は僅に其方法を知る丈けの事で、僅々數年の間學校に居つて深邃なる專門の智識を悉く知ると云ふ譯には參りませぬから、寧ろ其智識を得るの方法を學ぶのであると考へる。即ち後年社會に於て一層廣大なる智識を知得する爲に、必要なる腦力を在學中に養成するにありと考へる。又教育の目的に就ては往々私が教育專門家より聞く所に依れば、成るたけ偏倚せざるを以て貴しとする。此教育の偏倚するは甚だ危險であるが、學問の中に於ても殊に教育經濟政治法律等の學問、即ち社會的の學問に關するものに於て偏倚すれば、其危險は益〻甚しいと云ふ事を承はつて居ります。固より學問の目的たる、先刻來諸氏のお說の如く、實用的の人物を作り國家有爲の人材を養成すると云ふ點に就いては大いに同感であるのみならず、學問の目的は此の如くならざるべからずと存じまする